

「2020年東京オリンピック・パラリンピック  
に向けた千葉県戦略」取組実績  
(2022年3月)

2020年東京オリンピック・パラリンピック  
CHIBA推進会議

## 【目次】

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「オール千葉」体制図	… 1
戦略0 大会の成功・開催効果の全県への波及	… 2
戦略1 キャンプ・国際大会・MICE誘致	… 19
戦略2 競技力の向上・スポーツの普及	… 31
戦略3 成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化	… 46
戦略4 バリアフリー化の促進	… 53
戦略5 魅力ある観光地づくり	… 61
戦略6 外国人受入体制	… 70
戦略7 危機管理・安全対策	… 83
戦略8 機運の醸成・国際交流の促進	… 91
戦略9 戦略的な千葉の魅力発信	… 125
2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議委員名簿	… 134
専門部会の構成団体一覧	… 135
2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議の開催状況	… 136
2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議各専門部会の開催状況	… 137
2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議設置要綱	… 141
2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議専門部会設置要綱	… 144

### <凡例>

- 1 本資料は、東京2020大会に向けた平成26年度以降の県内の取組を整理したものです。
- 2 資料中、「元号+数字」のみの表記は年度を示しています。(例：「H27」→平成27年度)
- 3 各戦略の取組について、他の戦略にも関連する取組は、「再掲」と表記した上で関連する戦略にも掲載しています。なお、再掲先の記載は本文のみとし、表など参考情報は掲載していないため、詳細については再掲元の戦略を参照してください。

#### ※例 ホストタウンの推進【県・市町村】[H27～] 戦略8再掲

→当該取組の再掲元は戦略8であるため、参考情報は戦略8の記載を参照。

## 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「オール千葉」体制図

### 2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA 推進会議

#### 推進会議

会 長：熊谷千葉県知事

議 長：佐久間商工会議所連合会会長 副議長：新倉千葉大学名誉教授

委 員：各分野の代表者（経済、交通、観光、スポーツ、文化、国際交流、行政）

目 的：官民連携による取組を実施するための戦略の策定・推進を統括する

#### 専門部会

##### 0. 大会の成功・開催効果の全県への波及専門部会

<構成員：幕張新都心立地企業、観光・宿泊・交通の各関係団体、幕張メッセ、千葉市、県>

##### 1. キャンプ・国際大会・MICE誘致専門部会

<構成員：スポーツ・旅行・観光・宿泊・国際会議の各関係団体、大学、市町村、県>

##### 2. 競技力の向上・スポーツの普及専門部会

<構成員：スポーツ関係団体、大学、市町村、県>

##### 3. 成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化専門部会

<構成員：交通関係団体・事業者、官民連携組織、県>

##### 4. バリアフリー化の促進専門部会

<構成員：交通関係団体・事業者、宿泊・福祉・スポーツの各関係団体、市町村、県>

##### 5. 魅力ある観光地づくり専門部会

<構成員：観光・宿泊、旅行、交通、商工、医療、国際会議の各関係団体・事業者、大学、市町村、県>

##### 6. 外国人受入体制専門部会

<構成員：観光・宿泊、旅行、交通、商工、医療、国際交流、文化の各関係団体・事業者、大学、市町村、県>

##### 7. 危機管理・安全対策専門部会

<構成員：医療・衛生・防犯・警備の各関係団体、県>

##### 8. 機運の醸成・国際交流の促進専門部会

<構成員：国際交流、ボランティア、文化、教育の各関係団体、大学、市町村、県>

##### 9. 千葉の魅力発信専門部会

<構成員：報道機関、県>

## 戦略0 大会の成功・開催効果の全県への波及

戦略0「大会の成功・開催効果の全県への波及」においては、県内でのオリンピック競技の開催は、本県の国際的な魅力や知名度を高め、国際交流の推進、幕張メッセの競争力強化、将来を担う人づくりなどにおいても絶好のチャンスであり、大会の成功を通して、地域の活性化やスポーツ・文化の振興に確実に結びつけていくことが重要であるとの認識に基づき、本県の総力を集めた「チーム千葉」で取組を進めていくこととしました。

このため、選手達が大会で最高のパフォーマンスを発揮できるよう、競技会場の整備を進めるとともに、大会を機に訪れる多くの人々が快適に観戦や観光を楽しめるよう、周辺施設のバリアフリー化や多言語対応、危機管理・安全対策の推進を図り、オリンピック・パラリンピックの競技会場としてふさわしい環境の整備を図りました。

また、産学官民が一体となって、オリンピック・パラリンピックムーブメントを確実に推進するため、より多くの県民が大会に関わることができるボランティアの募集・養成を行うとともに、学校等におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進等を図りました。

さらに、本県で大会が開催される機会を捉え、事前キャンプの誘致や文化プログラムの実施など、県内全域でオリンピックに関連する取組を推進するとともに、大会を機に訪れる人々が県内を周遊する仕組みづくりなど、観光の一層の振興を図り、大会の開催効果を全県へ波及させることを目指しました。

### <主な取組実績>

#### 〇オリンピック・パラリンピックの競技会場にふさわしい環境の整備

競技会場及び会場周辺の施設整備や、オール千葉でのおもてなし機運の醸成など、大会を機に来県する人々の受入環境の整備等に取り組んだほか、テロや災害等への対応能力の向上を図り、大会を円滑に開催できるよう取り組みました。

#### ・ 競技会場及び競技会場周辺の施設整備

##### □幕張メッセの施設改修

##### ・ 幕張メッセの大規模改修【県・(株)幕張メッセ】[H29～R1]

県では、幕張メッセの大規模改修として、老朽化対策とともに、エレベーターの増設、中央エントランス・トイレのリニューアルなどを実施しました。また、施設の一部を所有する株式会社幕張メッセにおいても、イベント

ホールにエレベーターを増設するとともに、競技会場最寄り駅となるJR海浜幕張駅と幕張メッセをつなぐ連絡デッキを新設するなど、大会開催時の利便性向上だけでなく、大会後の幕張メッセの利用促進を図るための整備を行いました。

#### □競技会場周辺的环境整備

##### ・メッセモールの環境整備【県】[H28～R1]

視覚障害者誘導ブロック、舗装、デッキ、照明、トイレ等の修繕を実施し、歩行者の利便性向上を図ったほか、案内地図、誘導サインを多言語に対応させ、大会開催に伴う訪日外国人の増加等に備えました。また、暑熱等に配慮し、休憩施設（パラソル等）を整備しました。

##### ・幕張メッセ及び周辺地域のバリアフリー化【県・千葉市・(株)幕張メッセ】[H28～] 戦略4再掲

県では、幕張メッセの大規模改修の一環として、エレベーターの増設、中央エントランス・トイレのリニューアルなどを実施しました。また、施設の一部を所有する株式会社幕張メッセにおいても、イベントホールにエレベーターを増設するとともに、競技会場最寄り駅となるJR海浜幕張駅と幕張メッセをつなぐ連絡デッキを新設しました。さらに、千葉市では、JR海浜幕張駅南口広場にエレベーター・エスカレーターを新設するとともに、会場周辺の歩道の段差解消を図るなど、関係者が連携の上、大会に向けて幕張メッセ及び周辺の更なるバリアフリー化を進めました。

##### ・歩行者向け案内図の多言語対応等【千葉市】[H28～R2] 戦略6再掲

JR海浜幕張駅周辺の歩行者向け案内図等を多言語対応化しました。

##### ・幕張新都心における公衆無線LAN環境の拡充【千葉市】[H27～H30] 戦略5再掲

平成27年度から平成30年度にかけて、JR海浜幕張駅北口及び南口広場において、無料Wi-Fiサービスを提供しました。民間事業者による無料Wi-Fiスポットの整備が進んだ令和元年度以降は、市内マップにWi-Fiスポットが分かるQRコードを掲載するなど、利用者への周知を図りました。

##### ・釣ヶ崎海岸の整備【県・一宮町】[H29～R3]

サーフィン競技会場となった釣ヶ崎海岸は、大部分が保安林などの県有地であり、東京2020大会実施に当たっては、県が保安林の再整備をする過程で、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）に土地を貸し出しました。また、一宮町も、海岸利用者の利便性を向上させるために、トイレやシャワー、多目的スペースを備えた利便施設を整備し、大会時に活用されました。なお、県は大会後、保安林エリアで植樹を進めるとともに、自然公園エリアで駐車場等の整備を進めました。

・ JR上総一ノ宮駅のバリアフリー化【一宮町・県・JR東日本】[R2] 戦略4再掲

一宮町では、県の支援やJR東日本千葉支社の協力のもと、これまで西(陸)側出入口だけであったJR上総一ノ宮駅に、東(海)側に直接アクセスできる出入口を新設し、エレベーターを設置するなど駅周辺のバリアフリー化を図りました。

また、JR東日本千葉支社においても、独自にJR上総一ノ宮駅の駅舎等の改修や西口のバリアフリー化を実施するなど、関係者が連携し、大会を機に本県を訪れる人々等を受け入れるための環境整備を行いました。

□交通・輸送

・ 組織委員会が行う交通対策への協力【県・県警・市町村・経済団体・企業等】[R3] 戦略3再掲

選手や大会関係者の移動により、東京都内を中心に交通混雑が懸念されていたことから、組織委員会や東京都、国において市民活動と経済活動の継続と円滑な大会運営の両立を図ることを目的に、道路の渋滞や鉄道の混雑緩和を図るための各種交通対策が実施されました。

県内においても、高速道路や競技会場周辺の道路等で混雑が見込まれたことから、県及び県警が交通抑制や迂回案内などの交通対策への協力について広く呼びかけを行うとともに、千葉市及び一宮町では、会場周辺の交通規制など住民生活に影響する情報について、広報誌や自治会等を通じて周知しました。また、経済団体や会場周辺の企業等が中心となり、時差出勤やテレワークの取組促進、物流ルートの変更など交通総量の抑制に資する取組を行いました。さらに、県警においては組織委員会と連携のもと、会場周辺の道路において大会専用レーンの設置や通行止め等の交通規制を行うなど、組織委員会の交通対策に協力しました。

・ パーク&バスライドの実施に向けた調整【県・県警・いすみ市・長生村・長南町】[H30~R3] 戦略3再掲

サーフィン競技では、観客等の移動手段として、臨時の自家用車駐車場から競技会場までシャトルバスで移動するパーク&バスライドが計画されていたことから、自家用車駐車場の選定や地域住民への周知などについて、組織委員会に協力して調整を進めました。県内開催競技が無観客となったため、観客による利用はなくなりましたが、自家用車駐車場の一部は大会関係者の駐車場として利用されました。

## ・受入体制の整備と競技会場周辺地域の活性化

### □大会関係者や観戦客等へのおもてなし力の向上

#### ・オール千葉おもてなしアクション！【県】[H30～] 戦略5再掲

オール千葉でのおもてなし機運の醸成を図るため、庁内各部局によるおもてなしにつながる取組を、千葉県ならではのおもてなしである「思いやり」「スマイル」「クリーン」の合言葉のもと、連携・協力して推進する「オール千葉おもてなしアクション！」を展開しました。

#### ・バリアフリーに関する情報提供の充実【県・事業者】[H26～] 戦略4再掲

車いすを利用している方をはじめ、視覚障害者、聴覚障害者、高齢者、妊産婦、幼児連れなどの方が、外出する際に、安心して様々な活動に参加できるよう、県内の様々な施設のバリアフリー情報を収集し、「ちばバリアフリーマップ」としてウェブサイトにて情報発信しました。

また、令和2年3月、観光施設等やモデル地域のバリアフリー状況を写真や数値などで紹介するウェブサイト千葉県公式観光物産サイト「まるごとe！ちば」内に新設しました。ウェブサイトの開設に当たっては、利用者の目線で、車いすを利用している方と一緒に施設や地域を調査し、必要な情報を写真や数値などで分かりやすく掲載しました。

#### ・幕張新都心を花で彩る「花壇づくりコンテスト」の開催等【県】[H28～] 戦略5再掲

幕張メッセ周辺の幕張新都心エリアにおいて、地域の企業・団体が参加する「花壇づくりコンテスト」の開催、JR海浜幕張駅前への立体の花壇ディスプレイの設置、ホテルでの県産花きディスプレイの設置、商業施設におけるPRイベントの開催、SNSによる情報発信などにより、県民・企業・団体などと連携して、県産花きの需要拡大を図るとともに、「おもてなし」の機運醸成を図りました。

#### ・花いっぱい市民活動の推進【千葉市・幕張新都心まちづくり協議会】[H26～] 戦略5再掲

千葉市では、JR海浜幕張駅周辺をはじめとして花のあふれる環境づくりを演出するため、駅前立体花壇の管理のほか、市民協働による花壇づくりを実施し、毎回400を超える団体に参加していただきました。幕張新都心まちづくり協議会では、「街なかオープンガーデン作戦」として、企業・団体等が参加し、年2回程度、国際大通り沿いの歩道上にあるプランター100個に花植えを行いました。

#### ・「幕張新都心クリーンの日」の実施【幕張新都心まちづくり協議会】[H26～R3] 戦略5再掲

企業・団体等が参加の上、年2回程度、幕張新都心エリアの清掃活動を実施しました。

・九十九里・外房地域の16市町村によるおもてなしCHIBAプロジェクトの展開【県・市町村】[H29～R3] 戦略5再掲

東京2020大会に向けて、九十九里・外房地域16市町村等<sup>(※)</sup>で行われるおもてなし機運を高めるための運動に、地域が一体となって取り組みました。

(※)銚子市、旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里市、白子町、長生村、一宮町、いすみ市、御宿町、勝浦市、鴨川市、南房総市、館山市。

令和元年度からは、長生地域振興会議（茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、長生地域県出先機関で構成）もプロジェクトに参加。

・夏期の花き類の生産促進等【千葉県園芸協会、マザー牧場】[H26～] 戦略5再掲

千葉県園芸協会では、平成29年度から、夏期に強い花き類の生産対策支援と利用促進を進めました。また、マザー牧場では、平成26年度から、夏季最盛期の花「桃色吐息（ペチュニア）」の安定した育成に取り組みました。

□幕張の国際ブランドイメージの構築【県・千葉市・事業者など】

・MICE誘致の推進【ちば国際コンベンションビューロー】[H26～] 戦略1再掲

ちば国際コンベンションビューローでは、自治体や関係団体等と連携して積極的な誘致活動を展開し、平成26年度以降、県内へのMICE誘致件数の増加につなげました。また、令和元年度にはCvent社（アメリカ）によるMICE開催地の格付け「MICEアジアトップ25都市」の25位に千葉県・千葉市がランクインするなど、取組が国際的な評価につながりました。

・幕張メッセでのイベント実施時の取組【千葉市・幕張メッセ・ちば国際コンベンションビューロー】[H29] 戦略1再掲

MICE関係者を対象としたユニークベニューやエクスカージョンコースを案内する冊子に、千葉市美術館や見浜園などの市内公共施設の情報を掲載して、PRを行いました。また、アフターコンベンションの魅力向上に資する取組として、市内公共施設や商業施設をコースに組み込んだツアーを検討し、FOODEX JAPAN 2019（平成31年3月開催）開催時には、外国人出展者を対象として「千葉シティナイトツアー」を実施しました。

**・危機管理・安全対策**

□テロ等違法行為の未然防止、大規模災害等発生時の対策

□健康危機管理対策【県・市町村・医療関係団体・事業者など】

⇒戦略7「危機管理・安全対策」参照



## ○オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進

ボランティアの養成や、県内開催競技を中心とした体験会の実施等を通して、大会に向けた機運醸成を図りました。聖火リレーやライブサイトなどの大会関連イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響により計画変更や中止等の対応が必要となりましたが、県ホームページに立ち上げた応援企画には多くのメッセージが寄せられるなど、本県ゆかりの選手をはじめ、出場するアスリートを応援する機運が高まりました。

### ・ボランティア参加の促進

#### □大会ボランティア参加の促進

- ・大会ボランティアの広報協力・参加促進【県・市町村・大学・団体】[H30] 戦略8再掲

ホームページでの大会ボランティア関連情報の発信、募集説明会の開催等、組織委員会による大会ボランティア募集に協力しました。

#### □都市ボランティアの養成・確保

- ・東京2020大会に向けたボランティア推進方針の策定【県】[H29] 戦略8再掲

東京2020大会を契機に、ボランティアの裾野が拡大していくこと、また、当初からレガシーを意識した取り組みが進められていくよう、平成29年7月に「東京2020大会に向けたボランティア推進方針」を策定しました。

- ・「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成【県・市町村】[H29～R1] 戦略8再掲

海外からの来訪者とのコミュニケーションスキルを養い、多くの県民が都市ボランティアに興味を持って応募する機運を醸成するため、「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」を県内各地で開催しました。平成29年度から令和元年度までにおよそ2,000人が受講し、言語のみならず、ジェスチャーや表情など、様々な方法でコミュニケーションを図るスキルを習得するとともに、「おもてなしの心」を醸成しました。

- ・都市ボランティアの募集・選考・研修・運営【県・千葉市・一宮町・成田市・浦安市】[H30～R3] 戦略8再掲

競技会場となる千葉市と一宮町、また、成田市、浦安市の主要駅や成田空港などを活動場所として、観客等に観光・交通案内などを行う「都市ボランティア」の募集・選考・研修・運営を行いました。研修の実施等に当たっては、東京2020大会のボランティア研修に携わる「日本財団ボラ

ンティアサポートセンター」や組織委員会と連携して取り組みました。

大会期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響で、現場での活動は実施できませんでしたが、オンラインを活用した千葉の魅力発信や選手等のお見送り活動などに取り組みました。

・都市ボランティア体験プログラムの募集・運営【県・千葉市・一宮町・成田市】[R1～R3] 戦略8再掲

都市ボランティアの体験を通して、次世代を担う中高生世代のボランティア人材を育成することを目的に、「都市ボランティア体験プログラム」の参加者を募集しました（500人の定員に対して2,194人が応募）。

新型コロナウイルス感染症の影響で、大会期間中の現場での活動は中止となりましたが、代替となる活動として、学んだことを将来何かの形で役立ててもらいたいことを願い、成田空港内のユニバーサルデザインを学び案内の練習を行うオンラインワークショップを実施しました。

・チーム千葉ボランティアネットワークの運営【千葉市】[H29～] 戦略8再掲

都市ボランティアの募集開始前の平成29年7月、東京2020大会を契機としたボランティア活動を一過性で終わらせることのないよう、ボランティア登録制度「チーム千葉ボランティアネットワーク」を立ち上げました。ボランティア活動をしたい個人と、ボランティアを求める団体とのマッチングシステムとしての機能を提供するほか、ボランティアの基礎知識を紹介する動画や講習会などを実施しました。ボランティア文化が根付いたまちづくりへと発展することを見据えており、登録者数は大会終了時点で1,900人を超えました。

・大会機運の醸成

□開催競技やオリンピック・パラリンピックに関する普及・啓発【県・市町村・競技団体など】

・県立特別支援学校を拠点とした障害者スポーツの振興【県】[H30～R3] 戦略2再掲

地域の学校や住民、障害者スポーツ団体等との交流拠点となるよう、県立特別支援学校から拠点校を選出し、トップアスリートによる講演や実技指導等の実施、障害者スポーツのルールを解説したリーフレットの作成・配布などを行い、地域におけるパラスポーツの普及に向けて取り組みました。

県立東金特別支援学校では、「『オリ・パラ』サマーセッション in 東金」を開催し、ゴールボール、ボッチャ、テコンドー、車いすバスケットボール、車いすフェンシングの体験会を通じて、地域の小中学生や近隣大学の留学生を含め多くの県民が交流を行いました。

・障害者スポーツ体験会等の開催【県・市町村・大学・関係団体等】[H28～]  
戦略2再掲

県・千葉市・県内大学等が連携して、平成28年度から「パラスポーツフェスタちば」を開催し、パラスポーツの魅力や素晴らしさを県民に体感していただけるよう、競技体験会や対抗戦を実施しました。平成29年度からは県内企業、平成30年度からは特別支援学校が対抗戦に出場するなど、年齢、障害の有無に関わらず、様々な方々にパラスポーツを体験していただく重要な機会となりました。

また、県・日本財団パラリンピックサポートセンター・競技団体等が連携して、平成28年度から流山市、旭市、君津市、いすみ市の各市において「パラスポーツフォーラム in CHIBA」を開催しました。パラスポーツの魅力伝えるとともに、障害への理解を深める契機としていただけるよう、県内開催競技の紹介やパラアスリートとの交流、競技体験会を実施しました。

さらに、県では、パラアスリートによる基調講演や、企業・福祉関係者、学生、パラアスリートによるパネルディスカッション、県の取組の紹介などを通して、関係機関の「輪」を更に広げ、パラスポーツの振興に取り組む契機とするため、令和元年8月、ホテルポートプラザちばで「パラスポの『輪』フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、「パラスポーツを通してバリアのない社会を作り上げていく」ことをテーマに県内の大学生が運営スタッフとして企画から関わって開催されました。また、同年実施したパラ「旅」応援事業でボランティアに従事する学生により組織された「パラ旅応援団」の結成式も行われました。

令和元年には、学生団体おりがみが「みんなの遊び場パラステーション」をJR千葉駅で開催し、ボッチャの体験会等を通して障害者スポーツの魅力を広く県民に発信したほか、各市町村や大学等においても、様々な機会に障害者スポーツ体験会等を開催しました。

・パラスポーツ大会応援イベントの実施【千葉市・経済団体等】[H30～R1]  
戦略2再掲

パラスポーツ大会の観戦を通して、多くの人にパラスポーツファンになってもらうことを目的として、パラスポーツ大会に合わせて、産学官連携による応援イベント「Go! Together! ～みんな一緒に共生する未来～」

(千葉市、みんなで応援! 千葉県経済団体協議会、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会主催)を実施しました。「2018ジャパンパラウィルチェアーラグビー競技大会」、「第8回長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車いすバスケットボール全国選抜大会」、「シッティングバレーボールチャレンジマッチ2019」、「天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラゴールボール競技大会」と併せて開催され、地元企業などが学生ボランティアと一緒にパラスポーツ体験ブースを運営したほか、県内の飲食物販店によるご当地グルメ等を堪能できるフードコートが設けられました。また、

競技会場最寄り駅から競技会場に誘引するイベントを実施し、競技会場との回遊性を高めたほか、駅や商業施設でのポスター掲出による周知を行うなど、観客増加につなげました。

・ **動画による魅力発信【県・NHK】戦略2再掲**

NHKの協力のもと、パラスポーツのアニメ「アニ×パラ」を県庁内ロビー等で放映し、パラスポーツを身近に感じてもらうとともに、東京2020大会に向けた機運の醸成を図りました。

□ **オリンピック・パラリンピック教育等の推進**

・ **千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針の策定及びオリンピック・パラリンピック教育推進校の選出【県】[H29～] 戦略8再掲**

次世代を担う子どもたちに国際感覚やスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障害への理解などを身につけさせ、大会後も無形のレガシーとして引き継いでいくために、県をあげてオリンピック・パラリンピックを活用した教育活動に取り組む指針として、平成29年4月、「千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針」を策定しました。取組方針では、オリンピック・パラリンピック教育で目指す児童・生徒の姿を、「おもてなし」「心のバリアフリー」「スポーツ」「グローバル」の4つのプロジェクトに整理しました。県は、この取組方針に基づいてオリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校を「オリンピック・パラリンピック教育推進校（オリパラ教育推進校）」に指定し、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図りました（平成29年度は30校、平成30年度以降は65校を指定）。

・ **千葉市オリンピック・パラリンピック教育実施方針の策定及び推進【千葉市】[H28～] 戦略8再掲**

東京2020大会が身近で開催されることを、千葉市の子どもたちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、オリンピック・パラリンピック教育を強力に推進するため、平成29年3月、「千葉市オリンピック・パラリンピック教育実施方針」を策定し、オリンピック・パラリンピック教育を推進しました。

・ **オリンピック・パラリンピック教育の推進【小中学校・高校・特別支援学校】[H29～] 戦略8再掲**

全公立校を含む県内学校において、取組方針において整理された「おもてなし」「心のバリアフリー」「スポーツ」「グローバル」の4つのプロジェクトに係る様々な取組が進められました。パラリンピックの閉会式では、県内2校の取組がインクルーシブな世界の実現に多大な功績を収めたとして、「アイムポッシブル（I'mPOSSIBLE）アワード」で開催国最優秀賞（木更津市立清見台小学校）及び開催国特別賞（千葉県立東金特別支援学校）を受賞しました。

・ **JOCオリンピック教室の開催【県・JOC】[H28～] 戦略8再掲**

県と公益財団法人日本オリンピック委員会（以下「JOC」という。）は、平成28年にパートナー都市協定を結び、同年から、協定に基づく連携事業として、県内の公立中学校において中学2年生を対象とした「JOCオリンピック教室」を開催しています。オリンピックが自身の経験を通してオリンピックの価値などを伝える授業で、運動と講義の2コマで構成され、運動が苦手な生徒も参加しやすく、また貴重な経験を生徒が自分ごととして捉え、今後に生かすことができるよう工夫されたプログラムとなっており、令和3年までに計29校で実施されています。

・ **学校給食での東京2020大会応援メニュー【県・千葉市】[H29～] 戦略8再掲**

千葉県教育委員会は、他国の食文化や、千葉県の特産物を使った料理・郷土料理に興味関心を広げるよい機会であることから、学校給食を通じて子どもたちが多様な食文化に触れることができるように「オリンピック・パラリンピック給食活用レシピ」を紹介しました。

また、千葉市では、平成29年度から、東京2020大会や幕張メッセで開催される競技にゆかりのある国の料理を、小中学校・特別支援学校の全校で「応援メニュー」として学校給食に取り入れる取組を実施しました。

・ **「みんなの2020」イラスト・キャッチフレーズ作品募集【県】[R1] 戦略8再掲**

児童・生徒自らが東京2020大会について考えるきっかけとすることを目的として、イラスト・キャッチフレーズの作品募集を実施しました。イラスト部門で129校1,665作品、キャッチフレーズ部門で150校9,118作品の応募があり、令和2年1月に千葉県文化会館で最優秀賞表彰式を開催しました。

□ **組織委員会等と連携したイベントなどの開催**

・ **カウントダウンイベントの実施【県・千葉市・一宮町・経済団体等】[H29～R1] 戦略8再掲**

機運の醸成や、大会・競技への理解を深めることを目的に、県、組織委員会、千葉市、一宮町、経済団体等で連携して、3年前イベント、1000日前イベント、2年前イベント、500日前イベント、1年前イベントといった記念イベントを実施しました。

・ **聖火リレー及びライブサイト等大会関連イベントに係る組織委員会等との調整・実施【県】[H29～R3]**

聖火リレー及び東京2020ライブサイトの実施に向け、組織委員会や会場管理者、市町村等の関係機関との調整を行いました。

新型コロナウイルスの感染症の影響により、オリンピック聖火リレーに

については、聖火ランナーによる走行を中止し、代わりに各日のセレブレーション会場において、無観客（関係者のみ）で点火セレモニーを実施しました。また、パラリンピック聖火リレーについても、同様に聖火ランナーによる走行を中止し、県内54全ての市町村で採火された火を一つに集め「千葉県の火」をつくる集火式を行った後、聖火リレーの代替措置となる点火セレモニーを開催したほか、開催都市である東京都に「千葉県の火」を送り出す出立式を実施しました。

東京2020ライブサイトについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としましたが、県ホームページ上に「声援を届けよう～私たちの東京2020大会 in CHIBA～」を立ち上げ、聖火リレーのセレブレーションやライブサイトのステージで予定されていた合唱やダンスなどの映像のほか、聖火リレーの沿道を飾る予定だった横断幕、大会時に会場を飾るひまわりを添えた応援メッセージ等を掲載しました。

## □企業・経済団体の取組

### ・企業による機運醸成の取組【企業】[H26～]

東京2020大会の開催決定以来、大会公式スポンサーをはじめ、数多くの企業が県内でイベントの開催や関連グッズの制作・配布など様々な取組を行い、大会の成功に向けた機運醸成を図りました。

[主な企業の取組]

企業	取組内容
コカ・コーラボトラーズジャパン(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JOC オリンピック支援自販機」、「JPC パラリンピック支援自販機」、「ピクトグラムデザイン自販機」の設置</li> <li>・大会1年前イベントへの出展（歴代聖火トーチの展示等）[R1]</li> </ul>
アサヒビール(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内開催競技紹介ポスターの制作[H29～H30]</li> <li>・「東京2020大会応援 千葉県ラベル」デザイン缶の販売[H30]</li> <li>・「東京2020大会応援 千葉県サーフィン開催地」デザイン缶の販売[R1～R3]</li> </ul>
日本生命(相)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本生命みんなの2020全国キャラバン」の実施[R1]</li> </ul>
日本電気(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NEC グリーンロケッツホームゲームにおける「フェンシング競技体験会」の実施[H30]</li> <li>・「幕張メッセ“どきどき”フリーマーケット2018」におけるオリンピック・パラリンピックPRブースの出展[H30]</li> <li>・日本財団パラリンピックサポートセンターと連携した「あすチャレ! Academy」（セミナー）の実施</li> </ul>
(株) 明治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レスリング学校訪問開催時の食育講座の実施[H30～R1]</li> <li>・東京2020大会開催地フェアの実施（大会500日前に合わせて実施）[H30]</li> </ul>

東京ガス(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京 2020 パラリンピック競技観戦ガイド」の作成 [R3]</li> <li>・パラスポーツ写真展の開催</li> </ul>
成田国際空港(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会式 500 日前記念装飾の実施 [R1]</li> <li>・東京 2020 大会 1 年前イベントの開催 [R1]</li> </ul>
日本郵便(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内約 100 か所の郵便局での各種大会・イベント等の広報 [H29～R3]</li> <li>・県内開催パラ 4 競技の「切手モザイクアート」の制作・展示 [R1～R3]</li> </ul>
イオン(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウントダウンイベント・展示等における会場提供 [H28～R3]</li> <li>・東京 2020 大会開催地フェアの実施（大会 500 日前に合わせて実施） [H30]</li> </ul>

・ **みんなで応援！千葉県経済団体協議会の取組【経済団体】 [H29～]**

平成 29 年 7 月、県内の経済団体が一丸となり、オール千葉体制のもと東京 2020 大会等の成功と、その取組を通じて活力ある地域づくりに資することを目的に、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」が設立されました。同協議会は、県内の主要経済 6 団体（千葉県経営者協会、千葉県経済同友会、千葉県経済協議会、千葉県商工会連合会、千葉県中小企業団体中央会、千葉県商工会議所連合会）によって構成され、①団体横断的・統一的に取組可能な独自の活動、②行政との連携・協力による活動、③他分野の団体等との連携による活動を柱に、「おもてなし」（声かけ・サポート運動や美化活動の展開、講習会の開催）、「機運の醸成」（競技紹介パネル・ポスターの掲示やスポーツ応援運動の展開）、「情報の発信」（県内企業の取組状況の一体的発信）の事業を展開しました。

**○大会開催効果の全県への波及**

県内各地で文化プログラム関連イベントが実施され、地域の文化振興や文化的魅力の発信が行われたほか、事前キャンプやホストタウンにおける相手国との交流事業などを通して国際交流が推進されるなど、東京 2020 大会の開催を契機に県内各地で様々な取組が行われました。

**・オリンピック関連プログラムの推進**

**□文化プログラム関連イベントの実施**

・ **文化プログラム関連イベント等の実施【県・市町村・文化芸術関係団体等】 [H28～R3] 戦略 8 再掲**

スポーツの祭典であると同時に「文化」の祭典でもある東京 2020 大会の機会を生かし、文化プログラムを実施することで、ちばの文化力向上と

文化芸術による地域の活性化を図りました。

文化プログラムの枠組みには「東京2020文化オリンピック」  
と「beyond2020プログラム」があり、県は、beyond2020プログラムの  
認証組織の一つとして、公的機関、民間事業者、団体等が行う取組を343  
件認証しました。(令和3年9月5日現在)

文化プログラムの実施に当たり、県では、①県民参加、②多様性、③ちば  
の魅力を発信、④未来への継承の4つを事業実施の基本方針とし、『『県民の  
日』中央行事(県民の日ちばワクワクフェスタ)』『千葉・県民音楽祭』『ちば  
アート祭』等の事業に取り組みました。

・市町村における文化振興【市町村】[H29～] 戦略8再掲

東京2020大会を契機に更なる文化振興を図るため、市民と行政が一体  
となって市町村ごとに個性を生かした文化関連イベントを展開しました。

・北総四都市～文化でつなぐ私たちの街～プロジェクト等【公益財団法人千葉  
県文化振興財団】[H28～] 戦略8再掲

平成28年度に、佐倉市・成田市・香取市・銚子市を舞台にした「北総  
四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が文化庁の「日本遺産」に  
認定されたことを受け、平成30年度から、「北総四都市～文化でつなぐ  
私たちの街～」プロジェクトを実施し、北総四都市の魅力を発信しました。

□ホストタウンの推進

・ホストタウンの推進【県・市町村】[H27～] 戦略8再掲

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進  
本部事務局は、東京2020大会を契機に、全国の地方公共団体と大会参加  
国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を通じ、スポーツの振興、  
教育文化の向上、共生社会の実現、地域活性化等に資する取組を行う地方  
公共団体を、「ホストタウン」として登録しました。県内では、従来からの  
国際交流を契機とした事前キャンプの誘致や千葉県スポーツコンシェル  
ジュの取組などにより、県及び21市町が、21か国・地域のホストタウン  
として登録されました(パラリンピアンを受入れを契機に共生社会の実現に  
向けた取組を行う「共生社会ホストタウン」3市を含む)。

・大会開催を契機とした取組の推進

□事前キャンプの誘致

・スポーツコンシェルジュの設置【県・ちば国際コンベンションビューロー】  
[H27～R3] 戦略1再掲

東京2020大会の事前キャンプを誘致しようとする県内市町村を支援  
するため、平成27年度に千葉県スポーツコンシェルジュを設置し、競技



施設・宿泊施設の情報等をワンストップで提供できる体制を整備しました。千葉県スポーツコンシェルジュの支援により、東京2020大会以外の案件も含め、23件の事前キャンプや国際大会等が合意に至りました。

・ **千葉県総合スポーツセンターの整備【県】 [H28~R1] 戦略2再掲**

本県の中核的スポーツ施設として位置付けられている千葉県総合スポーツセンターについて、国際大会や海外チームのキャンプ等で有効に活用できるよう、武道館空調設備工事や野球場改修などの施設整備を実施しました。

・ **競技施設の改修等の実施【市町村】 [H26~R3] 戦略1再掲**

鴨川市では、令和元年度に鴨川市陸上競技場のフィールド天然芝の改修工事を行うなど、事前キャンプの受入環境を整備し、オランダ女子サッカー代表チームの東京2020オリンピックに向けたキャンプ誘致を実現しました。

また、袖ヶ浦市では、野球場・陸上競技場を改修し、バリアフリー化や空調機器の設置、Wi-Fi環境の整備等を行いました。

・ **市町村振興資金によるオリンピック・パラリンピック関連施設に関する貸付事業【県】 [H27~R2] 戦略1再掲**

県は、市町村等の公共施設の建設事業等に対して資金の貸付を行う事業において、平成27年度、流山市の市民総合体育館「キッコーマンアリーナ」の建設に関連して貸付を実施しました。キッコーマンアリーナでは、平成30年度に、オランダ女子バレーボール代表チーム及び女子車いすバスケットボール代表チームが世界大会に向けて事前キャンプを行ったほか、令和3年7月から8月には、東京2020大会に向けて、オリンピックのオランダ女子ハンドボール代表チーム及び卓球代表チームや、パラリンピックのオランダ卓球代表チームが、事前キャンプを行いました。

・ **通訳ボランティアの養成【県・市町村】 [H27~R1] 戦略8再掲**

東京2020大会に向け、外国語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、ちば国際コンベンションビューローや市町村と連携して、大会関連行事等の機会に活動できる通訳ボランティアの養成に取り組みました。

・ **通訳ボランティアや国際交流ボランティア等の育成【市町村】 [H27~] 戦略8再掲**

千葉市では、平成27年度以降、外国人来訪者の受入体制強化のため、通訳ボランティア数の増加と高度な通訳を行える国際交流ボランティア育成を目指して、各種講座を実施し、コミュニティ通訳として活躍できるように基盤づくりを行いました。また、山武市においても、平成30年度から英語ボランティア育成講座を実施するなど、市町村における通訳ボランティア等の育成が進みました。

・大学における通訳ボランティアの育成等【神田外語大学・神田外語学院・千葉大学】[H26～] 戦略8再掲

神田外語大学・神田外語学院において、全国の高校生を対象にした公開講座「通訳ボランティア入門講座」（平成29年度から）を実施したほか、神田外語大学が加盟する全国外大連合主催で「全国外大連合通訳ボランティア育成セミナー」（平成27年度から令和2年度）を実施しました。また、神田外語大学では、2019年ラグビーワールドカップ等において、全国外大連合学生を対象とした通訳ボランティアの実習に取り組みました。

神田外語大学からは、東京2020大会のボランティアに約100人の学生が参加しました。また、千葉大学では、成田空港での案内等のボランティア活動に年間約50人が参加したほか、平成29年度から留学生との文化交流イベントを開催するなど、各大学において学生のボランティア活動への参加や国際理解等が進みました。

・スポーツ大会や国際会議等へのボランティア紹介【ちば国際コンベンションビューロー】[H26～] 戦略8再掲

千葉2019ワールドテコンドーグランプリ等のスポーツ大会や日本地球惑星科学連合等のMICE関連事業へボランティアを紹介し、実践的な対応力向上を図りました。

・スポーツボランティアの育成【市町村・大学等】[H27～] 戦略1再掲

事前キャンプやスポーツ大会の開催を契機として、市町村や大学等において、スポーツ活動における支援を行うスポーツボランティアの育成が進みました。

・官民が連携した誘致活動・受入れ【県・市町村・大学等】[H26～R3] 戦略1再掲

県・市町村、大学等において、事前キャンプの積極的な誘致活動を行い、東京2020大会事前キャンプを含め、多数の国際大会におけるキャンプ誘致に至りました。東京2020大会では、県及び15市が14か国の事前キャンプを受け入れました。

・パラリンピック選手のキャンプ受入体制整備【県】[H27～H29] 戦略1再掲

障害者アスリートとの交流会等に対する補助制度を設けることで、市町村等による取組を促進し、パラリンピック競技のキャンプ誘致に向けた機運の醸成を図りました（5市7件で補助金を活用して事業を実施しました。）。

・宿泊施設の従業員向けセミナーの開催【県】[H30] 戦略4再掲

東京2020大会に向け、障害のある人への対応力を向上させ、ソフト面でのバリアフリー（心のバリアフリー）対応の充実を図るため、県内の宿泊施設を対象に、「宿泊施設のための心のバリアフリースキルアップセミナー」を開催し、約30人が参加しました。

## □大会を機に訪れる人々が県内を周遊する仕組みづくり

### ・企画乗車券の販売等【事業者】[H28～] 戦略5再掲

京成電鉄では、往復乗車券と飲食店での食事券や観光施設への入場券などがセットになった企画乗車券を販売したほか、船橋～千葉（現 京成船橋～千葉中央）間の開業100周年等に合わせて、スタンプラリーや特別ツアーを開催するなどしました。

### ・外国人観光客向け周遊コースPR【県】[H28～R2] 戦略6再掲

東京2020大会を契機に増加が予想された外国人観光客を継続的に本県に誘致するため、県内の周遊ルート及び観光スポットを紹介したガイドブック、プロモーション動画、ウェブサイト外国人観光客の目線に立って作成するとともに、SNS等を活用したPRを実施しました。

### ・地域の観光振興等に係る取組【市町村・団体・事業者】[H26～] 戦略5再掲

市町村、市民活動団体、鉄道・バス事業者等が連携して、地域の特性を生かした観光振興に係る取組を実施しました。

## □サーフィンを活用した地域振興

### ・長生地域の児童・生徒を対象としたサーフィン教室等【県・市町村】[H30～] 戦略8再掲

長生地域の7市町村（茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町）と県は、地域振興の取組の中で、地域住民のサーフィン競技に対する理解を深めるとともに大会機運の醸成を図るため、日本サーフィン連盟や地元のサーフィン業組合の協力のもと、児童・生徒を対象としたサーフィン教室や、サーフィンの国際大会「WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN」の見学会などを実施しました。

### ・一宮版サーフォノミクス【一宮町】[H27～]

一宮町では、海岸の全域にわたって良好なサーフポイントが存在するロケーションや地元根深くサーフィン文化などの特徴を地域活性化に生かすため、「一宮版サーフォノミクス」を打ち出しました。これは、海沿いの文化と豊かな自然、上総国一宮としての伝統を享受し、ゆとりある住宅環境や働く場を創出することで町の魅力に磨きをかけ、新たな人たちを呼び込む好循環を生み出すための仕組みであり、町ではこのプランに基づいて海岸から県道30号線に沿ったエリアを「サーフストリート」と位置づけ、同エリアをブランディングすることとしました。また、JR上総一宮駅西側エリアの中心市街地としての機能を強化するとともに、駅周辺と駅東側のサーフストリートを結ぶための都市軸を整備して町全体の活性化を図ることとしました。

一宮町では、まずサーファーにアンケート調査を行い、集まった意見や要望をもとにサーフスポットの駐車場舗装やシャワーの設置などの整備を

実施したほか、平成29年7月には、サーフストリートの経済効果を駅周辺に波及させるために、商店街の空き店舗を改修してサーフィンと仕事を楽しむシェアオフィス「SUZUMINE」をオープンし、飲食店、シャワーやサーフボードの保管庫、中庭ウッドデッキなども整えました。平成30年4月には、駅前の上総一宮観光案内所をリニューアルオープンし、「サーフィンと生きる町。」を掲げ、レンタサイクルやサーフボードの貸し出しを開始しました。また、一宮町の魅力を発信するため、ウェブサイト「サーフィンと生きる町。ICHINOMIYA」を開設し、サーファーにアンケートを取って作成したプロモーションビデオなどを掲載しました。

こうした事業を通じて、東京2020大会終了後もサーファーを主とした若者や子育て世代が定住し続けるような魅力あるまちづくりを目指しています。

## 戦略1 キャンプ・国際大会・MICE誘致

戦略1「キャンプ・国際大会・MICE誘致」においては、事前キャンプ・国際大会・MICEを誘致することが、地域のイメージアップを図る絶好の機会であり、地域スポーツのレベルアップや施設の有効活用、さらに交流人口の増加による地域の活性化につながるとの認識のもと、これらの積極的な誘致活動を推進しました。

東京2020大会の事前キャンプ誘致に当たっては、2015年世界陸上北京大会の事前キャンプ誘致・受入れを通じて得られたノウハウの活用のほか、新たに設置した千葉県スポーツコンシェルジュによる支援など官民が連携した誘致活動を展開したことにより、17市2町及び県で18か国の受入合意に至りました。

国際大会誘致については、ソフトボールやレスリングなどの世界大会の誘致に成功したほか、車いすラグビー・ゴールボール・サーフィンなど、継続的に大会を誘致できた競技もあり地域のイメージアップにつながりました。

また、キャンプ・国際大会の誘致活動推進に伴って、地域活性化につながる新たな取組も生まれ、スポーツツーリズムの推進や地域スポーツコミッションの設立など、スポーツを地域の魅力の一つとして捉え直し、活用していこうという動きが進みました。

MICE誘致については、自治体や関係団体が連携して積極的な誘致活動を推進したことにより、多くの国際会議等を誘致できたほか、誘致に関する取組が国際的に認められ、国際的ブランドイメージの構築につながりました。

### <主な取組実績>

#### ○事前キャンプの誘致

千葉県スポーツコンシェルジュの積極的な活用や、官民が連携した誘致活動により、多くのキャンプを県内へ誘致することができ、各地域に誘致・受入れのノウハウが蓄積されました。

#### ・それぞれの国、競技にマッチしたキャンプ受入れの体制づくり

##### □県内キャンプ候補地の情報収集とパッケージ化

- ・スポーツコンシェルジュの設置【県・ちば国際コンベンションビューロー】  
[H27～R3]

東京2020大会の事前キャンプを誘致しようとする県内市町村を支援するため、平成27年度に千葉県スポーツコンシェルジュを設置し、競技施設・宿泊施設の情報等をワンストップで提供できる体制を整備しました。

千葉県スポーツコンシェルジュの支援により、東京2020大会以外の案件も含め、23件の事前キャンプや国際大会等が合意に至りました。

## □キャンプ地にふさわしい環境の整備

### ・千葉県総合スポーツセンターの整備【県】[H28～R1] 戦略2再掲

本県の中核的スポーツ施設として位置付けられている千葉県総合スポーツセンターについて、国際大会や海外チームのキャンプ等で有効に活用できるように、武道館空調設備工事や野球場改修などの施設整備を実施しました。

### ・競技施設の改修等の実施【市町村】[H26～R3]

鴨川市では、令和元年度に鴨川市陸上競技場のフィールド天然芝の改修工事を行うなど、事前キャンプの受入環境を整備し、オランダ女子サッカー代表チームの東京2020オリンピックに向けたキャンプ誘致を実現しました。

また、袖ヶ浦市では、野球場・陸上競技場を改修し、バリアフリー化や空調機器の設置、Wi-Fi環境の整備等を行いました。

### ・市町村振興資金によるオリンピック・パラリンピック関連施設に関する貸付事業【県】[H27～R2]

県は、市町村等の公共施設の建設事業等に対して資金の貸付を行う事業において、平成27年度、流山市の市民総合体育館「キッコーマンアリーナ」の建設に関連して貸付を実施しました。キッコーマンアリーナでは、平成30年度に、オランダ女子バレーボール代表チーム及び女子車いすバスケットボール代表チームが世界大会に向けて事前キャンプを行ったほか、令和3年7月から8月には、東京2020大会に向けて、オリンピックのオランダ女子ハンドボール代表チーム及び卓球代表チームや、パラリンピックのオランダ卓球代表チームが、事前キャンプを行いました。

## □ボランティアの養成・確保

### ・通訳ボランティアの養成【県・市町村】[H27～R1] 戦略8再掲

東京2020大会に向け、外国語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、ちば国際コンベンションビューローや市町村と連携して、大会関連行事等の機会に活動できる通訳ボランティアの養成に取り組みました。

### ・通訳ボランティアや国際交流ボランティア等の育成【市町村】[H27～] 戦略8再掲

千葉市では、平成27年度以降、外国人来訪者の受入体制強化のため、通訳ボランティア数の増加と高度な通訳を行える国際交流ボランティア育成を目指して、各種講座を実施し、コミュニティ通訳として活躍できるように基盤づくりを行いました。また、山武市においても、平成30年度

から英語ボランティア育成講座を実施するなど、市町村における通訳ボランティア等の育成が進みました。

・ **大学における通訳ボランティアの育成等【神田外語大学・神田外語学院・千葉大学】 [H26～] 戦略8再掲**

神田外語大学・神田外語学院において、全国の高校生を対象にした公開講座「通訳ボランティア入門講座」（平成29年度から）を実施したほか、神田外語大学が加盟する全国外大連合主催で「全国外大連合通訳ボランティア育成セミナー」（平成27年度から令和2年度）を実施しました。また、神田外語大学では、2019年ラグビーワールドカップ等において、全国外大連合学生を対象とした通訳ボランティアの実習に取り組みました。

神田外語大学からは、東京2020大会のボランティアに約100人の学生が参加しました。また、千葉大学では、成田空港での案内等のボランティア活動に年間約50人が参加したほか、平成29年度から留学生との文化交流イベントを開催するなど、各大学において学生のボランティア活動への参加や国際理解等が進みました。

・ **スポーツ大会や国際会議等へのボランティア紹介【ちば国際コンベンションビューロー】 [H26～] 戦略8再掲**

千葉2019ワールドテコンドーグランプリ等のスポーツ大会や日本地球惑星科学連合等のMICE関連事業へボランティアを紹介し、実践的な対応力向上を図りました。

・ **スポーツボランティアの育成【市町村・大学等】 [H27～]**

事前キャンプやスポーツ大会の開催を契機として、市町村や大学等において、スポーツ活動における支援を行うスポーツボランティアの育成が進みました。

〔市町村の主な取組〕

市町村	取組内容
館山市	「館山若潮マラソン」や「館山わかしおトライアスロン大会」などのスポーツ大会で多くのボランティアが活躍し、平成27年度には、自治体として初めてNPO法人「日本スポーツボランティアネットワーク」の正会員となりました。また、平成30年度にはスポーツボランティア登録制度「タテボラ」の運用を開始し、スポーツボランティア活動に熱意を持つ人材の確保や継続的な活動の促進等を図りました。
成田市	成田市におけるスポーツツーリズムを推進するための人材を確保するために運用している「成田市スポーツツーリズム人材バンク」を活用し、平成30年度にアイルランドパラ水泳代表チームの事前キャンプを受け入れた際に実施した水泳クリニックや学校訪問を、語学が堪能なボランティアが支援しました。また、その語学ボランティアが成田山新勝寺や千葉県立房総のむらを案内するなど、文化交流も行いました。

	さらに、第16回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会や成田POPラン大会などにおいても語学ボランティアが大会を支え、チームや選手に対しておもてなしをするなど、活躍しました。
浦安市	平成30年度にオーストラリア車いすバスケットボール女子代表チームのトレーニングキャンプを受け入れ、交流会や練習試合等の実施に当たり、多くのボランティアが活躍しました。また、東京2020大会スロバキア陸上代表チームの事前キャンプ受け入れに際しては、明海大学陸上部の学生がボランティアとして活躍したほか、市民による通訳ボランティアも行われました。
流山市	市民のスポーツ活動の支援等を目的として、平成30年度に「流山市スポーツボランティア制度」を発足し、スポーツボランティアの育成と活躍の場の整備を進めました。登録されたボランティアは流山ロードレース大会のほか、事前キャンプでも活躍しました。
我孫子市	平成29年度に川村学園女子大学との共催で「スポーツボランティアシンポジウム」を開催し、リオデジャネイロ大会の選手やボランティアとして活躍した方などの体験談等を通して、スポーツボランティア活動の啓発・機運醸成等を図りました。また、平成29年度から令和元年度まで「スポーツボランティア養成講座」を開催し、大会を契機として地域のスポーツイベントを支える人材の育成を推進しました。

### ・世界選手権などプレ大会を含めたキャンプ誘致

#### □国際スポーツ競技大会におけるキャンプ誘致

##### ・官民が連携した誘致活動・受入れ【県・市町村・大学等】[H26～R3]

県・市町村、大学等において、事前キャンプの積極的な誘致活動を行い、東京2020大会事前キャンプを含め、多数の国際大会におけるキャンプ誘致に至りました。東京2020大会では、県及び15市が14か国の事前キャンプを受け入れました。

〔誘致活動の主な取組〕

取組主体等	取組内容
市原市・君津市・ (株)マザー牧場による ニュージーランド代表の 受入れ	市原市は、市民団体を中心にニュージーランドとの交流が続けられていたことなどから、同国の東京2020大会事前キャンプの誘致を進め、平成28年12月、同国のホストタウンとして登録されました。また、市原市は君津市と連携し、ニュージーランドソフトボール女子代表チーム（愛称：ホワイトソックス）のトレーニングキャンプを平成29年から3年連続で受け入れるなど、同国との国際交流を推進し、令和元年12月には、市原市に加え、君津市がニュージーランドのホストタウンとして登録されました。



	<p>さらに、令和2年1月には、両市とニュージーランドと交流のある株式会社マザー牧場が官民連携協力体制を構築し、国際交流を通じた観光振興にも取り組むため、パートナーシップ協定を締結しました。</p>
<p>県・成田市・佐倉市・印西市・順天堂大学によるアメリカ代表の受入れ</p>	<p>平成27年8月に、県・成田市・佐倉市・印西市・順天堂大学が連携して、世界陸上北京大会に向けたアメリカ陸上代表チームの事前キャンプを受け入れました。この事前キャンプがアメリカに評価され、平成28年5月、アメリカ陸上競技連盟と県・成田市・佐倉市・印西市・順天堂大学の間で、東京2020大会に向けた事前キャンプの受入れについて合意しました。(なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年5月に中止が決定)</p>
<p>勝浦市・国際武道大学による取組</p>	<p>平成28年度から「勝浦市と国際武道大学との連携推進連絡協議会」のもとに設置された「オリンピック・パラリンピック専門部会」を随時開催し、勝浦市における事前キャンプ受入れ等について連携して検討を進めました。また、平成29年度には「柔道グランドスラム東京2017」へ共同で出展を行うなど、積極的な誘致活動を行いました。</p>
<p>県・鴨川市・館山市・南房総市・鋸南町による自転車競技誘致の取組</p>	<p>平成27年に、戦略1「キャンプ・国際大会・MICE誘致」専門部会の分科会として「南房総自転車競技誘致分科会」を設置しました。同会では、自然豊かで温暖な気候に恵まれ、年間を通じて自転車ロードレースの練習ができる多彩なコースを有する南房総の魅力を発信するためのPR動画を作成するなど、プロモーション活動を実施し、平成28年度・29年度のオランダ自転車連盟の視察につなげました。</p>
<p>浦安市・明海大学が連携したスロバキア代表の受入れ</p>	<p>令和元年度に、浦安市・明海大学・JOC・スロバキアオリンピック委員会の4者で事前キャンプ受入れに関する覚書を締結し、東京2020大会時には明海大学施設内でスロバキア陸上代表チームが練習を行いました。なお、練習時には明海大学陸上部の学生がボランティアとして警備に当たったほか、市民13人が通訳ボランティアとして活躍しました。</p>

〔世界選手権などプレ大会を含めたキャンプ誘致実績〕

年度	大会名	誘致主体	相手国
H27	第15回 IAAF 世界陸上競技選手権	県	オランダ・ベルギー
		県・成田市・佐倉市・順天堂大学	アメリカ

H30	第16回WBSC 世界女子ソフトボール 選手権大会	銚子市	台湾
		印西市	カナダ
		市原市・君津市	ニュージーランド
		市川市	イタリア
		佐倉市	オランダ・ボツワナ
		山武市	イギリス
		長柄町	南アフリカ
R1	2018女子バレーボール 世界選手権	流山市	オランダ
	国際親善女子車いす バスケットボール大阪大会	流山市	オランダ
	IAAF世界リレー 2019横浜大会	県	オランダ
	第18回世界水泳 選手権大会	県	オランダ
	ラグビーワールドカップ 2019	浦安市	南アフリカ・ ニュージーランド・ オーストラリア
		柏市	ニュージーランド
		市原市	アイルランド
JAL Presents 2019 高円宮杯 フェンシングワールドカップ 東京大会	市川市	イギリス・フランス	
ITUワールドトライアスロン オリンピックオリフィケーションイベント	館山市	アメリカ・オランダ	
セイコーゴールドエンブレム 陸上 2019 大阪	松戸市	ルーマニア	

[東京2020オリンピック事前キャンプ実績] (下線部は、合意に至ったが中止となったもの。)

自治体	相手国	競技・種目
県	オランダ	競泳、アーティスティックスイミング、 水球女子、陸上
	アメリカ	水球女子
県・成田市・ 佐倉市・印西市	アメリカ	<u>陸上</u>
市川市	ブルガリア	新体操

船橋市	アメリカ	体操男子
館山市	オランダ	マラソンスイミング男子、 トライアスロン
	アメリカ	<u>トライアスロン</u>
木更津市	ナイジェリア	陸上、カヌー、ボート、卓球、テコンドー、 レスリング、 <u>バドミントン</u> 、 <u>体操</u>
松戸市	ドミニカ共和国	テコンドー、 <u>バレーボール</u> 、 <u>体操</u>
	ルーマニア	陸上、 <u>卓球</u> 、 <u>レスリング</u> 、 <u>フェンシング</u> 、 水泳
成田市	カナダ	サッカー女子
	オランダ	3×3 バスケットボール男子
	オーストラリア	陸上
	スロベニア	陸上
佐倉市	ドイツ	レスリング女子
旭市	ドイツ	<u>卓球</u>
	ザンビア	<u>サッカー女子</u> 、 <u>水泳</u> 、 <u>柔道</u> 、 <u>バドミントン</u> 、 <u>ボクシング</u> 、 <u>陸上</u>
市原市	オーストラリア	サッカー男子
	イスラエル	陸上、新体操
流山市	オランダ	ハンドボール女子、卓球、 <u>バドミントン</u>
我孫子市	スロベニア	柔道女子、テコンドー男子、 <u>空手</u>
鴨川市	オランダ	サッカー女子
浦安市	スロバキア	陸上
	オランダ	アーチェリー
印西市	アメリカ	体操女子
	オランダ	体操
	アイルランド	体操男子
香取市	スロバキア	カヌー
山武市	スリランカ	<u>陸上</u> 、 <u>柔道</u> 、 <u>バドミントン</u>
横芝光町	ベリーズ	<u>カヌー</u> 、 <u>陸上</u>
長柄町	ロシア	<u>フェンシング</u>

〔東京 2020 パラリンピック事前キャンプ実績〕(下線部は、合意に至ったが中止となったもの。)

自治体	相手国	競技・種目
県	オランダ	陸上
木更津市	ナイジェリア	陸上、パワーリフティング、ボート、卓球
成田市	アイルランド	アーチェリー、陸上、パワーリフティング、水泳、卓球
柏市	イギリス	車いすテニス
流山市	オランダ	卓球、 <u>車いすバスケットボール</u>
浦安市	イギリス	<u>車いすバスケットボール</u>
山武市	スリランカ	<u>陸上</u> 、 <u>卓球</u> 、 <u>アーチェリー</u>

### ・パラリンピックキャンプ受入体制の整備

#### □パラリンピック選手のキャンプ受入体制整備

##### ・パラリンピック選手のキャンプ受入体制整備【県】[H27~H29]

障害者アスリートとの交流会等に対する補助制度を設けることで、市町村等による取組を促進し、パラリンピック競技のキャンプ誘致に向けた機運の醸成を図りました（5市7件で補助金を活用して事業を実施しました。）。

#### □受入宿泊施設等従業員向け研修会の実施

##### ・宿泊施設の従業員向けセミナーの開催【県】[H30] 戦略4再掲

東京2020大会に向け、障害のある人への対応力を向上させ、ソフト面でのバリアフリー（心のバリアフリー）対応の充実を図るため、県内の宿泊施設を対象に、「宿泊施設のための心のバリアフリースキルアップセミナー」を開催し、約30人が参加しました。

## ○国際大会等の誘致

千葉県スポーツコンシェルジュの取組のほか、補助制度の有効活用により、多くの国際大会を誘致しました。

### ・世界選手権など国際大会の誘致推進

#### □国際大会の開催支援

##### ・国際スポーツ大会誘致に向けた補助制度の拡充とスポーツコンシェルジュの活用【県・ちば国際コンベンションビューロー】[H28~R1]

本県のスポーツ振興や魅力発信、地域の活性化にもつながる国際スポーツ競技大会を誘致するため、大会を開催する競技団体等への補助制度を拡充

したほか、千葉県スポーツコンシェルジュを活用し、大会の開催を支援しました。

〔国際大会への補助実績〕

H28：WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN（一宮町）

H29：WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN（一宮町）

2018 Goalball Japan Men's Open（ゴールボール・ジャパン・メンズオープン）（佐倉市）

H30：第16回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会

（千葉市・成田市・習志野市・市原市）

R1：SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019（千葉市）

千葉2019ワールドテコンドーグランプリ（千葉市）

2019年女子レスリングワールドカップ成田大会（成田市）

2019 IBSA ゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉（千葉市）

## □競技団体との連携による国際大会・スポーツイベントの誘致

### □県内開催競技の国際大会の誘致

#### ・国際大会の誘致【県・市町村・競技団体】[H27～]

東京2020大会の機運醸成や大会運営の検証等を行うとともに、県内のスポーツ振興や魅力発信、地域の活性化につなげるため、東京2020大会において県内で開催される競技等の国際大会を開催しました。また、県内学校の子供・生徒を対象に国際大会の観戦事業を実施し、県内開催競技等への理解や関心を高めるとともに、交流人口の増加による地域の活性化を図りました。

〔国際大会の誘致実績〕

#### ・2015IWBF アジアオセアニアチャンピオンシップ誘致【県・千葉市】[H27]

県、千葉市、日本車いすバスケットボール連盟が協力して千葉ポートアリーナ（千葉市）での開催誘致に成功し、高校生・大学生、一般のボランティアが通訳や運営補助を行ったほか、開会式や試合中のハーフタイムには県内の中高生がパフォーマンスを披露するなど、多くの県民が参加する大会となりました。

#### ・第16回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会誘致【県・千葉市・成田市・習志野市・市原市・ちば国際コンベンションビューロー】[H30]

千葉県スポーツコンシェルジュによって誘致に成功した大会であり、事前キャンプも県内各地で行われました。また、会場となった成田市では、子供・生徒が参加チームへの応援幕を作成し、各国の選手を応援したほか、習志野市では、球場隣の多目的広場で訪日外国人に「日本の夏祭り」を体験してもらうイベントを開催し、市原市では、選手や来場者を地元グルメや特産品でおもてなしをするなど、様々な国際交流が実現しました。

#### ・第13回パンパシフィック水泳競技選手権大会 OWS 競技【館山市】[H30]

日本水泳連盟が館山市北条海岸を舞台に平成12年から開催してきた「ジャパンオープン OWS 大会」の実績から、オリンピック、世界水泳と並び水泳界の世界三大大会の一つであるパンパシフィック水泳選手権大会のオープンウォータースイミング競技が平成30年に北条海岸で開催されました。

この大会後に日本水泳連盟主催で開催された「第94回日本選手権水泳競技大会 OWS」では、リオデジャネイロ大会マラソンスイミング男子の金メダリストフェリー・ウェールマン選手がプレゼンターを務めました。館山市の海を気に入った同選手は、東京2020大会の事前キャンプも館山市で行いました。

- ・ WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN (サーフィン国際大会一宮千葉オープン)  
【県・一宮町・いすみ市】 [H28~R1]

県と一宮町、いすみ市が東京2020大会サーフィン競技会場の誘致活動を展開する中でスタートした大会であり、その成果もあって釣ヶ崎海岸での東京2020大会開催につながりました。平成30年度の大会では、長生地域の小学生を対象にサーフィン教室を実施し、約210人が一宮町サーフィン業組合所属の講師からサーフィンのルールや技の種類等について説明を受けました。

なお、令和元年度にはWSL QS6000に続いてサーフィン日本一を決定する第1回ジャパンオープンオブサーフィン(日本サーフィン連盟主催)が行われ、令和2年度にも第2回大会が行われました。

- ・ Goalball Japan Men's Open (ゴールボール・ジャパン・メンズオープン)  
【県・佐倉市】 [H29~H30]

佐倉市民体育館で開催され、佐倉市の子どもたちがエスコートキッズ、千葉県国際交流センターの語学ボランティアが場内アナウンスや通訳、順天堂大学スポーツ健康科学部の「障がい者スポーツ同好会」を中心とした大学院生・学部生がボランティアスタッフとして参加しました。

- ・ ジャパンパラゴールボール競技大会【千葉市】 [H29~R2]

千葉市では、平成29年度からジャパンパラゴールボール競技大会が開催されており、平成30年度には「天皇陛下御在位三十年記念2019ジャパンパラゴールボール競技大会」として実施されました。また、令和元年度には東京2020大会のテスト大会として「天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラゴールボール競技大会」が開催され、県立幕張総合高校ダンス部やきみつ少年少女合唱団による応援パフォーマンスが披露されました。令和2年度には、コロナ禍で海外チームの招聘を断念するも、日本代表チームの競技力強化を目的として、2021ジャパンパラゴールボール競技大会を無観客で開催しました。

- ・ 2019 IBSA ゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉【県・千葉市】 [R1]

千葉ポートアリーナで開催され、アジアパシフィック地域の国際視覚障害者スポーツ連盟(IBSA)加盟国のチームが千葉ポートアリーナに集結しました。

- ・ シットィングバレーボールチャレンジマッチ2019【千葉市】 [R1]

日本、中国、カナダ、イタリアの女子代表チームによる国際親善試合として実施され、市立習志野高校吹奏楽部の生徒たちが、演奏に加え、手拍子と声による応援を行いました。

- ・ SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019【県・千葉市】、  
高円宮杯 JAL PRESENTS FENCING WORLD CUP 2019【千葉市】 [R1]

千葉ポートアリーナに、アジア・オセアニア地域より約30の国・地域の選手が集結し、東京2020大会の団体戦出場枠の確保に向けた重要な大会として、SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019が開催されました。また、

幕張メッセでは、東京 2020 大会の運営能力を高めることなどを目的としたテスト大会として、高円宮杯 JAL PRESENTS FENCING WORLD CUP 2019 が開催されました。

- ・ Chiba 2019 World Teakwondo Grand-Prix (千葉 2019 ワールドテコンドーグランプリ) 【県・千葉市】 [R1]

千葉ポートアリーナにて「千葉 2019 ワールドテコンドーグランプリ」(ワールドテコンドー主催、全日本テコンドー協会・千葉市共催) が開催され、市原市にキャンパスのある帝京平成大学の健康医療スポーツ学部の学生が運営ボランティアとして協力参加しました。

- ・ 2019 年女子レスリングワールドカップ成田大会 【県・成田市】 [R1]

中台運動公園体育館(成田市)で開催され、県立成田国際高校ダンス部 1、2 年生 32 人がオープニングアクトに登場しました。代表の 2 人が英語と日本語で挨拶し、レスリングのマットの上で 3 つのユニットに分かれてダンスパフォーマンスを披露しました。また、大会の初日にはレスリング教室が開催され、県内のレスリングクラブの子どもたちが参加しました。

## ○誘致に関する情報の一元化

千葉県スポーツコンシェルジュによるワンストップでの情報提供や、ネットワーク・ノウハウ等の共有により、キャンプ・国際大会等の効果的な誘致活動を進めました。また、大会を契機としてスポーツコミッションが設立された地域もあり、大会後も誘致活動を継続し、地域活性化につなげていこうとする動きも生まれています。

### ・オリンピック・パラリンピック後も見据えたキャンプや国際大会等の誘致

#### □誘致に関する情報の一元化(コンシェルジュ機能)

- ・ スポーツコンシェルジュの設置【県・ちば国際コンベンションビューロー】 [H27~R3] 再掲

東京 2020 大会の事前キャンプを誘致しようとする県内市町村を支援するため、平成 27 年度に千葉県スポーツコンシェルジュを設置し、競技施設・宿泊施設の情報等をワンストップで提供できる体制を整備しました。千葉県スポーツコンシェルジュの支援により、東京 2020 大会以外の案件も含め、23 件の事前キャンプや国際大会等が合意に至りました。

#### □キャンプ等の効果を一過性にしないための継続的な取組

- ・ 地域スポーツコミッションによる地域活性化【市町村】 [H30~]

大会やキャンプ誘致を契機として、地域内にスポーツコミッションが設立された市町村では、培ったノウハウや情報、人脈を生かしながら、オリンピック・パラリンピック後も継続して様々なキャンプや国際大会の誘致を

進め、地域活性化につなげていくための取組を行っています。

鴨川市では、キャンプ・国際大会等の誘致や市総合運動施設の利活用により、スポーツによるまちづくりを推進することを目的として、平成31年3月にウェルネススポーツ鴨川を設立し、サイクルツーリズム、マリン・ビーチスポーツの推進など、地域の資源を活用した事業を展開しました。

## OMICEの誘致

自治体や関係団体が連携して積極的な誘致活動を展開し、県内へのMICE誘致件数を増加させました。また、その取組が認められ、世界的な評価を受けるなど、国際的なブランドイメージの向上に寄与しました。

### ・MICE誘致の推進

#### □MICE誘致の推進

#### □関係機関との連携によるMICEの誘致

#### □幕張メッセの機能強化と展示会等の積極的誘致

#### ・MICE誘致の推進【ちば国際コンベンションビューロー】[H26~]

ちば国際コンベンションビューローでは、自治体や関係団体等と連携して積極的な誘致活動を展開し、平成26年度以降、県内へのMICE誘致件数の増加につなげました。また、令和元年度にはCvent社（アメリカ）によるMICE開催地の格付け「MICEアジアトップ25都市」の25位に千葉県・千葉市がランクインするなど、取組が国際的な評価につながりました。  
[県内へのMICE誘致件数]

H26:94件、H27:82件、H28:130件、H29:140件、H30:133件、R1:152件、R2:13件

#### □アフターコンベンションの魅力向上

#### ・幕張メッセでのイベント実施時の取組【千葉市・幕張メッセ・ちば国際コンベンションビューロー】[H29]

MICE関係者を対象としたユニークベニューやエクスカージョンコースを案内する冊子に、千葉市美術館や見浜園などの市内公共施設の情報を掲載して、PRを行いました。また、アフターコンベンションの魅力向上に資する取組として、市内公共施設や商業施設をコースに組み込んだツアーを検討し、FOODEX JAPAN 2019（平成31年3月開催）開催時には、外国人出展者を対象として「千葉シティナイトツアー」を実施しました。



## 戦略2 競技力の向上・スポーツの普及

戦略2「競技力の向上・スポーツの普及」においては、東京2020大会に向けたジュニアアスリートの発掘・育成・強化に取り組み、千葉県にゆかりのあるオリンピック・パラリンピック選手を一人でも多く輩出することを目指しました。特に、本県で開催される競技については、競技力の向上とともに、大会の成功へ向けて、県内の競技人口の増加など、普及と機運の醸成に取り組みました。

また、パラリンピック競技については、よく知られていない競技もあり、競技スポーツとしての理解も十分ではないことから、選手との交流等を通じて競技スポーツとしての魅力を広め、パラリンピック競技や障害者スポーツの普及につなげました。

さらに、オリンピック・パラリンピックの開催は、様々な年齢層がスポーツを通じた健康づくりや生きがいづくりを再認識する契機になることから、この機会を捉え、する・みる・ささえるスポーツなどを通して、元気と活力ある県民を増やす取組を行いました。その中では、スポーツツーリズムの推進により、本県への来訪者を増加させ、交流人口の増加による地域活性化へつなげていくこととしました。

### <主な取組実績>

#### ○2020年に向けた競技力の向上

強化指定による支援により選手の能力の向上を図ったほか、障害者スポーツについては、基盤強化を目的として、担い手育成のための研修・講習会や支援体制の構築などにも取り組みました。

#### ・ジュニア世代の競技力強化

##### □基礎強化支援

##### ・基礎強化指定の実施【県】[H26～H30]

国際大会等の視察や、国内外のトップレベルの選手・チームの招聘、外部指導者の活用など、オリンピック・パラリンピックを目指す高い意欲や意識を育てる活動を支援するため、延べ940人・48団体を基礎強化指定しました。

## □特別強化支援

### ・特別強化指定の実施【県】[H26～R2]

基礎強化支援に加え、海外・国内の遠征や強化合宿、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成等の医科学サポートなど、オリンピック・パラリンピック出場に向けた強化活動を支援するため、延べ1, 108人を特別強化指定しました。

## □障害者スポーツ選手の競技力強化

### □競技組織の支援体制の構築

#### ・各競技を統括して支援する組織の設置【県・千葉県障がい者スポーツ協会】[H30]

千葉県障がい者スポーツ協会の専門部会として、「障がい者アスリート部会（令和元年度に障がい者スポーツ強化・支援部会に改称）」を設置し、有望選手の掘り起こしや競技団体の育成・支援の体制強化を図りました。

### □パラリンピックアスリートの発掘

#### ・障害者スポーツ体験会の実施・支援【県・競技団体】[H27～R1]

有望選手の掘り起こしを目的として、平成27年度から平成30年度まで障害者スポーツの体験会を実施し、運動に対する意欲や能力の高い選手のパラリンピック競技への興味・関心が高まるよう取り組みました。また、令和元年度は、体験会を実施する競技団体に助成を行いました。

〔競技体験会の実施実績〕

H27	： 8 競技、延べ 13 日実施	355 人参加
H28	： 12 競技、延べ 22 日実施	525 人参加
H29	： 12 競技、延べ 23 日実施	616 人参加
H30	： 12 競技、延べ 22 日実施	780 人参加
R1	： 18 競技、延べ 69 日実施	1,823 人参加

### □パラリンピックアスリートの強化

#### ・基礎強化指定（パラリンピック）の実施【県】[H27～H30]

国際大会等の視察や、国内外のトップレベルの選手・チームの招聘、外部指導者の活用など、パラリンピックを目指す高い意欲や意識を育てる活動を支援するため、延べ163人・10団体を基礎強化指定しました。

#### ・特別強化指定（パラリンピック）の実施【県】[H27～R2]

基礎強化支援に加え、海外・国内の遠征や強化合宿、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成等の医科学サポートなど、パラリンピック出場に向けた強化活動を支援するため、延べ317人を特別強化指定しました。

## ○パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・振興

障害者トップアスリートと県民との交流促進等を図ったほか、県立の特別支援学校に障害者スポーツ用具を整備し、地域の障害者スポーツ環境の充実を図りました。また、パラリンピック競技や障害者スポーツの体験会を実施し、競技の周知や魅力の発信を行いました。

### ・パラリンピック競技や障害者スポーツの普及

#### □パラリンピック競技普及の担い手育成

##### ・パラリンピック競技普及の担い手育成【県・大学・市町村・競技団体】 [H28～R1]

県は、東京2020大会を契機に、これまでスポーツに親しむ機会の少なかった障害者がスポーツに参加できる機会を増やし、障害のある人となない人がスポーツを通じて相互に理解を深めることができる社会としていくため、広く大学や競技団体と連携してパラスポーツ普及の担い手育成を行っています。その一環として、教員を目指す大学生等・教職員・スポーツ指導員等を対象に競技体験会・講演・研修会等を開催しました。

[大学での障害者スポーツ研修・体験会の開催実績]

実施年度	大 学	競 技
H28	順天堂大学	ゴールボール
	帝京平成大学	ゴールボール
H29	国際武道大学	シッティングバレーボール
	麗澤大学	シッティングバレーボール
H30	聖徳大学	シッティングバレーボール
	植草学園大学	ゴールボール
	流通経済大学	ゴールボール

#### □障害者スポーツ選手との交流及び共同学習

##### ・県立特別支援学校を拠点とした障害者スポーツの振興【県】 [H30～R3]

地域の学校や住民、障害者スポーツ団体等との交流拠点となるよう、県立特別支援学校から拠点校を選出し、トップアスリートによる講演や実技指導等の実施、障害者スポーツのルールを解説したリーフレットの作成・配布などを行い、地域におけるパラスポーツの普及に向けて取り組みました。

県立東金特別支援学校では、『『オリ・パラ』サマーセッション in 東金』を開催し、ゴールボール、ボッチャ、テコンドー、車いすバスケットボール、車いすフェンシングの体験会を通じて、地域の小中学生や近隣大学の留学生を含め多くの県民が交流を行いました。

・障害者スポーツ体験会等の開催【県・市町村・大学・関係団体等】[H28～]

県・千葉市・県内大学等が連携して、平成28年度から「パラスポーツフェスタちば」を開催し、パラスポーツの魅力や素晴らしさを県民に体感していただけるよう、競技体験会や対抗戦を実施しました。平成29年度からは県内企業、平成30年度からは特別支援学校が対抗戦に出場するなど、年齢、障害の有無に関わらず、様々な方々にパラスポーツを体験していただく重要な機会となりました。

また、県・日本財団パラリンピックサポートセンター・競技団体等が連携して、平成28年度から流山市、旭市、君津市、いすみ市の各市において「パラスポーツフォーラム in CHIBA」を開催しました。パラスポーツの魅力を伝えるとともに、障害への理解を深める契機としていただけるよう、県内開催競技の紹介やパラアスリートとの交流、競技体験会を実施しました。

さらに、県では、パラアスリートによる基調講演や、企業・福祉関係者、学生、パラアスリートによるパネルディスカッション、県の取組の紹介などを通して、関係機関の「輪」を更に広げ、パラスポーツの振興に取り組む契機とするため、令和元年8月、ホテルポートプラザちばで「パラスポの『輪』フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、「パラスポーツを通してバリアのない社会を作り上げていく」ことをテーマに県内の大学生が運営スタッフとして企画から関わって開催されました。また、同年実施したパラ「旅」応援事業でボランティアに従事する学生により組織された「パラ旅応援団」の結成式も行われました。

令和元年には、学生団体おりがみが「みんなの遊び場パラステーション」をJR千葉駅で開催し、ボッチャの体験会等を通して障害者スポーツの魅力を広く県民に発信したほか、各市町村や大学等においても、様々な機会に障害者スポーツ体験会等を開催しました。(各市町村等における体験会・教室等の開催実績はP38参照、大学の取組実績はP44参照)

[パラスポーツフェスタちばの開催状況]

年度	参加者数	概要
H28	861人	体験会、対抗戦 ※NHK-FM ラジオ公開録音
H29	2,994人	体験会、対抗戦 ※J-MELO、NHK ハートフォーラム等開催
H30	3,985人	体験会、対抗戦 ※NHK-FM ラジオ公開録音
R1	10,091人	体験会、対抗戦 ※NHK テレビ収録
R2	2,528人	体験会、対抗戦、学生企画
R3	3,981人	体験会、対抗戦

[パラスポーツフォーラム in CHIBA の開催状況]

年度	主催	場所
H28	県、流山市教育委員会	キッコーマンアリーナ（流山市民総合体育館）
H29	県、旭市教育委員会	旭市総合体育館
H30	県、千葉県教育委員会、君津市、君津市教育委員会	新日鐵住金(株)君津体育館
R1	県、千葉県教育委員会、いすみ市、いすみ市教育委員会	いすみ市立大原中学校 体育館・武道館

□障害者スポーツ環境の充実

・県立特別支援学校へのパラスポーツ用具の整備【県】[H30～R2]

全ての県立特別支援学校にボッチャやゴールボール等のスポーツ用具を整備し、児童・生徒が障害者スポーツに接しやすい環境を整えました。また、用具は地域の小中学校、高校への貸出も行い、地域全体の障害者スポーツの普及に寄与しました。

・パラスポーツコンシェルジュの設置【千葉市】[R1～]

令和元年度に、障害のある人が地域のスポーツ活動に参加するためのつなぎ役として、コーディネーターが障害の種類・程度に応じたスポーツの紹介やサークル活動へのマッチングを行う「ちばしパラスポーツコンシェルジュ」を設置しました。

□障害者スポーツの周知・魅力発信

・パラスポーツ大会応援イベントの実施【千葉市・経済団体等】[H30～R1]

パラスポーツ大会の観戦を通して、多くの人にパラスポーツファンになってもらうことを目的として、パラスポーツ大会に合わせて、産学官連携による応援イベント「Go! Together! ～みんな一緒に共生する未来～」(千葉市、みんなで応援! 千葉県経済団体協議会、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会主催)を実施しました。「2018 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会」、「第8回長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車いすバスケットボール全国選抜大会」、「シッティングバレーボールチャレンジマッチ2019」、「天皇陛下御即位記念2019 ジャパンパラゴールボール競技大会」と併せて開催され、地元企業などが学生ボランティアと一緒にパラスポーツ体験ブースを運営したほか、県内の飲食物販店によるご当地グルメ等を堪能できるフードコートが設けられました。また、競技会場最寄り駅から競技会場に誘引するイベントを実施し、競技会場との回遊性を高めたほか、駅や商業施設でのポスター掲出による周知を行うなど、観客増加につなげました。

・ 動画による魅力発信【県・NHK】

NHKの協力のもと、パラスポーツのアニメ「アニ×パラ」を県庁内ロビー等で放映し、パラスポーツを身近に感じてもらうとともに、東京2020大会に向けた機運の醸成を図りました。

**○県民のスポーツ振興や健康づくり機運の醸成**

県内各地で実施された競技体験会、トップアスリートとの交流会等により県民のスポーツへの興味関心や主体的な参加意欲の向上等が図られました。また、スポーツツーリズムの推進やスポーツボランティアの育成など、スポーツを核とした地域活性化につながる取組も進みました。

**・ する・みる・ささえるスポーツの推進**

□子どもたちが、オリンピック・パラリンピックを「みて」「ふれて（体験）」  
「ささえて（チーム、選手の応援）」感動を体験するための取組

・ 県内学校による国際大会の観戦・応援【県・市町村】[R1]

県内小中学校の児童・生徒に、千葉ポートアリーナで開催される国際大会の観戦・応援機会を提供し、子どもたちのスポーツへの関心を高めるとともに、パラリンピック競技を競技スポーツとして楽しむ風土の醸成や、競技を通じた障害者理解の深化を図りました。

[県内学校の国際大会観戦実績]

大会名	学校数	参加人数
シッティングバレーボールチャレンジ マッチ 2019	18校	約1,800人
SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会 2019	21校	約2,100人
千葉 2019 ワールド テコンドーグランプリ	11校	約1,100人
2019 IBSA ゴールボール アジアパシフィック 選手権大会 in 千葉	55校	約4,800人

・ 学校連携観戦プログラムの実施【県・市町村】[R3]

オリンピック・パラリンピックの競技観戦を通じて、次世代を担う子どもたちに、一生の財産として心に残るような機会を提供するための取組として実施された学校連携観戦プログラムを活用し、県内の小中学校、高校、特別支援学校の生徒へ東京2020大会の観戦機会の提供を図りました。

新型コロナウイルス感染症の影響等により、当初の計画どおりの運用はできませんでしたが、6日間で約3,000人の子どもたちが東京2020大会を観戦しました。

#### □生涯スポーツの推進

##### ・スポーツ体験会・教室等の開催【市町村】[H26～]

子どもから大人、高齢者や障害のある人など県民の誰もが、日常的にスポーツに親しみ、心身共に充実した活力ある生活を送れるよう、スポーツ体験会や教室等の実施により、個人の運動やスポーツへの主体的な参加を促進するとともに、東京2020大会に向けた機運醸成を図りました。

(各市町村等における体験会・教室等の開催実績はP38参照)

#### □人づくりの推進

##### ・スポーツボランティアの育成【市町村・大学等】[H27～] 戦略1再掲

事前キャンプやスポーツ大会の開催を契機として、市町村や大学等において、スポーツ活動における支援を行うスポーツボランティアの育成が進みました。

##### ・指導員研修会の開催【横芝光町】[R1]

日本障害者カヌー協会から講師を招き、講義と実技研修を実施しました。

#### □地域によるスポーツイベント等の開催の推進

##### ・スポーツイベントの開催【市町村・競技団体】[H26～]

スポーツイベントが県内各地で開催され、「する・みる・ささえるスポーツ」の裾野の拡大とともに、本県の有する様々な魅力を発信していく機会となりました。

[主なスポーツイベントの開催実績]

市町村	大会
館山市	Pan Pacific Swimming Championships 2018 (OWS 競技)
	館山わかしおトライアスロン、館山若潮マラソン
	館山南房総鴨川ライド、ツールドちば、Station Ride in 南房総
成田市	成田 POP ラン大会
成田市・芝山町	成田エアポートツーデーマーチ
鴨川市	JBCF ロードレースシリーズ ブルークリテリウム in 鴨川
南房総市	ジュニアオープンサーフィン選手権大会

## ・スポーツ環境の整備

### □千葉県総合スポーツセンターの整備

#### ・千葉県総合スポーツセンターの整備【県】[H28～R1]

本県の中核的スポーツ施設として位置付けられている千葉県総合スポーツセンターについて、国際大会や海外チームのキャンプ等で有効に活用できるように、武道館空調設備工事や野球場改修などの施設整備を実施しました。

## ・スポーツを活用した地域の活力づくり

### □スポーツツーリズムの推進

#### ・スポーツツーリズムの推進【県・市町村】[H28～]

本県の豊かな自然と温暖な気候に恵まれた、様々なスポーツを楽しむ絶好の環境と、スポーツ施設や観光施設を生かし、各主体が連携したスポーツツーリズムの取組が推進されました。

[スポーツツーリズムの主な取組]

市町村	取組
成田市	・NARITA スポーツツーリズムフェスの開催 [H30～R2] 近隣の自治体や企業、ホストタウン相手国などと連携し、スポーツツーリズムを通じた地域の魅力発信や地域連携体制の強化を図りました。
鴨川市	・JBCF ロードレースシリーズの開催 [H28～R1] 大会開催を契機として、サイクルスポーツ及びサイクルツーリズムの普及、市民意識の高揚等を図りました。

### □プロチームやトップアスリートによる地域との交流や地域の活性化

#### ・トップアスリートを招いた教室・交流会等の開催【県・市町村・学校・大学・競技団体・企業など】[H26～]

市町村や大学等において、トップアスリート等を招いたスポーツ教室や交流会等を多数開催し、交流を通じて子どもたちに夢を与えるとともに、競技の裾野拡大や競技力の向上を図りました。

[各市町村等における体験会・教室等の開催実績]

市町村	取組内容
千葉市	市職員研修の科目の一つとして、新任課長約 100 人を対象にゴールボール競技体験会を実施 [H28]
	オリンピック・パラリンピアン等による講演会等を開催 (5 回) 【生涯学習センター】 [H28～R3]
	パラスポーツフェスタちばなどで競技体験会を実施 [H28～]



	障害者アスリートによる学校訪問を実施 [H28～]
	小中学校で車いすバスケットボールなど競技用車いすを活用した授業を实践 [H29～]
	アスリートとの交流及びパラスポーツの試合観戦を実施 [H29～R2]
	千葉市立全小中学校で体育・保健体育におけるパラスポーツを実施するとともに「体育理論」を充実 [H30～]
	海外障害者アスリートとの交流を実施（市内小学校での講話や競技体験会） [H30～R1]
	小学校記念陸上大会へパラアスリートを招聘等 [H30～R2]
	小学校球技大会に向けてパラアスリートから児童へのメッセージ動画を配信 [R3]
市川市	スポーツ選手との交流・体験会等を開催 [H29～]
	いちかわ市民まつりでボッチャ、ゴールボール、フェンシングの体験会を実施 [H30]
船橋市	パラスポーツ体験授業を開催し、ゴールボールなど県内開催競技を中心に体験会等を実施 [H29～]
	企業に所属するアスリートを講師に迎え、市内小学生を対象とした陸上教室を実施 [H30～]
	企業等と連携し、小中学校で「あすチャレ！スクール」及び「ユニバーサルラン義足体験授業」を実施 [R1]
館山市	ビーチバレー日本強化選手等による指導を実施 [H28]
	館山市立豊房小学校・館山市立第二中学校（オリパラ教育推進校）で、オリンピック等による講演、ボッチャ体験、サッカー教室等を実施 [H29～]
木更津市	企業に所属するアスリートを講師に迎え、義足体験と障害について考える講義を実施 [H30]
	市内イベントやハンディキャップのある方が参加する公民館クラブで、ボッチャ体験交流会を実施 [H30～]
	新設された陸上競技施設のオープニングイベントで、オリンピック・パラリンピアンを講師に迎え、デモンストレーションや小学生を対象とした「かけっこ教室」等を開催 [R1]
	オーガニックフェスティバルにて、ブラインドサッカー体験会を実施 [R1]
	オーガニックフェスティバルにて、プロアスリートによるスケートボード教室を実施 [R1]
	オリパラ教育推進校でブラインドサッカー体験授業を実施 [R2]

松戸市	アスリート等による講演会を開催[H27～]
	オリパラ教育推進校で取組を推進（車いすラグビーメダリストや車いすバスケットボール選手による講演会及び体験会、ホストタウン相手国との交流に係る学習）[H29～]
	市内イベント等でボッチャ体験会を開催 [H30～]
	大会1年前を記念したフェスティバルで、ラグビーやフェンシング体験を実施 [R1]
	1964年東京オリンピック体操あん馬のメダリストの対談を実施 [R1]
野田市	オリパラ教育推進校で取組を推進 [H30] ・給食「世界の郷土料理」月間 ・ブラインドサッカー体験会 ・障害者スポーツ陸上競技幅跳びの選手によるブラインド体験会 ・陸上競技高跳びの選手による高跳びの実技指導体験会及び講演 [R1] ・世界の食事「オリンピック・パラリンピック給食」 ・元200mハードルアジア記録保持者を招いた「かけっこ教室」 ・車いすテニス選手とテニス上級コーチを招いたテニス体験や車いす乗車体験 ・JOCエリートアカデミーディレクターを招いた講演会 ・元スキー選手による講演会
	福祉のまちづくりフェスティバルにおいて、パラスポーツ体験会（ボッチャ・フライングディスク）を実施 [R1～]
	もばらスポーツフェスティバルでパラスポーツ体験やオリンピックによる講演を実施 [H30]
成田市	共生社会実現のための講演会や体験会を開催【成田市・オリンピック・パラリンピック等経済界協議会・東京ガス】[H28～] （中学校でのパラテコンドー教室、小学校でのボッチャ体験教室、日本パラリンピック委員会副委員長等の講演会、パラスポーツ体験会）
	アメリカのナショナルコーチとトップアスリートを招いた陸上クリニックを開催（小中学生対象のクリニックや高校生対象の練習指導などの交流、指導者へのクリニックなど）[H29～]
	アイルランドパラ水泳代表チームと市内中学校水泳部との水泳クリニックを開催[H30]
	アイルランドパラ水泳代表チームによる特別支援学校及び市内小学校への学校訪問を実施[H30]

	NARITA スポーツツーリズムフェスを開催（パラリンピアン の出演、ボッチャの体験会等）【成田市・オリンピック・パラリ ンピック等経済界協議会・イオンモール成田ほか】 [H30～]
	公津の杜コミュニティセンターでパラスポーツ（ボッチャ、 車いすバスケットボール、ブラインドサッカー、競技用義足） の体験会を開催【成田市・東京ガス】 [R1]
佐倉市	義足アスリートを講師に迎え、小学生を対象にスポーツ義足 体験と障害について考える講義を実施 [H29～R1]
	ブラインドサッカー、ゴールボール、ボッチャ、車いすバスケ の体験会や体験授業を実施 [H30～R1]
	オリンピック金メダリストを招き、幼稚園児から高校生を対象 としたレスリング教室を開催 [R1]
東金市	小学生とその保護者を対象にボッチャ体験会を開催 [R1]
旭市	日本卓球協会強化本部長による卓球指導会・体験会等を開催 [H29～H30]
	中学校・高校の卓球部員を対象に、卓球ジュニアナショナル チーム監督、コーチによる指導会を開催 [R1]
習志野市	オリパラ教育推進校で取組を推進（オリンピック等を講師とし て招き、オリンピック・パラリンピックと福祉教育等とを関連 させた学習を実施） [H29～]
	子どもがつくるオリンピック広報誌事業を推進 [R1] 子ども記者たちが、市内で第 18 回世界水泳選手権大会に向け た事前キャンプを行っていたオランダ水泳選手に取材を実施 し、習志野こどもしんぶん「オリンピック・パラリンピックが やってくる！号」を作成
柏市	トップアスリートによる講演会等を開催し、延べ 2,561 人が 参加 [H27～R3]
	パラアスリートによる車いす体験会等を開催する「スポーツ ドリームかしわ」を実施 [H28～R2]
	障がい者スポーツ体験交流事業を推進（障がい者スポーツ選手 や関係者を市内小中学校全校（63 校）に派遣し、スポーツ体験 交流や講演等を実施） [H29～R1]
	パラバドミントン学校訪問事業を推進【NPO 法人スマイル クラブ（市内団体）】 [H30～R3]
勝浦市	勝浦中学校の生徒を対象としたパラスポーツ全般の体験教室を 実施 [H30]
	小学校において、県内のシッティングバレーボールチームの 協力のもと、体験教室を実施 [R1]

市原市	市原市パラスポーツフェスティバルを開催 [H29～H30]
	女子ソフトボールニュージーランド代表による、ソフトボール教室や学校訪問を実施 [H29～R1]
	ユニバーサルラン義足体験授業を実施 [H29～R2]
	ラグビーアイルランド代表による、市ラグビー協会所属の子どもたちへの写真撮影・サイン会を実施 [R1]
	サンウルブズによるラグビー教室を実施 [R1]
	車いすバスケットボール体験授業を実施 [R1～R3]
	市ゆかりのパラリンピック選手の講演会 [R2] や壮行会 [R3] を開催
流山市	キックマン アリーナでトップアスリートとの交流を実施 [H29～R3]
八千代市	オリパラ教育推進校で取組を推進（水球体験等の実施、国際理解や障害のある人への理解を深める学習） [H30～R3]
	日本代表選手による講演、競技指導等の水球普及イベントを開催（東京 2020 応援プログラム）【八千代市・秀明大学】 [R1]
鴨川市	車いすバスケットボール選手との交流会を実施 [H26～H29]
	女子ソフトボール、女子ラグビー、陸上競技などの日本代表選手による教室を実施 [H27～H29]
	競技用車いす体験や、ボッチャ、ブラインドサッカーなどのパラスポーツ体験会を実施 [R1～R2]
	フェンシング日本代表（当時は候補）選手による市内小学校での体験会・講演 [R2]
	ブラインドサッカー体験会や、日本代表選手の講演会・シンポジウムなどを開催 [R2]
君津市	パラスポーツフォーラム in CHIBA 2018 を開催し、パラリンピアンによる講演会やパラスポーツの体験会を実施 [H30]
	オリパラ教育推進校等でボッチャやブラインドランニングのパラスポーツ体験会を実施 [H30～R1、R3]
富津市	オリパラ教育推進校でパラスポーツ学習を実施 [R2]
浦安市	浦安スポーツフェア、みんなのスポーツの集いにおいて、オリンピック・パラリンピック競技体験コーナーを運営 [H26～R3]
	東京 2020 パラリンピック出場を目指すシッティングバレーボール選手の講演会を実施 [H30]
	オリパラ教育推進校で「かけっこ教室」を実施 [H30]
	オリパラ教育推進校がオーストラリア車いすバスケットボール女子代表チームと競技体験交流会を実施 [H30]

	「第5回障がいのある人もない人も！かがやくまちうらやす」にて、浦安ボッチャ協会によるパラスポーツ（ボッチャ）の実演と体験コーナーを設置 [R1]
	オリパラ教育推進校で「ユニバーサルラン・スポーツ義足体験授業」を実施 [R1]
袖ヶ浦市	オリンピック、パラリンピアンを講師として市内小中学校に招き、累計24回の実技指導・講演会を実施 [H28～R1]
	アスリートによる車いすバスケットボール体験会やボッチャ体験会など、パラスポーツ体験会を開催 [H28～]
八街市	やちまたふくしフェスタを開催し、アスリートを招いた体験会や講演会を実施 [H29～R1]
印西市	スポーツフェス2018において、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会・順天堂大学協力により、ボッチャ体験ブースを設置 [H30]
	ゴールボール等パラリンピック競技の体験会を小中学校で実施 [H30～]
	オリンピック4人を講師に招き、中学生を対象とした陸上クリニックを実施 [R1]
	市内在住のパラアスリートを講師として招き、小中学校で講演会を実施 [R1～]
白井市	市出身オリンピックによる講演会を企画 [R3]
富里市	体育の日イベントで野球・サッカーのプロチームによる教室を開催 [H29～H30]
山武市	トップアスリートスポーツ教室を開催 [H28～]
	ボッチャ体験交流会を開催 [H28～]
	パラスポーツフォーラムを開催し、市内中学生の競技体験を実施 [R1]
	パラアスリートによる講演会を開催 [R2]
いすみ市	地元サーフィン業組合指導のもと、オリパラ教育推進校の小中学校児童（6年生全員）が毎年サーフィン体験を実施 [H29～R3]
	パラスポーツフォーラムを開催し、市内中学生が競技体験 [R1]
栄町	「さかえスポーツフェスタ～誰もがオリンピックを目指して～」を開催し、オリンピック出場選手等を招き、中学生を対象としたスポーツ教室（バレーボール・卓球・陸上・バスケットボール等）を実施。平成30年度は、順天堂大学の協力により、親子体操教室を小学4～6年生の親子を対象に実施 [H26～R3]
多古町	いきいきフェスタ TAKOにおいて、スポーツ推進委員・ボッチャ協会・順天堂大学の協力により、VRフェンシング・VRサーフィン・ゴールボール・ボッチャの体験会を実施 [R1]

	スポーツ推進委員の協力により、小学生を対象にボッチャ体験会を実施 [R3]
横芝光町	オリンピック・パラリンピアンによるスポーツ教室と講演会を開催 [H30]
	パラリンピック競技（ボッチャ、フライングディスク、カヌーなど）の体験会を実施 [H30～R3]
一宮町	日本パラリンピック副委員長によるパラスポーツ講演会を開催 [H30]
	プロサーファーをゲストに迎え、一宮商業高校の生徒を対象にしたサーフィンの講義を実施 [H30]
睦沢町	公民館ロビーでボッチャ体験会を開催[R1～]
長柄町	千葉大学フェンシングサークルと協働したフェンシング体験会の開催 [R1]
	小中学校で千葉大学と協働したボッチャ体験会を開催[R3]
	小中学校でトライアスロンのプロコーチによるスポーツ教室を開催 [R3]
大多喜町	パラリンピック競技体験会を実施[R1]
鋸南町	鋸南町運動まつりで「パラスポーツ」の体験会を実施
	教育の日に、ブラインドマラソンのガイドランナーとして活躍した方を招き、講演会を実施 [R2]

[大学の取組実績]

大学	取組内容
千葉大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の一環として市民参加型スポーツイベントを開催 [H26～]</li> <li>パラスポーツ体験会・シンポジウムを開催 [H28～]</li> </ul>
神田外語大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラスポーツ理解のための講座や交流会を実施 [H29～]</li> <li>オリンピックゴールドメダリストによる講演会を開催 [R1]</li> <li>オリパラボランティア講演会&amp;留学生とパラスポーツ・日本文化体験会[R1]</li> </ul>

**・ 本県開催競技の普及・振興**

□大会へ向けた競技の普及

・ 学校訪問プロジェクトの実施【県・市町村・競技団体】[H29～R3]

県は、各競技団体と連携し、東京2020大会に向けた機運醸成を図るとともに、子どもたちに県内開催競技の魅力や見どころを伝え、競技に対する理解を深めてもらうため、県内の小中学校、高校、特別支援学校を訪問して競技体験等を行う学校訪問プロジェクトを、平成29年度以降57回実施しました。

〔学校訪問実績〕

競技	実施市町村	回数
フェンシング	千葉市（3回）、市川市、船橋市（3回）、松戸市（2回）、成田市、習志野市（2回）、柏市（2回）、市原市、流山市（2回）、八千代市、我孫子市（2回）、鎌ヶ谷市、富津市、浦安市（2回）、袖ヶ浦市、白井市、匝瑳市、香取市	28
車いすフェンシング	市川市、印西市、南房総市、大網白里市、神崎町	5
レスリング	千葉市（2回）、松戸市、野田市、佐倉市	5
サーフィン	茂原市（2回）、一宮町（5回）、長生村、白子町（7回）、長柄町（3回）、長南町	19
合計		57

□学校及びスポーツクラブ等の活性化と連携推進

- ・トップアスリートを招いた教室・交流会等の開催【県・市町村・学校・大学・競技団体・企業など】〔H26～〕再掲

市町村や大学等において、トップアスリート等を招いたスポーツ教室や交流会等を多数開催し、交流を通じて子どもたちに夢を与えるとともに、競技の裾野拡大や競技力の向上を図りました。

### 戦略3 成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化

戦略3「成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化」においては、年間発着枠30万回化やオープンスカイの進展、さらに第3旅客ターミナルビルの供用開始など大きな転換点を迎える成田空港について、国際線及び国内線ネットワークの拡充や成長著しいLCCの拠点化などに取り組みました。

これに加え、東京2020大会の開催を契機として、成田空港を利用する人や物が増大することが予想されたことから、この人・物の流れを県内へ取り込むことで、本県経済を活性化させることを目指しました。

そのような中、成田空港に降り立った選手や観光客が、ストレスを感じることなく、幕張メッセや釣ヶ崎海岸、選手村、県外の競技会場、県内外の観光地等へスムーズに移動できるよう、鉄道・バスの更なる利便性の向上を図るとともに、圏央道等を活用した交通ネットワークの強化を図りました。

また、大会期間中の円滑な交通を確保するために、組織委員会が行う各種交通対策に官民連携して協力しました。

#### <主な取組実績>

#### ○成田空港のネットワークの強化・充実

国際線及び国内線の路線誘致を進めるとともに、LCC専用ターミナルの供用開始や到着ロビーの拡張等によりLCCネットワークの拡充を図りました。

##### □国際線・国内線ネットワークの強化

###### ・国際線及び国内線の路線誘致【成田国際空港(株)】[H26~]

オープンスカイの進展等を最大限に活用して、路線誘致を積極的に展開し、平成26年4月から令和元年10月にかけて、成田空港における国際線就航都市数が100から118に、国内線就航都市数が15から22に増加<sup>(※)</sup>しました。

<sup>(※)</sup>令和3年11月時点では、国際線就航都市数は81、国内線就航都市数は20

##### □LCCネットワークの拡充

###### ・LCC専用ターミナル供用開始、到着ロビー拡張【成田国際空港(株)】[H27~]

成長著しいLCCの受入体制を強化するため、平成27年4月にLCC専用の第3ターミナルの供用を開始しました。また、令和元年9月には、1階到着ロビーの拡張により混雑緩和を図ったほか、宅配カウンターの新設



やWi-Fi レンタルカウンターの増設などにより第3ターミナルの利便性の向上を図りました。

#### □成田空港の利用促進と人・物の流れの取り込み

##### ・成田空港の利用促進と人・物の流れの取り込み【成田空港活用協議会】[H26～]

成田空港からの人・物の流れを県内に取り込み、千葉県経済の活性化に寄与するため、国内線就航先における県内観光PRイベントの開催や海外の旅行業者・メディア向け県内視察ツアーの実施など、官民連携して、国内線利用者の県内観光の推進やインバウンド県内観光の推進などに取り組みました。

### ○成田空港の利便性及び安全性の向上

A滑走路の夜間飛行制限を変更し発着時間を延長したほか、ノンストップゲート化により空港利用者の利便性・快適性を向上させるとともに、爆発物探知犬、ボディスキャナー等の導入により安全・保安体制の一層の強化を図りました。また、訪日外国人向けに様々な情報やサービスをワンストップで提供する Visitor Service Center などを新設し、更なる利便性の向上を図りました。

#### □夜間飛行制限の変更

##### ・夜間飛行制限の変更（A滑走路）【成田国際空港株】[R1]

国土交通省、県、空港周辺9市町、成田国際空港株式会社の四者で構成される「成田空港に関する四者協議会」での合意を得て、令和元年10月から、騒音・環境対策を実施した上で、A滑走路の発着時間を「6～23時」から「6時～24時」へ1時間延長しました。成田空港の滑走路の発着時間の延長は、昭和53年の開港以来、初めてのこととなりました。

#### □早朝・深夜利用等LCC就航への対応

##### ・北ウェイティングエリアの整備【成田国際空港株】[H27～]

早朝・深夜の滞在環境向上のため、平成27年7月、第2ターミナルに、椅子、フリーWi-Fi、充電設備等を備えた「北ウェイティングエリア」を整備しました（当該エリアは令和2年11月よりPCRセンターに改修）。

##### ・空港アクセスの拡充【鉄道事業者・バス事業者・市町村】[H26～]

鉄道・バス事業者では、早朝・深夜のLCC就航等に対応するため、鉄道・バスの運行時間の延長や増便を行いました。また、横芝光町では、令和元年度から、横芝光町ー成田空港間を結ぶ新空港シャトルバス「横芝光号成田便」の運行を開始しました。

## □ビジネスジェットの利用促進

### ・ビジネスジェットの利用促進に向けたPR活動【成田国際空港(株)】[H26~]

平成23年から令和元年までの毎年2回、国際的なビジネスジェットのコンベンション<sup>(※)</sup>に参加し、成田空港におけるビジネスジェットの利用促進に向けたPR活動を実施しました。

<sup>(※)</sup> Asian Business Aviation Conference and Exhibition (ABACE) 及びNBAA's Business Aviation Convention & Exhibition (NBAA BACE)

(令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

## □ノンストップゲート化<sup>(※)</sup>による安全でスムーズな入場の両立

### ・ノンストップゲート化【成田国際空港(株)・県警】[H26~]

開港以来、空港の入場ゲートにおいてセキュリティーチェックを行っていましたが、平成27年3月、成田国際空港株式会社はノンストップゲート化を実現し、千葉県警との連携により警備レベルを維持しつつ、利用者の利便性・快適性の向上を図りました。

<sup>(※)</sup> 検問による警備レベルと同等の警備を保ちつつ、空港利用者の利便性の向上を図るため、高度機械警備システム等の導入・整備により、利用者がスムーズに入場できるよう検問方法を変更すること。

## □魅力ある商業空間の創出及び空港利用者の利便性向上

### ・Visitor Service Center、「TOKYO2020 OFFICIAL SHOP」等のオープン【成田国際空港(株)】[H29~]

空港自体が観光地として人が集まるような魅力的な施設づくりを進めるとともに、空港利用者の利便性を向上するため、平成29年から、訪日外国人向けに様々な情報やサービスをワンストップで提供するVisitor Service Center等を順次オープンしました。また、東京2020大会に向けて「TOKYO2020 OFFICIAL SHOP」を平成30年12月に第1ターミナル、令和元年7月に第2ターミナルにそれぞれオープンしました。

さらに、東京2020大会の出国ピークに合わせ、新型コロナウイルス感染症の影響で休業していた店舗の一部営業再開や営業時間の延長を実施しました。

## □危機管理及び安全・保安体制の強化

### ・危機管理及び安全・保安体制の強化【成田国際空港(株)・県・県警・消防】[H26~]

利用者が安心して空港を利用できるよう、危機管理及び安全・保安体制の一層の強化を進めるため、爆発物探知犬の導入、保安検査の高度化に伴うボディスキャナー等の導入、先進的警備システム(警備ロボット等)の導入、オペレーションセンターの立ち上げ、空港BCP(業務継続計画)<sup>(※)</sup>の策定

等に、関係機関で連携して取り組みました。

(※) 大規模な自然災害が発生した際に、空港全体としての機能維持・復旧に必要な共通的事項を定めたもの。

## ○交通ネットワークの強化・充実

圏央道をはじめとする道路網の整備進展や空港アクセスの充実など、交通ネットワークの強化が図られました。また、大会期間中の円滑な交通を確保するため、組織委員会が行う各種交通対策に官民連携して協力したほか、会場最寄り駅のJR上総一ノ宮駅に東（海）側に直接アクセスできる東口を新設しました。

### ・大会期間中の円滑な交通の確保

#### □大会期間中の円滑な交通の確保

##### ・組織委員会が行う交通対策への協力【県・県警・市町村・経済団体・企業等】

[R3]

選手や大会関係者の移動により、東京都内を中心に交通混雑が懸念されていたことから、組織委員会や東京都、国において市民活動と経済活動の継続と円滑な大会運営の両立を図ることを目的に、道路の渋滞や鉄道の混雑緩和を図るための各種交通対策が実施されました。

県内においても、高速道路や競技会場周辺の道路等で混雑が見込まれたことから、県及び県警が交通抑制や迂回案内などの交通対策への協力について広く呼びかけを行うとともに、千葉市及び一宮町では、会場周辺の交通規制など住民生活に影響する情報について、広報誌や自治会等を通じて周知しました。また、経済団体や会場周辺の企業等が中心となり、時差出勤やテレワークの取組促進、物流ルートの変更など交通総量の抑制に資する取組を行いました。さらに、県警においては組織委員会と連携のもと、会場周辺の道路において大会専用レーンの設置や通行止め等の交通規制を行うなど、組織委員会の交通対策に協力しました。

[大会期間中の主な交通対策]

- ・交通需要マネジメント（TDM）：企業・個人に呼びかけて交通総量の抑制等を行う取組（取組例）

物流ルート・時間の変更、時差出勤・休暇の取得促進、テレワークの取組促進 等

- ・交通システムマネジメント（TSM）：規制等により交通量を削減・調整する取組（取組例）

高速道路の料金所のレーン削減・閉鎖、一般道の信号調整、会場周辺の道路の交通規制 等

- ・公共交通マネジメント：鉄道等による円滑な輸送を図る取組  
（取組例）鉄道の増便、終電時間の延長 等
- ・首都高の料金施策（ロードプライシング）：  
首都高の料金を時間帯により変動し、交通量をシフトさせる取組
- ・パーク&バスライドの実施に向けた調整【県・県警・いすみ市・長生村・長南町】[H30～R3]  
サーフィン競技では、観客等の移動手段として、臨時の自家用車駐車場から競技会場までシャトルバスで移動するパーク&バスライドが計画されていたことから、自家用車駐車場の選定や地域住民への周知などについて、組織委員会に協力して調整を進めました。県内開催競技が無観客となったため、観客による利用はなくなりましたが、自家用車駐車場の一部は大会関係者の駐車場として利用されました。
- ・クルーズ船受入環境の検討・整備【県・千葉市・木更津市】[H27～H30]  
**戦略5再掲**  
平成27年度、県・千葉市では、千葉県外航クルーズ研究会を開催し、関係機関や港湾利用者と共に、千葉港での外航クルーズ船受入れについて検討を行いました。また、平成28年度から平成30年度、県・木更津市では、木更津港において大型外航クルーズ船に対応した設備の整備を行いました。さらに、木更津市では、平成29年度から、大型外航クルーズ船の誘致やホテルシップの受入れ、木更津内港周辺地域の整備に係る取組を推進しました。

#### □競技会場周辺等の整備

- ・JR上総一ノ宮駅東口開設【一宮町・県・JR東日本】[R2]  
オリンピックのサーフィン競技開催時、鉄道利用の観客については、JR上総一ノ宮駅の東（海）側バスロータリーから競技会場までシャトルバスで移動する計画となっていたことから、一宮町は、観客移動の円滑化にも資する事業として県の支援やJR東日本千葉支社の協力を得て、駅東側に直接アクセスできる出入口（駅東口）を新設し、併せてエレベーターを設置するなど駅東口のバリアフリー対応の充実を図りました。

#### □交通案内の強化・充実

- ・都市ボランティアへの交通案内に係る研修の実施等【県・千葉市・一宮町・成田市・浦安市】[R1～R3]  
都市ボランティアに対し、大会関連情報、街中での案内に必要な視点、千葉の魅力発信に関する情報等を学ぶ共通研修を実施しました。また、各活動エリアの特性に応じた実地研修・エリア別研修の機会に、大会当日の円滑な運営に向けて、交通事業者や組織委員会、都市ボランティア運営拠点との間における情報連携のシミュレーションを行いました。

大会期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響で、現場での活動は実施できませんでしたが、オンラインを活用した千葉の魅力発信や選手等のお見送り活動などに取り組みました。

#### □乗務員の外国語対応力等の向上

- ・研修の実施、A I 通訳機の導入等【鉄道事業者・バス事業者・レンタカー事業者・タクシー事業者】[H26～]

国内外から訪れる人々の安心感や満足感を高めるため、乗務員への外国人旅客接客研修の実施、A I 通訳機「ポケトーク」や翻訳タブレット、指差しシートの配備等により、乗務員の外国語対応力等の向上を図りました。

### ・空港から県内外へのアクセスの強化

#### □空港との道路アクセスの強化

- ・道路網の整備進展（圏央道等）【県・県警・市町村・道路管理者】[H26～]

成田空港に降り立った選手や観光客が、ストレスを感じることなく移動できるよう、東京湾アクアラインと一体となって首都圏の高速道路ネットワークを構成し、首都圏の各都市と成田空港を結ぶ「圏央道」（首都圏中央連絡自動車道）の整備促進などに取り組みました。平成31年3月に圏央道大網白里スマートインターチェンジが開通し、令和2年2月には圏央道茂原長柄スマートインターチェンジが開通しました。

#### □空港アクセスの充実

- ・鉄道利用者の利便性向上【鉄道事業者】[H27～]

鉄道利用者の利便性向上を図るため、成田空港駅及び空港第2ビル駅へのインフォメーションセンターの設置や主要駅へのコンシェルジュの配置を進めたほか、スーツケース置場やフリーWi-Fi等を充実させた新形式車両を導入しました。

- ・空港アクセスの利便性PR【成田国際空港株】[H26～]

空港アクセスの利便性を広くアピールし、一層の利用促進を図るため、都内大学への低価格高速バスPR広告の掲出、訪日旅行サイト japan-guideへの観光地直通高速バス（Narita Air & Bus!）PR記事の掲載、成田空港内等への多言語リーフレットの配架等を実施しました。

#### □レンタカーの活用

- ・レンタカーの活用促進及び安全性・利便性等の向上【レンタカー事業者】[H26～]

成田空港に降り立つ国内外からの観光客が、レンタカーを活用しやすく

するため、空港内のレンタカー受付カウンタースペースの拡大や、レンタカー発着所の拡充促進等を行いました。また、環境対策車両や衝突事故防止対策車両のほか、大きな手荷物に対応した車両の導入を促進し、レンタカーの安全性・利便性等の向上を図りました。

## **・ 県内各地を結ぶ交通ネットワークの充実**

### **□ 周遊手段の充実**

#### **・ 高速バス実証運行【県・市町村】[H27～H28、R1]**

県では、平成27年度から平成28年度にかけて、空港利用者による宿泊・滞在型や回遊型の県内観光を促進し、地域活性化を図るため、成田空港と県内観光地を結ぶ高速バスを無料で実証運行し、利用実績や利用者アンケート等を分析して今後の路線新設に向けた検討を行いました。

また、鴨川市では、市内の総合交流ターミナル「みんなみの里」への集客等を促進するための手段の一つとして、令和元年度、同施設と横浜市を結ぶ高速バスを走行させ、利用状況等の把握や今後の運行の可能性に係る検証を行いました。

### **□ 交通安全施設の整備**

#### **・ 交通安全施設の整備促進【県・県警・市町村】[H26～]**

幕張メッセ周辺において、14交差点のLED化、4交差点の右折感応化、2交差点の信号機灯器改良を実施しました。また、英語併記の標識や道路標示の補修を実施しました。

## 戦略4 バリアフリー化の促進

戦略4「バリアフリー化の促進」においては、東京2020大会開催を契機に本県を訪れる人々等が、県内をスムーズに移動し、快適に滞在できるよう、競技会場及び周辺地域、空港や主要駅等の旅客施設、バス・タクシー車両等について利用者の視点に立った整備を進め、ハード面でのバリアフリー化の一層の推進を図りました。

また、障害のある人や高齢者、外国人などが安心して滞在や観光を楽しむことができるよう、空港や鉄道スタッフを対象とした研修や宿泊施設の従業員向けセミナーの開催等を通じて、交通機関や宿泊施設などで適切なサポートができる人材の育成に取り組んだほか、観光施設等のバリアフリーに関する情報提供を充実させるなど、ソフト面でのバリアフリー化を進めました。

さらに、パラリンピックの開催を契機として、障害のある人への理解を促進するとともにパラスポーツの魅力を発信するため、パラスポーツ体験会等の取組を実施しました。

### <主な取組実績>

#### ○障害者や高齢者など利用者の視点に立った施設の整備など、ハード面でのバリアフリー化

競技会場及び周辺地域において、施設の改修やエレベーター・エスカレーターの新設などを関係者が連携して推進しました。また、成田空港において当事者（障害者）参加のもとユニバーサルデザイン化が進められたほか、鉄道駅におけるホームドア・エレベーター・内方線付点状ブロックの整備やノンステップバス及び福祉タクシーの導入等が進みました。

- ・オリンピック・パラリンピックを契機に多くの利用者が見込まれる競技会場及び周辺地域、空港や主要駅等の旅客施設、車両等の重点的なバリアフリー化

#### □競技会場及び周辺地域

- ・幕張メッセ及び周辺地域のバリアフリー化【県・千葉市・(株)幕張メッセ】  
[H28～]

県では、幕張メッセの大規模改修の一環として、エレベーターの増設、中央エントランス・トイレのリニューアルなどを実施しました。また、施設の一部を所有する株式会社幕張メッセにおいても、イベントホールに

エレベーターを増設するとともに、競技会場最寄り駅となるＪＲ海浜幕張駅と幕張メッセをつなぐ連絡デッキを新設しました。さらに、千葉市では、ＪＲ海浜幕張駅南口広場にエレベーター・エスカレーターを新設するとともに、会場周辺の歩道の段差解消を図るなど、関係者が連携の上、大会に向けて幕張メッセ及び周辺の更なるバリアフリー化を進めました。

・ **メッセモールの環境整備【県】 [H28～R1] 戦略0再掲**

視覚障害者誘導ブロック、舗装、デッキ、照明、トイレ等の修繕を実施し、歩行者の利便性向上を図ったほか、案内地図、誘導サインを多言語に対応させ、大会開催に伴う訪日外国人の増加等に備えました。また、暑熱等に配慮し、休憩施設（パラソル等）を整備しました。

・ **ＪＲ上総一ノ宮駅のバリアフリー化【一宮町・県・ＪＲ東日本】 [R2]**

一宮町では、県の支援やＪＲ東日本千葉支社の協力のもと、これまで西（陸）側出入口だけであったＪＲ上総一ノ宮駅に、東（海）側に直接アクセスできる出入口を新設し、エレベーターを設置するなど駅周辺のバリアフリー化を図りました。

また、ＪＲ東日本千葉支社においても、独自にＪＲ上総一ノ宮駅の駅舎等の改修や西口のバリアフリー化を実施するなど、関係者が連携し、大会を機に本県を訪れる人々等を受け入れるための環境整備を行いました。

□ **空港**

・ **成田空港のユニバーサルデザイン<sup>(※)</sup>化【成田国際空港株】 [H26～]**

障害のある人、有識者、空港関係者などで構成される「成田空港UD推進委員会」において策定した「成田空港UD基本計画」（平成30年4月）に基づき、当事者（障害者）参加のもと、ハード、ソフト両面のユニバーサルデザイン化を推進しました。令和2年1月には、障害者・有識者と一体となったユニバーサルデザイン化の推進等が評価され、国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰を受賞しました。

(※)年齢、国籍、性別を問わず、誰もが可能な限り利用しやすいように、製品、建物、空間をデザインすること。

□ **鉄道駅**

・ **鉄道駅バリアフリー設備の整備【県・市町村・鉄道事業者】 [H26～]**

高齢者や障害のある人をはじめ、誰にでも利用しやすい駅を目指し、ホームドアやエレベーターの設置等、駅のバリアフリー化を推進しました。

〔駅バリアフリー設備の設置状況〕

- ・ ホームドア 3市4駅18線に設置 (H26～R2)
- ・ エレベーター (利用者3,000人以上/日の駅での設置割合)  
H26 : 92.2% (201/218) → R2 : 96.8% (213/220)
- ・ 内方線付点状ブロック (同10,000人以上/日の駅での設置割合)  
H26 : 36.3% (52/143) → R2 : 99.3% (147/148)



## □バス

### ・ノンステップバス等の整備【県・市町村・バス事業者】[H26～]

高齢者や障害のある人等の路線バスによる移動の利便性及び安全性の向上を図るとともに、公共交通機関としてのバスの利用を促進するため、ノンステップバス及びリフト付きバスの導入を進めました。

[ノンステップバスの導入状況]

H26 : 1,107 台 (51.3%) → R2 : 1,490 台 (69.9%)

※( ) 内は全車両数に占めるノンステップバスの割合

## □タクシー

### ・福祉タクシーの整備【県・タクシー事業者】[H29～]

高齢者や障害のある人等の交通手段を充実させるとともに、公共交通機関としての福祉タクシーの導入を促進するため、車いすでそのまま乗車できる福祉タクシーの拡充を図りました。

[福祉タクシーの導入状況]

H29 : 1,014 台 (13.2%) → R2 : 1,694 台 (22.5%)

※( ) 内は全車両数に占める福祉タクシーの割合

## ・キャンプ関係施設や宿泊・観光・ショッピングなどの施設のバリアフリー化

### □キャンプ関係施設（競技施設等）等のバリアフリー化

#### ・スポーツ施設のバリアフリー化【市町村】[H29～]

体育館、プール、野球場等のスポーツ施設について、多目的トイレの設置等のバリアフリー化を促進しました。

[市町村の主な取組]

市町村	取組内容
市川市	・市川市塩浜市民体育館の改修 [H29～R2] 多目的トイレ・シャワーユニット・更衣室の改修、トイレの洋式化 23 か所、スロープ舗装の改修
館山市	・館山市営温水プール vivid TATEYAMA へのスロープ設置 [H30]
浦安市	・浦安市運動公園の整備 多目的トイレの増設、園路や駐車場の整備
袖ヶ浦市	・市営野球場改修工事 [H29] トイレの洋式化、車いす用観覧席及び階段昇降機の設置
	・市営陸上競技場改修工事 [H30] 更衣室等の段差の解消、多目的室トイレの改修等

## □宿泊・観光・商業施設等のバリアフリー化

### ・宿泊施設等のバリアフリー化の促進【事業者・市町村】[H26～]

県内を訪れる高齢者や障害のある人が安全で快適に宿泊施設等を利用できる環境を整備するため、各事業者等において、施設のバリアフリー化を進めました。

・空港や駅などの拠点から公共施設など多くの人々が利用する施設までの移動をスムーズにするための、重点的・一体的なバリアフリー化

## □歩行空間のバリアフリー化

### ・幕張メッセ及び周辺地域のバリアフリー化【県・千葉市・(株)幕張メッセ】[H28～] 再掲

県では、幕張メッセの大規模改修の一環として、エレベーターの増設、中央エントランス・トイレのリニューアルなどを実施しました。また、施設の一部を所有する株式会社幕張メッセにおいても、イベントホールにエレベーターを増設するとともに、競技会場最寄り駅となるJR海浜幕張駅と幕張メッセをつなぐ連絡デッキを新設しました。さらに、千葉市では、JR海浜幕張駅南口広場にエレベーター・エスカレーターを新設するとともに、会場周辺の歩道の段差解消を図るなど、関係者が連携の上、大会に向けて幕張メッセ及び周辺の更なるバリアフリー化を進めました。

### ・JR上総一ノ宮駅のバリアフリー化【一宮町・県・JR東日本】[R2] 再掲

一宮町では、県の支援やJR東日本千葉支社の協力のもと、これまで西(陸)側出入口だけであったJR上総一ノ宮駅に、東(海)側に直接アクセスできる出入口を新設し、エレベーターを設置するなど駅周辺のバリアフリー化を図りました。

また、JR東日本千葉支社においても、独自にJR上総一ノ宮駅の駅舎等の改修や西口のバリアフリー化を実施するなど、関係者が連携し、大会を機に本県を訪れる人々等を受け入れるための環境整備を行いました。

## ○ソフト面でのバリアフリー化

空港や鉄道スタッフを対象とした研修や宿泊施設の従業員向けセミナーの開催等により、障害のある人などへ適切なサポートができる人材の育成に取り組んだほか、観光施設等のバリアフリー情報を収集し、ウェブサイトで発信しました。

## ・人材の育成

### □交通機関や宿泊・観光・商業施設などの職員・従業員の理解促進と対応力の向上

#### ・空港スタッフ向けユニバーサルデザイン研修の実施等【成田国際空港株】 [H26～]

障害に対する理解を深め、適切な接遇を行うため、空港スタッフを対象としたユニバーサルデザイン研修や新型コロナウイルス感染症影響下における接遇研修等を実施しました。また、障害のある人が安心・快適に空港を利用できるよう、空港利用時のプロセスなどを記載した空港予習冊子や外見からは障害の有無がわかりづらい方などが必要な支援等を記載できるヘルプストラップ等のツールを導入したほか、一部の案内カウンターへ難聴者向けスピーカーを設置しました。

#### ・サービス介助有資格者の増強、盲導犬ユーザー等対応講習の実施【鉄道事業者】 [H26～]

J R東日本では、高齢者や身体の不自由な方の対応時に必要な介助技術とホスピタリティマインドを習得するため、社員全体でサービス介助士の資格取得を進めました。また、京成電鉄では、盲導犬や白杖を利用している方の案内・接遇能力の向上を図るため、駅社員等を対象に、盲導犬ユーザー等への対応講習を実施しました。

#### ・宿泊施設の従業員向けセミナーの開催【県】 [H30]

東京2020大会に向け、障害のある人への対応力を向上させ、ソフト面でのバリアフリー（心のバリアフリー）対応の充実を図るため、県内の宿泊施設を対象に、「宿泊施設のための心のバリアフリースキルアップセミナー」を開催し、約30人が参加しました。

#### ・障害のある人のパラスポーツ観戦等の支援【県】 [R1]

障害のある人の競技観戦や、スポーツ活動への参加の促進を図るとともに、ボランティアや受入施設の理解促進等を目的として、障害のある人のパラスポーツ国際大会の観戦と商業施設等への外出を、学生ボランティアやヘルパーと共に支援するパラ「旅」応援事業を実施しました。

#### ・聴覚障害者等への理解促進等の取組【市町村】 [H30～]

浦安市では、聴覚障害者などが、社会生活をする上で意思の疎通が困難な場合、手話通訳及び要約筆記者の派遣を行っているほか、平成30年度から、難聴の方のコミュニケーション支援のため、卓上型のヒアリンググループ及び音声を文字で表示するためのタブレット端末を、市内公共施設や地域福祉センターに設置しました。

## □ボランティアなどの対応力の向上

- ・都市ボランティアへの障害平等研修の実施【県・千葉市・一宮町・成田市・浦安市】[R1]

令和元年10月から令和2年3月までの間、都市ボランティアに対し、大会関連情報、街中での案内に必要な視点、千葉の魅力発信に関する情報等を学ぶ研修を行うとともに、障害に関する理解を深める「障害平等研修」を実施しました。

- ・都市ボランティア体験プログラムへの障害平等研修の実施【県・千葉市・一宮町・成田市】[R3]

令和3年5月に、都市ボランティア体験プログラムに対し、大会関連情報、街中での案内に必要な視点、千葉の魅力発信に関する情報等を学ぶ説明会を行うとともに、障害に関する理解を深める「障害平等研修」を実施しました。

## □情報提供の充実

### □バリアフリーマップなどの普及促進

- ・バリアフリーに関する情報提供の充実【県・事業者】[H26～]

車いすを利用している方をはじめ、視覚障害者、聴覚障害者、高齢者、妊産婦、幼児連れなどの方が、外出する際に、安心して様々な活動に参加できるよう、県内の様々な施設のバリアフリー情報を収集し、「ちばバリアフリーマップ」としてウェブサイトで情報発信しました。

また、令和2年3月、観光施設等やモデル地域のバリアフリー状況を写真や数値などで紹介するウェブサイトを千葉県公式観光物産サイト「まるごとe!ちば」内に新設しました。ウェブサイトの開設に当たっては、利用者の目線で、車いすを利用している方と一緒に施設や地域を調査し、必要な情報を写真や数値などで分かりやすく掲載しました。

## ○障害のある人などへの理解の促進や心のバリアフリーの推進

県内経済団体において、困っている人がいたら声をかける「声かけ・サポート」運動が展開されたほか、自治体や大学、関係団体等が連携して、パラスポーツ体験会等を開催しました。また、県内の学校では、オリンピック・パラリンピックを活用した教育に取り組み、「心のバリアフリー」プロジェクトとしてパラスポーツを通じた交流活動等を実施しました。

### □地域住民への広報・啓発

- ・みんなで応援！千葉県経済団体協議会の取組【経済団体】[H29～] 戦略0再掲

平成29年7月、県内の経済団体が一丸となり、オール千葉体制のもと東京2020大会等の成功と、その取組を通じて活力ある地域づくりに資することを目的に、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」が設立されました。同協議会は、県内の主要経済6団体（千葉県経営者協会、千葉県経済同友会、千葉県経済協議会、千葉県商工会連合会、千葉県中小企業団体中央会、千葉県商工会議所連合会）によって構成され、①団体横断的・統一的に取組可能な独自の活動、②行政との連携・協力による活動、③他分野の団体等との連携による活動を柱に、「おもてなし」（声かけ・サポート運動や美化活動の展開、講習会の開催）、「機運の醸成」（競技紹介パネル・ポスターの掲示やスポーツ応援運動の展開）、「情報の発信」（県内企業の取組状況の一体的発信）の事業を展開しました。

#### ・九都県市LGBT配慮促進キャンペーンの実施【県・千葉市】[R2~R3]

LGBTに関する正しい知識の普及啓発を実施し、配慮促進を図るため、令和2年度の人権週間期間中及び令和3年度の東京2020大会の前後に、九都県市共通メッセージを活用した周知啓発活動を実施しました。

#### ・障害者スポーツ体験会等の開催【県・市町村・大学・関係団体等】[H28~] 戦略2再掲

県・千葉市・県内大学等が連携して、平成28年度から「パラスポーツフェスタちば」を開催し、パラスポーツの魅力や素晴らしさを県民に体感していただけるよう、競技体験会や対抗戦を実施しました。平成29年度からは県内企業、平成30年度からは特別支援学校が対抗戦に出場するなど、年齢、障害の有無に関わらず、様々な方々にパラスポーツを体験していただく重要な機会となりました。

また、県・日本財団パラリンピックサポートセンター・競技団体等が連携して、平成28年度から流山市、旭市、君津市、いすみ市の各市において「パラスポーツフォーラム in CHIBA」を開催しました。パラスポーツの魅力を伝えるとともに、障害への理解を深める契機としていただけるよう、県内開催競技の紹介やパラアスリートとの交流、競技体験会を実施しました。

さらに、県では、パラアスリートによる基調講演や、企業・福祉関係者、学生、パラアスリートによるパネルディスカッション、県の取組の紹介などを通して、関係機関の「輪」を更に広げ、パラスポーツの振興に取り組む契機とするため、令和元年8月、ホテルポートプラザちばで「パラスポの『輪』フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、「パラスポーツを通してバリアのない社会を作り上げていく」ことをテーマに県内の大学生が運営スタッフとして企画から関わって開催されました。また、同年実施したパラ「旅」応援事業でボランティアに従事する学生により組織された「パラ旅応援団」の結成式も行われました。

令和元年には、学生団体おりがみが「みんなの遊び場パラステーション」

をJR千葉駅で開催し、ボッチャの体験会等を通して障害者スポーツの魅力  
を広く県民に発信したほか、各市町村や大学等においても、様々な機会に  
障害者スポーツ体験会等を開催しました。

・ **チバリアフリーアートプロジェクトの実施【千葉市】 [H28～]**

東京2020公認文化オリンピックアードとして、障害のある人もない人も、  
共に表現するファッションショーとダンスパフォーマンス、アート展示など  
のイベントをイオンモール幕張新都心で開催し、アスリートのほか、様々な  
ジャンルのアーティストが参加しました。

□ **学校教育**

・ **オリンピック・パラリンピック教育の推進【小中学校・高校・特別支援  
学校】 [H29～] 戦略8再掲**

全公立校を含む県内学校において、取組方針において整理された「おもて  
なし」「心のバリアフリー」「スポーツ」「グローバル」の4つのプロジェクト  
に係る様々な取組が進められました。パラリンピックの閉会式では、県内  
2校の取組がインクルーシブな世界の実現に多大な功績を収めたとして、  
「アイムポッシブル (I'mPOSSIBLE) アワード」で開催国最優秀賞（木更津市  
立清見台小学校）及び開催国特別賞（千葉県立東金特別支援学校）を受賞  
しました。

□ **障害のある人に関するマークの普及**

・ **ヘルプマークの普及及び啓発【県】 [H29～]**

内部障害者や難病の方、妊娠初期の方など、外見では不自由や障害に  
気づかれにくい方々が、支援や配慮を必要としていることを周囲の人に  
知らせる「ヘルプマーク」を携帯しやすくしたストラップ型ヘルプマークや、  
二つ折りカードタイプのヘルプカード、啓発用のチラシ・ポスター・  
ステッカーを作成し、市町村や各健康福祉センター等へ配布するなど、  
ヘルプマークの普及及び啓発を推進しました。

## 戦略5 魅力ある観光地づくり

戦略5「魅力ある観光地づくり」においては、東京2020大会に向けて、目に見えないおもてなしである「安全・安心の確保」、一人ひとりの満足感を高める「質の高いおもてなしの提供」、地域の創意工夫による「観光地としての新たな魅力の創出」に取り組みました。

安全・安心の確保を図るため、日頃から、地域が一体となった防犯対策や、災害時に観光客の安全を確保するための取組を進め、安心して滞在できる環境づくりを進めました。

また、2度、3度と訪れたい観光地を目指し、旅先での出会い一つ一つが記憶に残るような、質の高いおもてなしを提供できるよう、オール千葉でおもてなし力の向上を図りました。

さらに、地域が主体となって、千葉ならではの魅力的な食材やお土産品、地域の資源や創意を生かした新たな観光需要の開拓や、東京2020大会開催を契機に訪れる人々が県内を周遊する仕組みづくりなど、観光地としての新たな魅力の創出に取り組みました。

### <主な取組実績>

#### ○観光客の安全・安心の確保

成田空港における災害時の対応を定めた計画を策定したほか、地域が一体となった防犯対策や多言語化による安全・安心に係る情報発信等を進め、観光客が安心して滞在できる環境づくりを進めました。

#### ・安全・安心のまちづくり

##### □観光客に関する災害対策

##### ・成田空港におけるBCPの策定【成田国際空港株】[R1]

大規模な自然災害が発生した際に、空港関連事業者が連携し、迅速かつ的確な対応を行い、「災害に強い成田国際空港」を形成することを目的に、令和元年10月、空港全体としての機能維持・復旧に必要な共通的事項等を定めた「成田国際空港BCP」（業務継続計画）を策定しました。計画では、利用客の視点に立ち、滞留者の抑制、避難誘導や救護対応、多言語による情報提供を行うことなどを盛り込みました。

・旅行会社による観光危機管理体制の整備【旅行者】[H26～]

旅行者が安全・安心に旅行を楽しむことができるよう、観光危機管理体制の整備・強化を図りました。

□観光客の犯罪被害の防止

・移動交番車の活用【県警】[H26～] 戦略7再掲

成田空港警察署を除く県下全署(38署)に配備した移動交番車を活用し、各種届出の受理や周囲の警戒に従事させたほか、巡回パトロールなどを行い、地域の実情に沿った情報発信や犯罪抑止活動を展開しました。また、東京2020大会期間中は大規模集客施設等で運用しました。

・防犯ボックスの設置【県・県警・市町村】[H26～] 戦略7再掲

防犯ボックスを核とした、地域住民と県・県警・市町村が一体となった新たな防犯体制の確立を目指し、県のモデル事業として最大4か所で防犯ボックスを運営したほか、市町村が設置・運営する防犯ボックスへの補助制度により、11市町12か所に対し助成を行いました。

・防犯カメラの設置【県・市町村】[H26～] 戦略7再掲

街頭犯罪対策として、県は、市町村等が公道等に設置する防犯カメラ等に対する補助を令和2年度末までに48市町村に行い、地域の防犯力の強化を図りました。

・観光客への情報提供

□旅先での防災情報の提供

・防災ポータルサイトの多言語化【県】[H26～] 戦略6再掲

気象情報、被害情報、避難所に関する情報等を発信する「千葉県防災ポータルサイト」の多言語化を進め、平成30年度までに英語、韓国語、中国語、スペイン語及びポルトガル語の5言語に対応させました。

・ウェブサイトでの観光・防災情報の発信【千葉県観光物産協会】[R3～] 戦略6再掲

外国人観光客向けの特設サイト「Visit Chiba」を開設し、千葉県を訪れる方に安全・安心に観光等を楽しんでもらえるよう、新型コロナウイルス感染症関連情報などを英語で発信しました。

・アプリを活用した多言語での観光・防災情報の発信【成田市】[H29～] 戦略6再掲

成田市公式観光情報アプリ「FEEL 成田」において、観光情報に加え、震度4以上の地震、気象警報、特別警報といった防災情報を、6言語(日本語、タイ語、簡体字中国語、繁体字中国語、英語、韓国語)で配信しています。



## □観光客のトラブルサポート

### ・訪日外国人への医療対応の強化【県】[H26～] 戦略7再掲

医療機関に対して外国人患者への対応力強化を目的とした講習会を開催し、外国人患者受入体制の整備を図りました。また、医療機関と外国人のコミュニケーションの一助となるよう、ちば救急医療ネットに8か国語で問診票を掲載しました。

## ○観光地の受入環境の整備・おもてなし力の向上

観光公衆トイレや公衆無線LANなど観光地の受入環境整備を推進したほか、県内事業者等と連携したキャンペーンや県内経済団体による講習会など、オール千葉でのおもてなし力の向上に取り組みました。

### ・受入環境の整備

## □観光地のトイレ等の整備・美化

### ・観光関連施設等の整備【県・市町村・団体・事業者】[H26～]

県は、市町村などが行う観光公衆トイレや駐車場、観光案内板、観光案内所、公衆無線LAN環境の整備に対する補助を実施しました。

〔各整備の進展状況〕※H26～R2

- ・観光公衆トイレ（234か所）
- ・駐車場（31か所）
- ・観光案内板（421基）
- ・観光案内所（6件）
- ・公衆無線LAN（400か所）

### ・トイレ美化に関する管理者や利用者向け周知・啓発【県】[R1～]

観光・宿泊施設の経営者、従事者等を対象に、外国人観光客の受入れや、快適なトイレ環境を保つためのトイレの管理方法等についての研修会を実施するなど、おもてなし力の向上を図りました。

### ・幕張新都心における公衆無線LAN環境の拡充【千葉市】[H27～H30]

平成27年度から平成30年度にかけて、JR海浜幕張駅北口及び南口広場において、無料Wi-Fiサービスを提供しました。民間事業者による無料Wi-Fiスポットの整備が進んだ令和元年度以降は、市内マップにWi-Fiスポットが分かるQRコードを掲載するなど、利用者への周知を図りました。

## □バリアフリー化の促進

⇒戦略4「バリアフリー化の促進」参照

## □ベンチや花などの町並みの景観形成

### ・幕張新都心を花で彩る「花壇づくりコンテスト」の開催等【県】[H28～]

幕張メッセ周辺の幕張新都心エリアにおいて、地域の企業・団体が参加する「花壇づくりコンテスト」の開催、JR海浜幕張駅前への立体の花壇ディスプレイの設置、ホテルでの県産花きディスプレイの設置、商業施設におけるPRイベントの開催、SNSによる情報発信などにより、県民・企業・団体などと連携して、県産花きの需要拡大を図るとともに、「おもてなし」の機運醸成を図りました。

### ・花いっぱい市民活動の推進【千葉市・幕張新都心まちづくり協議会】[H26～]

千葉市では、JR海浜幕張駅周辺をはじめとして花のあふれる環境づくりを演出するため、駅前立体花壇の管理のほか、市民協働による花壇づくりを実施し、毎回400を超える団体に参加していただきました。幕張新都心まちづくり協議会では、「街なかオープンガーデン作戦」として、企業・団体等が参加し、年2回程度、国際大通り沿いの歩道上にあるプランター100個に花植えを行いました。

### ・「幕張新都心クリーンの日」の実施【幕張新都心まちづくり協議会】[H26～R3]

企業・団体等が参加の上、年2回程度、幕張新都心エリアの清掃活動を実施しました。

### ・九十九里・外房地域の16市町村によるおもてなしCHIBAプロジェクトの展開【県・市町村】[H29～R3]

東京2020大会に向けて、九十九里・外房地域16市町村等<sup>(※)</sup>で行われるおもてなし機運を高めるための運動に、地域が一体となって取り組みました。

<sup>(※)</sup>銚子市、旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里市、白子町、長生村、一宮町、いすみ市、御宿町、勝浦市、鴨川市、南房総市、館山市。

令和元年度からは、長生地域振興会議（茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、長生地域県出先機関で構成）もプロジェクトに参加。

[取組内容]

#### ・おもてなし CHIBA プロジェクト in 九十九里・外房～ビーチ☆クリーン☆キャンペーン 東京 2020～

平成29年7月から、地域の一体感を醸成するとともに、きれいな海辺をPRしていくため、九十九里・外房全域でビーチクリーン活動を実施することとし、地元の団体や住民が参加し、海水浴場や海辺の清掃活動を実施しました。（令和3年度までに延べ約12,800人が参加）

#### ・おもてなし CHIBA プロジェクト in 九十九里・外房～ひまわりと笑顔で結ぶオリンピック～

平成30年3月からは、「おもてなし CHIBA プロジェクト」の第二弾として、九十九里・外房地域16市町村の子どもたち等が育てたひまわりで会場周辺を彩り、地域が一体となっておもてなしに取り組むことで、住民の参加意識と機運の醸成

を図る取組を推進しました。東京 2020 大会時には、サーフィン競技会場周辺や沿道等を、子どもたちのメッセージプレートを添えた満開のひまわりプランターで装飾しました。

・夏期の花き類の生産促進等【千葉県園芸協会、マザー牧場】[H26～]

千葉県園芸協会では、平成 29 年度から、夏期に強い花き類の生産対策支援と利用促進を進めました。また、マザー牧場では、平成 26 年度から、夏季最盛期の花「桃色吐息（ペチュニア）」の安定した育成に取り組みました。

□飲食店・宿泊施設等の受動喫煙対策

・飲食店、宿泊施設等の受動喫煙対策の強化等【県】[H28～]

飲食店、宿泊施設等の受動喫煙対策を強化するとともに、店頭における喫煙環境の表示を推進するため、平成 28 年度から、飲食店・喫茶店 516 施設、宿泊施設 76 施設に禁煙・分煙・時間禁煙ステッカーを配布したほか、令和 2 年度から、屋内禁煙とした飲食店・宿泊施設等に禁煙ステッカーを計 19,637 枚配布しました。

・おもてなし力の向上

□オール千葉でのおもてなし力の向上

・オール千葉おもてなしアクション！【県】[H30～]

オール千葉でのおもてなし機運の醸成を図るため、庁内各部局によるおもてなしにつながる取組を、千葉県ならではのおもてなしである「思いやり」「スマイル」「クリーン」の合言葉のもと、連携・協力して推進する「オール千葉おもてなしアクション！」を展開しました。

[取組内容]

・オール千葉おもてなし隊の結成とオピニオンリーダーによる PR 活動

平成 30 年 8 月に、県民全員をメンバーとする「オール千葉おもてなし隊」を結成しました。「オール千葉おもてなし隊」の取組を広く PR するオピニオンリーダーが、県主催の「県民の日ちばワクワクフェスタ」や千葉ロッテマリーンズ主催の「ALL for CHIBA」などのイベントに参加するなどして、PR を実施しました。また、パラリンピックを盛り上げるため日本郵便と千葉大学が共同で取り組んでいる「切手モザイクアート」や、和洋女子大学と京成電鉄が連携して設置した「おもてなし看板」完成披露セレモニーなど、各地域におけるおもてなしにつながる活動に参加し、広く PR を行いました。

・千葉おもてなし宣言とオール千葉おもてなしキャンペーン

「オール千葉おもてなしアクション！」の取組に賛同した千葉おもてなし宣言事業者（令和 3 年時点で、698 事業者、2,940 事業所が参加）と連携し、オール千葉でおもてなしに取り組むキャンペーンを展開しました。

- ・ 県境への看板設置

「県境おもてなし作戦」として、千葉県への主要な入り口の道路看板を、県民からの公募により決定した、歓迎への気持ちや本県の魅力を伝える統一感のあるデザインに刷新し、令和元年 9 月から令和 3 年 6 月までに、計 14 基の看板を設置・更新しました。

- ・ 「おもてなしポスト」の展開

令和元年 11 月、日本郵便株式会社関東支社との包括連携協定に基づき、県内各地（約 6,000 か所）に設置された郵便ポストを活用し、国内外からの観光客に観光や安心・安全情報を提供する「おもてなしポスト」の取組を開始しました。郵便ポストに、県公式観光情報サイト「CHIBA, JAPAN TRAVEL GUIDE」（まるごと e! ちば）と観光庁が監修した外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ「Safety tips」につながる QR コードを掲載したシール（おもてなしシール）を貼り付けるもので、成田空港や県内宿泊施設での周知も併せて実施しました。

- ・ 多言語コミュニケーションシートの作成及び配布

令和 2 年 10 月に、日常に加え、新型コロナウイルス感染症への対応や災害発生時など様々な場面において、観光関連産業で働く人と海外からの来訪者が指差しだけで簡単に会話できる多言語コミュニケーションシートを作成し、県内観光関連団体を通じ約 27,000 部配布しました。また、英語・中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、タイ語で 228 種類のフレーズを用意し、言語やフレーズを変更してオリジナルシートが作成できるウェブサイトを公開しました。

- ・ 九十九里・外房地域の 16 市町村によるおもてなし CHIBA プロジェクトの展開【県・市町村】[H29~R3] 再掲

東京 2020 大会に向けて、九十九里・外房地域 16 市町村等<sup>(※)</sup>で行われるおもてなし機運を高めるための運動に、地域が一体となって取り組みました。

<sup>(※)</sup> 銚子市、旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里市、白子町、長生村、一宮町、いすみ市、御宿町、勝浦市、鴨川市、南房総市、館山市。

令和元年度からは、長生地域振興会議（茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、長生地域県出先機関で構成）もプロジェクトに参加。

- ・ みんなで応援！千葉県経済団体協議会の取組【経済団体】[H29~] 戦略 0 再掲

平成 29 年 7 月、県内の経済団体が一丸となり、オール千葉体制のもと東京 2020 大会等の成功と、その取組を通じて活力ある地域づくりに資することを目的に、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」が設立されました。同協議会は、県内の主要経済 6 団体（千葉県経営者協会、千葉県経済同友会、千葉県経済協議会、千葉県商工会連合会、千葉県中小企業団体中央会、千葉県商工会議所連合会）によって構成され、①団体横断的・統一的に取組可能な独自の活動、②行政との連携・協力による活動、③他分野の団体等との連携による活動を柱に、「おもてなし」（声かけ・サポート運動や美化活動の展開、講習会の開催）、「機運の醸成」（競技紹介パネル・ポスター

の掲示やスポーツ応援運動の展開)、「情報の発信」(県内企業の取組状況の一体的発信)の事業を展開しました。

## **○観光地としての新たな魅力の創出**

木更津市による港の周辺地域の整備や大型クルーズ船の誘致に向けた取組、市原市・君津市・大多喜町による近隣自治体で連携した広域観光地及び観光産業づくりの取組など、地域の観光資源の磨き上げ等による地域活性化が進められました。

### **・観光資源の磨き上げ**

#### **□喜ばれるお土産の開発**

- ・千葉のポテンシャルを生かした地域産業活性化【県・県内中小企業等】  
[H26～R2]

県では、県内各地にある地域資源を活用した新商品・新サービスの開発・事業化等に取り組む中小企業等を対象に、アドバイザーによる新商品等の企画から事業化に至るまでの各段階に応じた支援を実施しました。

また、県内中小企業等では、県産品を使用したお土産の開発・販売を行ったほか、県産品販売コーナーの設置や商談会への出展等により、地域資源を活用した商品の販売促進を図りました。(取扱商品数(延べ)67社215商品)

#### **□おいしい料理の提供**

- ・食のおもてなし力向上【県】[H29～]

オール千葉による「おもてなし」機運の醸成を図る一環として、千葉県ならではの食の魅力を県内外へPRする「ちばの郷土料理」再発見事業を実施しました。県内の郷土料理のリストアップ、代表的な郷土料理を選定したパンフレットやインバウンド向けパンフレットの作成・配布、観光施設の調理担当者向けの研修会や県内宿泊施設と連携した郷土料理フェアの開催などに取り組みました。

- ・地域の特性を生かした商品やメニューの開発等【事業者】[H29～]

地域の特性を生かした商品開発や地域の食材を活用したメニュー開発を行うとともに、SNS等を活用した情報発信・PRに取り組みました。

#### **□農観連携**

- ・地域の農林水産資源を活用した新たな商品の開発支援・販売促進【県】[H29～]

農林漁業者が自ら農林水産物加工や農家レストランなどに取り組む6次

産業化について、サポートセンターを設置し相談窓口を開設するとともに、専門家の派遣や施設整備等の支援を行いました。また、6次産業化や農商工連携の関係者の交流促進を目的とした協議会を開催し、ブランド化や新しい販売方式についての研修会を実施しました。

・いちごの新品種「チーバベリー」を活用したフェアの開催等【県】[H29～]

県が育種したいちごの新品種「チーバベリー」を活用したいちごフェアの開催、観光いちご狩り園主向けのインバウンド対策研修、インバウンド向け案内パンフレットの作成・配布を行いました。

**・新たな観光需要の開拓**

□海岸・砂浜等の利活用

・クルーズ船受入環境の検討・整備【県・千葉市・木更津市】[H27～H30]

平成27年度、県・千葉市では、千葉県外航クルーズ研究会を開催し、関係機関や港湾利用者と共に、千葉港での外航クルーズ船受入れについて検討を行いました。また、平成28年度から平成30年度、県・木更津市では、木更津港において大型外航クルーズ船に対応した設備の整備を行いました。さらに、木更津市では、平成29年度から、大型外航クルーズ船の誘致やホテルシップの受入れ、木更津内港周辺地域の整備に係る取組を推進しました。

□ニューツーリズムの推進

・グリーン・ブルーツーリズムの推進【県・事業者】[H26～]

農林漁業体験や農家民宿の受入者や地域に対し、教育旅行や外国人観光客などの対応及びマーケティングの基礎的な考え方の習得に向けたスキルアップ研修会を実施したほか、受入施設のネットワーク化を図るための交流会の開催や農泊事例集の作成・配布を行い、関係事業間の情報共有やノウハウの蓄積を図りました。このほか、県内直売所と連携したフェアの開催や在住外国人・日本人インフルエンサーを招待したいちごツアーを実施するなど、交流人口の拡大を図りました。

・果樹（びわ・かんきつ）園を活用した地域活性化事業【県】[H29～R1]

交流人口の拡大に向けて、南房総地域の特産果樹であるびわ・かんきつ園で、農作業体験のモニターツアーを実施しました。

・近隣自治体で連携した広域観光地及び観光産業づくり【市原市・君津市・大多喜町】[H28～R2]

地域資源を生かした取組を近隣自治体で連携して進め、羽田・成田の両空港の中間に位置する好立地を生かした世界に一番近い「SATOYAMA」としてのブランド化と、その受皿となる広域観光産業づくりを進めました。

## □ 県内周遊の仕組みづくり

### ・ 企画乗車券の販売等【事業者】 [H28～]

京成電鉄では、往復乗車券と飲食店での食事券や観光施設への入場券などがセットになった企画乗車券を販売したほか、船橋～千葉（現 京成船橋～千葉中央）間の開業100周年等に合わせてスタンプラリーを開催するなどしました。

### ・ 外国人観光客向け周遊コースPR【県】 [H28～R2] 戦略6再掲

東京2020大会を契機に増加が予想された外国人観光客を継続的に本県に誘致するため、県内の周遊ルート及び観光スポットを紹介したガイドブック、プロモーション動画、ウェブサイト外国人観光客の目線に立って作成するとともに、SNS等を活用したPRを実施しました。

### ・ 地域の観光振興等に係る取組【市町村・団体・事業者】 [H26～]

市町村、市民活動団体、鉄道・バス事業者等が連携して、地域の特性を生かした観光振興に係る取組を実施しました。

[地域の観光振興等の主な取組]

市町村	取組内容
市川市	「いちかわ ふらり まち歩き事業」として、観光資源を活用したモデルコースの紹介とバスの1日乗車券を利用したスタンプラリーイベントを実施しました。[H29～R1]
一宮町	JR東日本主催のウォーキングイベント「駅からハイキング」と連携し、休憩所にブースを設置して、地域のPRやオリンピックの機運醸成を図りました。[R1]

## 戦略6 外国人受入体制

戦略6「外国人受入体制」においては、本県を訪れる外国人観光客が、言葉の壁や情報収集の不自由さなどを感じることなく、安心して快適に過ごすことができるよう、公共施設等における多言語での案内表記や様々な情報を入手するための公衆無線LANの整備など、受入環境の整備を進めました。

また、世界の様々な国や地域の文化などに配慮したおもてなしを提供できるよう、異文化への理解やコミュニケーション力の向上を図るとともに、外国人が魅力を感じる郷土料理の魅力発信や地域の特性を生かした商品開発などに取り組みました。

### <主な取組実績>

#### ○外国人観光客の受入環境の整備

観光案内板等の多言語化や公衆無線LAN環境の整備などの受入環境の整備を推進するとともに、防災ポータルサイトの多言語化やYouTubeを活用した多言語での防犯情報の提供など、外国人に向けた安全・安心に係る情報提供の充実を図りました。

また、養成講座により通訳ボランティアや外国語観光ボランティアガイドの育成に取り組んだほか、各大学においても学生のボランティア活動への参加等が活発化しました。

#### ・多言語表記・案内の充実

##### □宿泊施設等における多言語表記等の推進

- ・美術館、博物館等の多言語化【県・市町村（大網白里市・旭市）】[H28～H30、H29、R2]

県では、平成28年度から平成30年度にかけて、県立美術館、博物館等のホームページや施設パンフレット、施設内案内表示の多言語化を順次実施しました。また、旭市では、平成29年度、旭市総合体育館利用案内看板類の英語・ドイツ語表記を設置したほか、大網白里市では、令和2年度、「大網白里市デジタル博物館」のコンテンツの一部を英訳しました。

- ・観光施設、飲食店、公共交通機関等における多言語化の推進【事業者】[H28～]

観光施設、飲食店等において、メニュー等の多言語化が進められました。また、公共交通機関等においては、京成電鉄が、全駅において自動券売機の



多言語化を図るとともに多言語対応タッチパネル・多言語拡声装置・携帯型翻訳機の導入を実施したほか、主要駅（7 駅）へ翻訳型放送装置（クアボイス）を導入するなど、各事業者による多言語対応が進められました。

・飲食店、宿泊施設等の受動喫煙対策に係る表示の多言語化支援【県】[H28～]

飲食店、宿泊施設等の受動喫煙対策を強化するとともに、店頭における喫煙環境表示の多言語化を支援するため、表示事項の対訳を県ホームページに多言語で掲載しました。

・多言語対応の店舗検索ウェブサイトの運営【千葉市・船橋市・習志野市】[H28～]

市内の飲食店・小売店・サービス店を掲載したウェブサイト「千葉おもてなしSHOPガイド」（多言語メニュー作成機能付き）を運用し、外国人への情報発信から来店した際の対応までワンストップで行えるよう環境を整備しました。

□道路案内標識、観光案内板、避難所誘導看板等の公共空間における多言語表記等の推進

・観光案内板等の多言語化【県・市町村】[H26～]

県では、外国人観光客の受入体制を整備するため、外国語を併記した観光案内板等の整備を進めました。

また、市町村においても、観光案内板や駅等における多言語案内看板の整備が進みました。

[県による整備の進展状況] ※H26～R2

歩行者用観光案内板（42 基）、車両用誘導標識（33 基）

[市町村の主な取組]

市町村	取組内容
市川市	観光案内板の多言語化 [H28～R2]
浦安市	デジタルサイネージ整備（市内 3 駅）、アナログ誘導サイン整備（JR 舞浜駅周辺）[R1]
香取市	観光案内板の多言語化（佐原地区 6 か所）、多言語看板の補修（佐原地区 11 か所の誘導標識・小野川沿い 9 か所の多言語案内板）[R1]
御宿町	多言語表記（英語・韓国語・中国語）案内板設置（町内観光地）[H26～H30]

・歩行者向け案内図の多言語対応等【千葉市】[H28～R2]

J R 海浜幕張駅周辺の歩行者向け案内図等を多言語対応化しました。

・メッセモールの環境整備【県】[H28～R1] 戦略 0 再掲

視覚障害者誘導ブロック、舗装、デッキ、照明、トイレ等の修繕を実施し、

歩行者の利便性向上を図ったほか、案内地図、誘導サインを多言語に対応させ、大会開催に伴う訪日外国人の増加等に備えました。また、暑熱等に配慮し、休憩施設（パラソル等）を整備しました。

#### □外国語対応の観光案内所の設置

##### ・ J N T O 認定外国人案内所の認定取得【千葉県観光物産協会】[H29～]

三井アウトレットパーク木更津の中にある千葉県の観光案内所「チーバくんプラザ」について、J N T O 認定外国人案内所のカテゴリ－2（少なくとも英語で対応可能なスタッフが常住し、広域の案内を提供する）を取得しました。

#### □外国人対応人材の育成

#### □宿泊施設等のスタッフの外国語対応力等の充実

##### ・ 観光施設及び宿泊施設の従業員等向け講習会の実施等【県・経済団体・事業者】[H27～]

海外からの観光客へのおもてなし力の向上を図るため、県内の観光施設及び宿泊施設の経営者や従業員等を対象に、おもてなしの考え方や接客・サービスに必要な知識・技能についての講習会を実施し、平成27年度から令和元年度まで述べ1,660人が参加しました。また、経済団体や各事業者においても、研修やセミナーの開催など、外国人対応力向上のための取組が推進されました。

#### □外国語観光ボランティアガイドの育成

##### ・ 外国語観光ボランティアガイドの養成【県・市町村・団体・大学】[H26～]

東京2020大会に向け、外国人観光客へのおもてなし力の向上と更なる誘客のため、外国語観光ボランティアガイドの養成に取り組み、平成27年度から令和元年度までに延べ551人が養成講座に参加しました。

また、市町村・団体・大学においても、講座の開催などボランティアガイドの育成等に向けた取組が進められました。

[市町村の主な取組]

市町村	取組内容
松戸市	ボランティアガイド育成事業（英語部に所属する中学生を対象とした講座、ホストタウン講座等）[H28～]
成田市	外国人旅行者向けボランティアの育成 [H28～]

〔団体の主な取組〕

団体	取組内容
JATA 千葉地区・JTB	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国内におけるツアーオペレーター品質認証制度の登録促進による外国人観光客の満足度向上</li> <li>・ボリュームゾーンであるアジア諸国に対応した通訳案内士やボランティアの確保</li> </ul>
成田ボランティアガイドの会	ボランティアガイドの支援
城西国際大学観光学部 ・鴨川観光ガイド協会	観光ボランティア育成・ガイド資料作成

〔大学の主な取組〕

団体	取組内容
城西国際大学観光学部 ・鴨川観光ガイド協会	観光ボランティア育成・ガイド資料作成
城西国際大学観光学部	インバウンド観光向けの観光ガイドとして、中国人留学生による中国人向けのボランティアガイド育成に協力

□ 語学ボランティアなどの人材育成

・ 通訳ボランティアの養成【県・市町村】 [H27～R1] 戦略8再掲

東京2020大会に向け、外国語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、ちば国際コンベンションビューローや市町村と連携して、大会関連行事等の機会に活動できる通訳ボランティアの養成に取り組みました。

・ 通訳ボランティアや国際交流ボランティア等の育成【市町村】 [H27～] 戦略8再掲

千葉市では、平成27年度以降、外国人来訪者の受入体制強化のため、通訳ボランティア数の増加と高度な通訳を行える国際交流ボランティア育成を目指して、各種講座を実施し、コミュニティ通訳として活躍できるように基盤づくりを行いました。また、山武市においても、平成30年度から英語ボランティア育成講座を実施するなど、市町村における通訳ボランティア等の育成が進みました。

・ 大学における通訳ボランティアの育成等【神田外語大学・神田外語学院・千葉大学】 [H26～] 戦略8再掲

神田外語大学・神田外語学院において、全国の高校生を対象にした公開講座「通訳ボランティア入門講座」（平成29年度から）を実施したほか、神田外語大学が加盟する全国外大連合主催で「全国外大連合通訳ボランティア育成セミナー」（平成27年度から令和2年度）を実施しました。また、

神田外語大学では、2019年ラグビーワールドカップ等において、全国外大連合学生を対象とした通訳ボランティアの実習に取り組みました。

神田外語大学からは、東京2020大会のボランティアに約100人の学生が参加しました。また、千葉大学では、成田空港での案内等のボランティア活動に年間約50人が参加したほか、平成29年度から留学生との文化交流イベントを開催するなど、各大学において学生のボランティア活動への参加や国際理解等が進みました。

・ **スポーツ大会や国際会議等へのボランティア紹介【ちば国際コンベンションビューロー】 [H26～] 戦略8再掲**

千葉2019ワールドテコンドーグランプリ等のスポーツ大会や日本地球惑星科学連合等のMICE関連事業へボランティアを紹介し、実践的な対応力向上を図りました。

□ **都市ボランティアの養成・確保**

・ **東京2020大会に向けたボランティア推進方針の策定【県】 [H29] 戦略8再掲**

東京2020大会を契機に、ボランティアの裾野が拡大していくこと、また、当初からレガシーを意識した取り組みが進められていくよう、平成29年7月に「東京2020大会に向けたボランティア推進方針」を策定しました。

・ **「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成【県・市町村】 [H29～R1] 戦略8再掲**

海外からの来訪者とのコミュニケーションスキルを養い、多くの県民が都市ボランティアに興味を持って応募する機運を醸成するため、「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」を県内各地で開催しました。平成29年度から令和元年度までにおよそ2,000人が受講し、言語のみならず、ジェスチャーや表情など、様々な方法でコミュニケーションを図るスキルを習得するとともに、「おもてなしの心」を醸成しました。

・ **都市ボランティアの募集・選考・研修・運営【県・千葉市・一宮町・成田市・浦安市】 [H30～R3] 戦略8再掲**

競技会場となる千葉市と一宮町、また、成田市、浦安市の主要駅や成田空港などを活動場所として、観客等に観光・交通案内などを行う「都市ボランティア」の募集・選考・研修・運営を行いました。研修の実施等に当たっては、東京2020大会のボランティア研修に携わる「日本財団ボランティアサポートセンター」や組織委員会と連携して取り組みました。

大会期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響で、現場での活動は実施できませんでしたが、オンラインを活用した千葉の魅力発信や選手等のお見送り活動などに取り組みました。

・都市ボランティア体験プログラムの募集・運営【県・千葉市・一宮町・成田市】[R1~R3] 戦略8再掲

都市ボランティアの体験を通して、次世代を担う中高生世代のボランティア人材を育成することを目的に、「都市ボランティア体験プログラム」の参加者を募集しました（500人の定員に対して2,194人が応募）。

新型コロナウイルス感染症の影響で、大会期間中の現場での活動は中止となりましたが、代替となる活動として、学んだことを将来何かの形で役立ててもらいたいことを願い、成田空港内のユニバーサルデザインを学び案内の練習を行うオンラインワークショップを実施しました。

・チーム千葉ボランティアネットワークの運営【千葉市】[H29~] 戦略8再掲

都市ボランティアの募集開始前の平成29年7月、東京2020大会を契機としたボランティア活動を一過性で終わらせることのないよう、ボランティア登録制度「チーム千葉ボランティアネットワーク」を立ち上げました。ボランティア活動をしたい個人と、ボランティアを求める団体とのマッチングシステムとしての機能を提供するほか、ボランティアの基礎知識を紹介する動画や講習会などを実施しました。ボランティア文化が根付いたまちづくりへと発展することを見据えており、登録者数は大会終了時点で1,900人を超えました。

・無料公衆無線LANの整備等

□外国人向けの無料公衆無線LAN環境整備の促進

□外国人にも使いやすいトイレの整備等

・観光関連施設等の整備【県・市町村・団体・事業者】[H26~] 戦略5再掲

県は、市町村などが行う観光公衆トイレや駐車場、観光案内板、観光案内所、公衆無線LAN環境の整備に対する補助を実施しました。

・幕張新都心における公衆無線LAN環境の拡充【千葉市】[H27~H30] 戦略5再掲

平成27年度から平成30年度にかけて、JR海浜幕張駅北口及び南口広場において、無料Wi-Fi サービスを提供しました。民間事業者による無料Wi-Fi スポットの整備が進んだ令和元年度以降は、市内マップにWi-Fi スポットが分かるQRコードを掲載するなど、利用者への周知を図りました。

□ICTを活用したおもてなし

・IoTおもてなし環境実現へ向けた地域実証事業への参加【県・千葉市・成田市】[H28~H29]

東京2020大会を見据え総務省が中心となって進めた「IoTおもて

なし環境実現へ向けた地域実証事業」を受託した一般社団法人おもてなしICT協議会（県・千葉市・成田市は賛助会員）は、千葉・幕張・成田地区を実証事業エリアとして、パスポート情報等を登録したICカードをあらかじめ発行し、そのICカードを活用することで、施設でのチケットレス入場や、多言語での情報提供が受けられるサービスを提供するなどの実証事業を行いました。

・地域通貨を活用したインバウンド需要の取り込み【木更津商工会議所・木更津市】[H30～]

市内における電子地域通貨「アクアコイン」による決済を広げることで、キャッシュレス決済が進む国から訪日する外国人の消費活動を高め、インバウンド需要の取り込みを図りました。

・自動翻訳機の活用【市町村】[R1～]

茂原市や香取市などでは、外国人観光客等とスムーズなコミュニケーションを図るため、飲食店、観光案内所、国際交流協会の活動などで自動翻訳機を活用しました。

・外国人観光客への情報提供等の強化

□外国人観光客等向け観光情報発信

・外国人観光客向け周遊コースPR【県】[H28～R2]

東京2020大会を契機に増加が予想された外国人観光客を継続的に本県に誘致するため、県内の周遊ルート及び観光スポットを紹介したガイドブック、プロモーション動画、ウェブサイト外国人観光客の目線に立って作成するとともに、SNS等を活用したPRを実施しました。

・観光パンフレットやホームページ等の多言語化等【市町村・事業者】[H26～]

外国人観光客を誘致するとともに、実際に観光等に訪れた外国人や在住外国人等へ情報発信するため、観光パンフレットやホームページ等の多言語化、PR動画の作成等に取り組みました。

[市町村の取組実績]

市町村	取組内容
市川市	英語併記の観光施設リーフレットをイベント等で配布 [H28～R2]
船橋市	船橋市及び近隣に訪れた外国人向けに、「船橋の街歩き」をテーマにした観光施設等紹介マップを作成 [H30] 掲載内容を更新・増刷し、船橋インフォメーションセンターや観光協会等で配布 [R1]
木更津市	外国人観光客誘致・集客促進【木更津市観光協会】[H30～] 観光庁主催の訪日旅行商談会における市の観光資源 PR、外国人観光客向けPR動画の作成【木更津市観光協会】[R1]

	HP の多言語化、「やさしい日本語」を使用した外国人向けページの整備【木更津市観光協会、木更津市】
松戸市	観光パンフレットの多言語化（英語）[H29～]、（中国語・ベトナム語）[R1～]
	HP の多言語化（英語、中国語、韓国語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語）[H29～]
旭市	旭市総合体育館案内パンフレットの英語版作成 [H29]
柏市	英訳版の飲食店マップを 3,500 部発行し、市内宿泊施設へ配布 [H29]
勝浦市	多言語版観光ガイドブックの作成 [H27]
我孫子市	HP の多言語化（英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ベトナム語）[H29～H30]
	AR 機能搭載あびこガイドブック「ABI ROAD」の発行 [R1、R3]
鴨川市	外国語版観光パンフレットの発行・増刷
	外国人向けモニターツアーの実施
富津市	英語版観光ガイドブックの作成（2,500 部）[H29]
浦安市	日英併記の市内観光ガイドブックの作成 [H29～]
袖ヶ浦市	外国語版観光ガイドマップ制作（英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字））及び配布（市内外の宿泊施設及び近隣の大型ショッピングモール等の集客施設）【袖ヶ浦市・袖ヶ浦市観光協会】[H30～]
香取市	国際交流員による SNS による多言語（タイ語・英語）での情報発信 [H30～]
	観光パンフレットの多言語化 [R1]
山武市	外国語版ガイドマップの改定・増刷 [H28～]
芝山町	外国語ガイドブックの修正増刷（2,000 部）[R1]
	シティプロモーションサイトの立ち上げ、SNS と連携した情報発信の強化（日本語のほか 8 か国語への翻訳が可能）[R2]
一宮町	町勢要覧の多言語化 [H29]、観光パンフレットの多言語化 [R1]、広報誌の多言語化 [R2～R3]
白子町	温泉やホテル利用における英語版案内の作成
御宿町	外国語観光パンフレット作成（総合パンフレット（英語・中国語）、コンパクトサイズのパンフレット（英語））[H27～H28]

〔事業者の取組実績〕

事業者	取組内容
千葉県レンタカー協会	全車両のカーナビの多言語化 [H26～]
千葉県バス協会	HP の多言語化 [H27～H29]、バス停での案内表示の多言語化 [H27]、バス車内の停留所名表示器の多言語化 [H28～H29]、案内放送の多言語化 [H27]
マザー牧場	外国語版フェイスブックからの情報発信 [H28～] HP の多言語化 [H29]

- ・ 外国語 SNS を活用した情報発信強化事業【千葉県観光物産協会】[R1～]  
外国人にとって魅力的な観光コンテンツを作成し、フェイスブックページ「Japan Tourism Chiba」において情報発信しました。

## □外国人観光客向け情報提供の充実

- ・ 防災ポータルサイトの多言語化【県】[H26～]  
気象情報、被害情報、避難所に関する情報等を発信する「千葉県防災ポータルサイト」の多言語化を進め、平成30年度までに英語、韓国語、中国語、スペイン語及びポルトガル語の5言語に対応させました。
- ・ ウェブサイトでの観光・防災情報の発信【千葉県観光物産協会】[R3～]  
外国人観光客向けの特設サイト「Visit Chiba」を開設し、千葉県を訪れる方に安全・安心に観光等を楽しんでもらえるよう、新型コロナウイルス感染症関連情報などを英語で発信しました。
- ・ YouTube を活用した防犯情報等の提供【県警】[R1～]  
YouTube を活用し、防犯情報等を多言語（英語、中国語、韓国語）で提供するとともに、令和2年度から、訪日外国人向けの交通ルール動画を多言語（英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ベトナム語）で提供しました。
- ・ アプリを活用した多言語での観光・防災情報の発信【成田市】[H29～]  
成田市公式観光情報アプリ「F E E L 成田」において、観光情報に加え、震度4以上の地震、気象警報、特別警報といった防災情報を、6言語（日本語、タイ語、簡体字中国語、繁体字中国語、英語、韓国語）で配信しています。
- ・ 訪日外国人への医療対応の強化【県】[H26～] 戦略7再掲  
医療機関に対して外国人患者への対応力強化を目的とした講習会を開催し、外国人患者受入体制の整備を図りました。また、医療機関と外国人のコミュニケーションの一助となるよう、ちば救急医療ネットに8か国語で問診票を掲載しました。
- ・ 外国人相談窓口の運営【県・ちば国際コンベンションビューロー】[H26～]  
県内の在住外国人による生活上の悩みなどに広く応じ、安全で安心な生活を支援するため、外国人相談窓口を運営しています。令和元年7月からは、対応言語数を4言語から13言語に拡充し、さらに弁護士・行政書士による専門相談も開始しました。

〔相談件数〕※H26～R2

7,677件



## ○外国人へのおもてなし力向上

県内の観光施設及び宿泊施設の経営者や従業員等を対象としたおもてなし力向上講習会を実施したほか、セミナー等を通じて商店街の多言語対応の取組を推進しました。また、観光関連産業で働く人と外国人観光客が指差しだけで簡単に会話できる多言語コミュニケーションシートを作成し、県内事業者に配布しました。

### ・コミュニケーション力の向上

#### □学校や地域における外国人とのコミュニケーション力の向上

##### ・商店街における訪日外国人観光客へのおもてなし力強化に対する支援【県】 [H27～R2]

日本を訪れる外国人観光客などを迎え入れるため、商店街が行う多言語による接客講習会や情報発信の取組を支援するとともに、商店街の関係者を対象におもてなし体制整備の促進を図るためのセミナーを開催するなど、商店街の多言語対応の取組を推進しました。

〔商店街が行う取組への支援実績〕 ※H27～R2

延べ 34 事業への補助を実施

〔セミナー開催実績〕 ※H30～R1

H30：千葉市、一宮町、館山市、松戸市、佐倉市、船橋市で計 6 回開催

R1：君津市、一宮町、市川市、松戸市、成田市で計 5 回開催

##### ・地域住民や観光施設等を対象とした講座等の開催【市町村・団体・大学等】 [H28～]

地域住民や観光施設等を対象としたおもてなし力向上等に係る講座等を開催しました。

〔市町村の取組実績〕

市町村	取組内容
市川市	市内商店、観光施設を対象としたおもてなし講座（東京 2020 参画プログラム）[H29]
松戸市	ボランティアガイド育成事業（英語部に所属する中学生を対象とした講座、ホストタウン講座等）[H28～]
成田市	公民館主催のおもてなし英会話教室 [R2～]
市原市	市内飲食店を対象とした外国人接客対応講座 [H30～]
浦安市	英語通訳養成講座【浦安市国際交流協会】[H29～]
香取市	英会話教室「リビングイングリッシュ」【香取市国際交流協会】[H27～]

栄町	外国人に観光地、習慣、食文化の魅力を伝えるための講座【栄町まちづくり大学】[H29～R1]
一宮町	英会話教室 [H29～R2]
	国際交流員による高齢者を対象とした健康運動教室 [R2～R3]

・多言語コミュニケーションシートの作成及び配布【県】[R2～]

令和2年10月に、日常に加え、新型コロナウイルス感染症への対応や災害発生時など様々な場面において、観光関連産業で働く人と海外からの来訪者が指差しだけで簡単に会話できる多言語コミュニケーションシートを作成し、県内観光関連団体を通じ約27,000部配布しました。また、英語・中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、タイ語で228種類のフレーズを用意し、言語やフレーズを変更してオリジナルシートが作成できるウェブサイトを公開しました。

・みんなで応援！千葉県経済団体協議会の取組【経済団体】[H29～] 戦略0再掲

平成29年7月、県内の経済団体が一丸となり、オール千葉体制のもと東京2020大会等の成功と、その取組を通じて活力ある地域づくりに資することを目的に、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」が設立されました。同協議会は、県内の主要経済6団体（千葉県経営者協会、千葉県経済同友会、千葉県経済協議会、千葉県商工会連合会、千葉県中小企業団体中央会、千葉県商工会議所連合会）によって構成され、①団体横断的・統一的に取組可能な独自の活動、②行政との連携・協力による活動、③他分野の団体等との連携による活動を柱に、「おもてなし」（声かけ・サポート運動や美化活動の展開、講習会の開催）、「機運の醸成」（競技紹介パネル・ポスターの掲示やスポーツ応援運動の展開）、「情報の発信」（県内企業の取組状況の一体的発信）の事業を展開しました。

・研修の実施、AI通訳機の導入等【鉄道事業者・バス事業者・レンタカー事業者・タクシー事業者】[H26～] 戦略3再掲

国内外から訪れる人々の安心感や満足感を高めるため、乗務員への外国人旅客接客研修の実施、AI通訳機「ポケットク」や翻訳タブレット、指差しシートの配備等により、乗務員の外国語対応力等の向上を図りました。

・外国人観光客へのおもてなしの提供

□世界各国の生活習慣や食文化への配慮

・観光関連施設等の受入環境整備【千葉市】[H28～R2]

飲食店、宿泊施設、商店等に対し、多言語化、ハラル対応、免税店化、Wi-Fi環境の整備等の外国人受入環境整備に係る経費の一部を補助する事業を実施するなど、観光関連施設等の受入環境整備を推進しました。

## □免税店の拡大

### ・免税店の拡大【成田国際空港株】[H29～]

関税法基本通達の一部改正により、これまで国際線出発エリアのみで認められていた免税品の販売が、到着エリアでも可能になったことを受け、平成29年9月に国内空港初となる到着時免税店を第2ターミナルにオープンし、その後、12月までに第1・第3ターミナルにおいても順次オープンしました。

## ・外国人にアピールできる“クールCHIBA”の推進

## □おいしい和食・郷土料理の提供

### ・食のおもてなし力向上【県】[H29～] 戦略5再掲

オール千葉による「おもてなし」機運の醸成を図る一環として、千葉県ならではの食の魅力を県内外へPRする「ちばの郷土料理」再発見事業を実施しました。県内の郷土料理のリストアップ、代表的な郷土料理を選定したパンフレットやインバウンド向けパンフレットの作成・配布、観光施設の調理担当者向けの研修会や県内宿泊施設と連携した郷土料理フェアの開催などに取り組みました。

### ・地域の特性を生かした商品やメニューの開発等【事業者】[H29～] 戦略5再掲

地域の特性を生かした商品開発や地域の食材を活用したメニュー開発を行うとともに、SNS等を活用した情報発信・PRに取り組みました。

## □外国人向け旅行商品の開発

### ・SNSを活用した外国人観光客ニーズ及び動向調査【県】[H27]

外国人観光客の誘致や受入体制の整備を戦略的に進めるための基礎情報とするため、東アジア・東南アジアを中心とした11か国を対象に各国の母国語で発信されているフェイスブックやツイッターなどのSNS等の内容から、各国別の嗜好性や行動パターンのほか、観光地や土産物品等に対する感想・期待又は不満等を分析するための調査を実施しました。

### ・空港発着ツアー【成田市ほか周辺自治体・成田国際空港株・成田国際空港振興協会】[H26～]

成田空港において、乗継や空港周辺に宿泊している訪日外国人が気軽に成田空港周辺の観光を楽しんでもらえるよう、「Narita Airport Transit & Stay Program」を展開し、「ウェルカム成田セレクトバスツアー」などを通じて空港周辺の見どころを巡るツアーを実施しています（新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月からツアー休止中）。

## □外国人に喜ばれるお土産の開発

### ・千葉のポテンシャルを生かした地域産業活性化【県・県内中小企業等】[H26～R2] 戦略5再掲

県では、県内各地にある地域資源を活用した新商品・新サービスの開発・事業化等に取り組む中小企業等を対象に、アドバイザーによる新商品等の企画から事業化に至るまでの各段階に応じた支援を実施しました。

また、県内中小企業等では、県産品を使用したお土産の開発・販売を行ったほか、県産品販売コーナーの設置や商談会への出展等により、地域資源を活用した商品の販売促進を図りました。(取扱商品数(延べ)67社215商品)

## 戦略7 危機管理・安全対策

戦略7「危機管理・安全対策」においては、「安全・安心」を提供することが海外から本県を訪れる人々に対する大きなおもてなしの一つであるとの認識のもと、大会の開催を契機として本県を訪れる選手や大会関係者、観戦・観光客等が安心して滞在できるよう、万全の準備と対策を行ってきました。

テロ等違法行為の未然防止に当たっては、関係機関が緊密に連携して対応するため、「テロ対策ネットワーク・CHIBA」等の連携体制を確立したほか、官民による合同訓練や主要駅・重要インフラ施設等の合同警備診断などの取組を進め、警備体制の一層の強化に努めました。また、サイバー攻撃に対しても「サイバーテロ対策協議会」を中心として、自治体、重要インフラ事業者、大学等での講演や訓練の実施により、対応能力の強化を図りました。

災害に対しては、競技会場周辺に避難誘導看板等を整備したほか、会場での発災を想定した対応訓練を実施し、関係機関が円滑に対応できるよう備えました。また、感染症に対しても同様に関係機関の緊密な連携に基づく対応が不可欠であることから、医療機関も含めた病院実動訓練を実施し、感染症発生時の対応能力向上を図りました。新型コロナウイルス感染症対策については、国や組織委員会等との情報共有を図りながら具体的な対策の検討を進め、ホストタウンや事前キャンプ地においては、それぞれの自治体で国の手引きを踏まえたマニュアルを作成し、感染防止対策を実施しました。

さらに、東京2020大会の実施に当たっては、海外から訪れる多くの外国人への対応が想定されたことから、関係機関において多言語への対応能力の向上を図るとともに、安全・安心に係る情報提供の充実に努めました。

このほか、大会を契機として県内各地域の防犯力を強化するため、移動交番車の積極的な活用や防犯カメラ・防犯ボックス等の整備・拡充を進めたほか、交通安全施設の整備など、交通安全対策を推進しました。

### <主な取組実績>

#### ○テロ等違法行為の未然防止

関係機関との緊密な連携のもと、警備体制の強化を進めたほか、テロ対策に向けた資機材等の整備及び官民一体となったテロ対策・サイバー攻撃対策の推進等により、県内全体のテロ等違法行為に対する対応能力を向上させました。

#### ・警備体制の強化等

## □国際海空港対策（水際対策）

### ・千葉港、木更津港でのテロ対策合同訓練【県・県警】[H26～]

千葉海上保安部、東京出入国在留管理局千葉出張所、横浜税関千葉税関支署等の関係機関と連携した訓練を実施し、現場対処能力の向上を図るとともに、平成30年度から、「テロ対策ネットワーク・CHIBA」（※本ページ「□ネットワークの構築」を参照）会員等に訓練を見学してもらうなど、テロ対策への一層の理解と協力が得られる環境づくりに努めました。

### ・CBRNE（シーバーン）テロ<sup>(※)</sup>等対処訓練【成田国際空港(株)・県・県警】[H26～]

消防、税関、警備会社等と連携して、空港従業員等を対象としたシーバーンテロ等の対処に係る基礎知識習得のための勉強会や教育訓練を実施しました。また、関係機関と連携して空港内不法侵入やハイジャック対応訓練を実施しました。

(※)化学(Chemical)、生物(Biological)、放射性物質(Radiological)、核(Nuclear)、爆発物(Explosive)によるテロ

## □公共交通機関・ライフライン等の安全対策

### ・公共交通機関、重要インフラ事業者等と連携したテロ対策合同訓練【県警・各事業者】[H28～]

テロ等違法行為の標的となる可能性が高い公共交通機関、電気・ガス・水道等の重要インフラ施設及び大規模集客施設等の安全を確保するため、各事業者と連携して訓練を実施し、関係機関の相互理解と対処能力向上を図りました。

[訓練実施状況]

H28：2回、H29：1回、H30：11回、R1：10回、R2：5回、R3：7回

## □自主警備体制の強化

### ・警備診断の実施【県警】[H28～]

大会関連施設や集客施設等の安全を確保するため、主要駅・観客利用想定駅及び重要インフラ施設に対して、施設管理者と合同で警備診断を実施し、自主警備状況の点検及び指導・助言を行ったほか、不審情報の連絡・通報体制の確立を図りました。

## □ネットワークの構築

### ・「テロ対策ネットワーク・CHIBA」の設置【県警・県・千葉市】[H28～]

官民一体となったテロ対策を推進するため、県警・県・千葉市が連携して、平成28年4月にテロの標的となるおそれのある事業者・団体等が加盟する「テロ対策ネットワーク・CHIBA」を設置し、講演会や研修会等を通じ、

テロ情勢に関する認識の共有や警戒方法、不審者・不審物発見の着眼点等について理解を深めました。

〔「テロ対策ネットワーク・CHIBA」の活動状況〕

H30：総会 1 回、分科会 5 回、合同訓練 16 回、講演会・研修会 36 回

R1：総会 1 回、分科会 4 回、合同訓練 10 回、講演会・研修会 46 回

R2：分科会 1 回、合同訓練 5 回、講演会・研修会 6 回

R3：総会 1 回、分科会 1 回、合同訓練 24 回

## □大会期間中の取組

### ・競技会場への救急車等の配備【消防】[R3]

テロ等の不測の事態に備え、県内の両競技会場には、地元消防等の協力により救急車等を配備しました。釣ヶ崎海岸においては、県内 18 の消防(局)本部が連携し、県内初の大規模な広域応援体制を構築するなど、安全な大会運営の実現に協力しました。また、成田空港においても、県内の 11 消防本部が連携し、警戒を強化しました。

### ・情報共有・伝達体制の構築【県・千葉市・一宮町】[R3]

大会期間中、組織委員会内に大会運営情報を統括するメインオペレーションセンターが設置され、国や関係自治体等と幅広い情報を共有・伝達する体制が敷かれました。県においても、千葉市や一宮町と連携しながら、災害、ライフライン、道路、公衆衛生などの都市情報と、組織委員会が有する大会運営に関わる情報の共有を図ったほか、競技会場所所有者としての危機管理を行い、競技会場が所在する自治体の立場から、安全・円滑の両側面から大会運営をサポートしました。

## □**・ 装備、資機材の整備**

## □装備・資機材の整備

### ・ 装備・資機材の整備【県警】[H26～]

テロ等違法行為の未然防止や、発生時における犯人の迅速な検挙・逃走犯人の追跡及び採証・検証活動のため、警察官の装備・資機材を整備したほか、探知監視システムの修繕等を実施しました。

また、訓練用ドローンやドローン捕獲資機材等を整備し、訓練の実施により違法に飛行する小型無人機等への対処能力を向上させました。

### ・ 特殊災害対応車の更新【千葉市】[H26～]

特殊災害対応車を更新し、CBRNE（シーバーン）災害への対応能力向上を図りました。

## ・サイバー攻撃対策

### □サイバー攻撃対策の推進

#### ・「千葉県サイバーテロ対策協議会」等を活用した取組【県警】[H26～]

国内外からのサイバー攻撃に対処するため、公共交通機関や重要インフラ事業者で構成する「千葉県サイバーテロ対策協議会」(平成22年4月設置)の会員に対し、個別訪問や各種セミナーを通じた情報共有、共同対処訓練等を実施したほか、自治体、大学、事業者等に向けた講演会や訓練を実施し、サイバー攻撃による被害の未然防止・拡大防止を図りました。

[講演会・訓練の実施状況]

H30：講演45回、訓練13回

R1：講演35回、訓練7回

R2～R3(大会終了まで)：講演4回、訓練7回

#### ・リスクアセスメントの実施【県・(株)幕張メッセ】[H29～R3]

東京2020大会の開催・運営を支える重要サービスにおけるサイバーセキュリティを確保するため、内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)と連携し、県ホームページ、防災情報システム、上下水道の制御監視システム、競技会場である幕張メッセの照明・空調設備システムなどのリスクアセスメントを実施し、潜在的なリスクの分析を進めました。

## ・毒物劇物の安全確保対策

### □毒物劇物取扱施設における適正管理の徹底

#### ・毒物劇物取扱施設への監視・指導體制の強化【県・保健所設置市(千葉市・船橋市・柏市)】[H28～R3]

毒物劇物の盗難や紛失防止等を図るため、毒物劇物取扱施設への監視指導や講習会の開催等により、毒物劇物の保管管理の徹底を図りました。

## ○健康危機管理対策

感染症対策や食品衛生対策、暑さ対策等の健康危機管理対策について、自治体及び医療機関等の連携のもと、研修会や実動訓練等の取組を実施し、知識の向上と体制の強化を図りました。

### □感染症対策

#### ・病院実動訓練の実施【県・市町村・医療機関等】[H28～]

県内医療機関において、県・市町村・医療機関等が参加した病院実動訓練を実施しました。



〔病院実動訓練への参加者数〕

H28：100人、H29：187人、H30：112人、R1：166人

※R2、3年度は実施なし

・ **感染症対策会議・講習会・訓練等の実施【県・医療機関等】 [H26～R3]**

関係機関の感染症に対する知識向上を目的とした研修会や会議を実施したほか、東京2020大会における重大な感染症発生時に適切かつ迅速に対応するため、各保健所において関係機関と合同で患者移送訓練を実施するなど、初動体制の強化を図りました。

・ **新型コロナウイルス感染症対策の検討・実施【県・市町村】 [R2～R3]**

東京2020大会における新型コロナウイルス感染症対策について総合的に検討・調整するため、政府を中心に組織委員会、東京都、JOC、日本パラリンピック委員会（JPC）に有識者を加えた「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」が設置され、選手や観客などの区分ごと、また、入国から事前キャンプ、競技会場などの場面ごとに、感染の予防的対策や感染時の対応策などの検討が行われました。さらに、選手や大会関係者等が感染症対策について守るべきルール等を定めた「プレイブック」を作成するなど、大会開催に向けて新型コロナウイルス感染症対策の具体化が進められました。

県や市町村においては、会議により定められた感染症対策の指針等をもとに、聖火リレーやライブサイト等における具体的な対策の検討を進めました。また、ホストタウンや事前キャンプ地については、国において策定した「ホストタウン等における選手等受入れマニュアル作成の手引き」を踏まえ、それぞれの自治体等で「受入れマニュアル」を作成し、感染防止対策が実施されました。

□ **食品・生活衛生対策**

・ **「HACCP<sup>(※)</sup>セミナー&相談会」の開催【県・市町村】 [R1]**

食品等事業者にはHACCPによる衛生管理を普及・導入支援するため、令和元年度に講義及び演習形式の「HACCPセミナー&相談会」を保健所主催で開催し、93事業者が参加しました。

(※) Hazard Analysis and Critical Control Point（ハサップ）。食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法。

・ **競技会場、宿泊施設、食品製造施設等の監視・指導【県・市町村】 [R3]**

東京2020大会期間中の競技会場、宿泊施設及びそれらで使用される食品の製造施設等に対する監視を行い、食品衛生法に基づくHACCPに沿った衛生管理の指導等を実施しました。

## □暑さ対策

### ・暑さ対策の検討【県】[H30～R3]

競技会場を訪れる観客の暑さ対策として、会場周辺へのクールスポットの設置を計画しました。県内開催競技が無観客となったため、設置は中止となりましたが、ミスト冷風機を備えた休憩場所や飲料水の提供、簡易救護所の設置、県産品や県内観光地を紹介するブースの併設等に向け、関係団体や市町村等と連携して準備を進めました。

また、大会期間中に県立幕張海浜公園で実施を予定していた東京2020ライブサイト及び県PRイベントでは、木陰を多く取り込んだ会場レイアウトの工夫等による炎天下の回避、飲料水の提供、簡易救護所の設置等、暑さ対策の検討を進めました。新型コロナウイルスの影響等により、イベントは中止となりましたが、感染症対策や暑さ対策などを踏まえたイベント実施に係るノウハウ等を今後に活かしてまいります。

## ○まちの安全・安心

東京2020大会を契機とした、治安・防犯対策や交通安全対策の推進、関係機関による多言語対応能力の向上のほか、会場周辺等での発災を想定した災害対応訓練の実施等により、誰もが安心して暮らすことのできる社会づくりを推進しました。

### ・治安、防犯対策

## □治安・防犯インフラの整備

### ・移動交番車の活用【県警】[H26～]

成田空港警察署を除く県下全署(38署)に配備した移動交番車を活用し、各種届出の受理や周囲の警戒に従事させたほか、巡回パトロールなどを行い、地域の実情に沿った情報発信や犯罪抑止活動を展開しました。また、東京2020大会期間中は大規模集客施設等で運用しました。

### ・防犯ボックスの設置【県・県警・市町村】[H26～]

防犯ボックスを核とした、地域住民と県・県警・市町村が一体となった新たな防犯体制の確立を目指し、県のモデル事業として最大4か所で防犯ボックスを運営したほか、市町村が設置・運営する防犯ボックスへの補助制度により、11市町12か所に対し助成を行いました。

### ・防犯カメラの設置【県・市町村】[H26～]

街頭犯罪対策として、県は、市町村等が公道等に設置する防犯カメラ等に対する補助を令和2年度末までに48市町村に行い、地域の防犯力の強化を図りました。

## ・交通安全対策

### □交通安全対策の推進

#### ・組織委員会が行う交通対策への協力【県・県警・市町村・経済団体・企業等】

##### [R3] 戦略3再掲

選手や大会関係者の移動により、東京都内を中心に交通混雑が懸念されていたことから、組織委員会や東京都、国において市民活動と経済活動の継続と円滑な大会運営の両立を図ることを目的に、道路の渋滞や鉄道の混雑緩和を図るための各種交通対策が実施されました。

県内においても、高速道路や競技会場周辺の道路等で混雑が見込まれたことから、県及び県警が交通抑制や迂回案内などの交通対策への協力について広く呼びかけを行うとともに、千葉市及び一宮町では、会場周辺の交通規制など住民生活に影響する情報について、広報誌や自治会等を通じて周知しました。また、経済団体や会場周辺の企業等が中心となり、時差出勤やテレワークの取組促進、物流ルートの変更など交通総量の抑制に資する取組を行いました。さらに、県警においては組織委員会と連携のもと、会場周辺の道路において大会専用レーンの設置や通行止め等の交通規制を行うなど、組織委員会の交通対策に協力しました。

#### ・交通安全施設の整備促進【県・県警】[H26～] 戦略3再掲

幕張メッセ周辺において、14交差点のLED化、4交差点の右折感応化、2交差点の信号機灯器改良を実施しました。また、英語併記の標識や道路標示の補修を実施しました。

## ・外国人観光客への情報提供等の強化

### □外国人観光客向け情報提供の充実

#### ・防災ポータルサイトの多言語化【県】[H26～] 戦略6再掲

気象情報、被害情報、避難所に関する情報等を発信する「千葉県防災ポータルサイト」の多言語化を進め、平成30年度までに英語、韓国語、中国語、スペイン語及びポルトガル語の5言語に対応させました。

#### ・YouTubeを活用した防犯情報等の提供【県警】[R1～] 戦略6再掲

YouTubeを活用し、防犯情報等を多言語（英語、中国語、韓国語）で提供するとともに、令和2年度から、訪日外国人向けの交通ルール動画を多言語（英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ベトナム語）で提供しました。

#### ・ウェブサイトでの観光・防災情報の発信【千葉県観光物産協会】[R3～] 戦略6再掲

外国人観光客向けの特設サイト「Visit Chiba」を開設し、千葉県を訪れ

る方に安全・安心に観光等を楽しんでもらえるよう、新型コロナウイルス感染症関連情報等を英語で発信しました。

・ **アプリを活用した多言語での観光・防災情報の発信【成田市】 [H29～]**  
**戦略 6 再掲**

成田市公式観光情報アプリ「F E E L 成田」において、観光情報に加え、震度 4 以上の地震、気象警報、特別警報といった防災情報を 6 言語（日本語、タイ語、簡体字中国語、繁体字中国語、英語、韓国語）で配信しています。

□ **訪日外国人への医療対応の強化**

・ **訪日外国人への医療対応の強化【県】 [H26～]**

医療機関に対して外国人患者への対応力強化を目的とした講習会を開催し、外国人患者受入体制の整備を図りました。また、医療機関と外国人のコミュニケーションの一助となるよう、ちば救急医療ネットに 8 か国語で問診票を掲載しました。

**・ 災害対応能力の強化**

□ **災害対応能力の強化**

・ **災害対応訓練の実施【県警・関係機関】 [R1～R2]**

令和元年度の警察大震災災害対策総合警備訓練において、競技会場での発災を想定した災害対応訓練を実施するとともに、令和 2 年度には津波防災訓練として、競技会場での発災を想定した災害初動対応訓練を実施しました。

・ **避難場所案内表示の整備【一宮町】 [R1]**

緊急時に備えて、競技会場周辺に避難場所の案内看板を設置し、大会来場者等が安全かつ円滑に避難できるよう整備を行いました。

## 戦略8 機運の醸成・国際交流の促進

戦略8「機運の醸成・国際交流の推進」においては、県内各地で文化プログラム関連イベントや競技体験会、東京2020大会関連の企画展示を開催するとともに、県内学校においてオリンピック・パラリンピック教育を推進し、大会機運の醸成を図りました。

また、大会期間中に国内外から来県する大会関係者や選手、観客をサポートする大会ボランティアや都市ボランティアへの参加促進等に係る取組を通じて、県民のボランティア意識の向上を図りました。

さらに、東京2020大会は、海外の人々との交流、友好を深め、本県の国際感覚を高める絶好の機会でもあるため、姉妹都市交流やホストタウン制度を活用した国際交流の推進、セミナー等を通じた国際理解の促進を通じて、国籍・年齢・性別・人種等にかかわらず、誰もがお互いを理解し、支え合う共生社会の実現に向けて取り組みました。

### <主な取組実績>

#### ○大会に向けた機運の醸成

県内各地で文化プログラム関連イベントが展開されたほか、県・市町村・競技団体等が連携して競技体験会やカウントダウンイベント、東京2020大会関連の企画展示などを実施しました。また、官民や地域が連携して機運醸成キャンペーン等を展開し、大会に向けた機運の醸成を図りました。

#### ・イベント・企画展示

##### □文化プログラム関連イベント等の実施

##### ・文化プログラム関連イベント等の実施【県・市町村・文化芸術関係団体等】 [H28～R3]

スポーツの祭典であると同時に「文化」の祭典でもある東京2020大会の機会を生かし、文化プログラムを実施することで、ちばの文化力向上と文化芸術による地域の活性化を図りました。

文化プログラムの枠組みには「東京2020文化オリンピック」および「beyond2020プログラム」があり、県は、beyond2020プログラムの認証組織の一つとして、公的機関、民間事業者、団体等が行う取組を343件認証しました。(令和3年9月5日現在)

文化プログラムの実施に当たり、県では、①県民参加、②多様性、③ちばの魅力を発信、④未来への継承の4つを事業実施の基本方針とし、『『県民の日』中央行事（県民の日ちばワクワクフェスタ）』『千葉・県民音楽祭』『ちばアート祭』等の事業に取り組みました。

〔県の取組〕

・「県民の日」中央行事（県民の日ちばワクワクフェスタ）

例年6月15日前後に幕張メッセで開催している中央行事において、競技紹介・体験などを実施し東京2020大会の機運醸成を図るとともに、文化プログラムと連携した取組を実施しました。

年度	実施内容
H28～	競技の紹介・体験
H29～	ステージプログラム「千葉・県民音楽祭」PRコンサート
H30	「ちば文化資産」の投票・パネル展示
R1	「ちば文化資産」に選定された茂原七夕まつりの七夕飾りや、もばら阿波おどりの実演、「ちばアート祭」PRコーナー
R2	新型コロナウイルス感染症の影響で中央行事自体が中止
R3	「ちば文化資産」である銚子はね太鼓のステージ等（無観客開催とし、当日のライブ映像と後日編集した動画をYouTube等で配信）

・ちば文化資産の選定とちばアート祭

平成30年度に「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』」を県民参加により111件選定し、この「ちば文化資産」を会場や作品のテーマとして活用した「ちばアート祭」を令和元年度から3か年にわたり実施しました。

・千葉・県民音楽祭

平成29年度から令和3年度まで、県民とプロのオーケストラ等による参加型コンサート「千葉・県民音楽祭」を開催しました。本事業は「東京2020公認文化オリンピックアード」の認証を取得した上で実施し、集大成となる令和3年度の公演は、組織委員会と共催する「東京2020 NIPPON フェスティバル共催プログラム」に採択されました。

・「セレブレーションに出演予定だった団体等による発表及びコンサート」～感動を再び！「ARIGATO TOKYO 2020」フェスティバル～

令和3年11月、東京2020大会の感動を再び味わうとともに、千葉の文化・芸術の魅力を再発見できるイベントとして、千葉県文化会館で開催しました。聖火リレーのセレブレーション等に出演予定だった団体によるパフォーマンスや大会にちなんだ楽曲のコンサートなどを実施したほか、東京2020大会に出場した千葉県ゆかりのアスリートへのインタビューやオール千葉おもてなし隊トークショー&ミニライブなどが行われ、約1,000人が観覧しました。

・市町村における文化振興【市町村】[H29～]

東京2020大会を契機に更なる文化振興を図るため、市民と行政が一体となって市町村ごとに個性を生かした文化関連イベントを展開しました。

[市町村の主な取組]

市町村	取組内容
船橋市	beyond2020 プログラム認証事業： ふなばし音楽フェスティバル事業（ふなばしミュージックストリート、音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭）【ふなばし音楽フェスティバル実行委員会】[H30]
館山市	beyond2020 プログラム認証事業： 館山観光まつり館山湾花火大会【館山商工会議所・館山観光まつり実行委員会】、全国大学フラメンコフェスティバル in 館山【館山市】、南総里見まつり【南総里見まつり実行委員会事務局】[H29～]、館山のまつり【館山地区祭礼当番区、館山地区青年会連合会】[H30～]、那古観音祭礼【那古祭礼興隆会】[R1～]
	東京2020文化オリンピックアード認証事業： 館山市文化祭【館山市芸術文化協会、館山市教育振興会】[H29～]
松戸市	文化プログラムの推進 [H29～]： PARADISE AIR 事業（アーティストやクリエイターを国内外から招聘）、松戸市民政委員児童委員協議会全体研修会を文化プログラムの認証事業として実施
茂原市	「東京五輪音頭-2020-練習会」を実施して東京2020応援プログラム認証の「もばら夏まつり」で踊り、まつり当日や練習会の動画を公開 [R1]
成田市	beyond2020 プログラム認証事業 [H30～]： NARITA スポーツツーリズムフェス
浦安市	beyond2020 プログラム認証事業 [H30～]： H30 うらやす管弦楽フェスティバルや市写真展などの12事業 R1 10事業
四街道市	beyond2020 プログラム認証事業： 令和元年度四街道市民文化祭（参加者：16,055人）【四街道市民文化祭実行委員会・四街道市教育委員会・四街道市教育研究会】[R1]
匝瑳市	beyond2020 プログラム認証事業： 飯高檀林コンサート【飯高檀林コンサート実行委員会・匝瑳市・匝瑳市教育委員会】[H30～R1]
香取市	伝統・文化の体験等【江戸優り佐原文化芸術祭実行委員会】[H29～R2]
大網白里市	beyond2020 プログラム認証事業 [H29～]： H29 特別企画展「大網山田台遺跡群から見る古代の大網白里」 H30 第16回大網白里市郷土芸能発表会

- ・北総四都市～文化でつなぐ私たちの街～プロジェクト等【公益財団法人千葉県文化振興財団】[H28～]

平成28年度に、佐倉市・成田市・香取市・銚子市を舞台にした「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が文化庁の「日本遺産」に認定されたことを受け、平成30年度から、「北総四都市～文化でつなぐ私たちの街～」プロジェクトを実施し、北総四都市の魅力を発信しました。

□競技体験会やアスリートによる講演会、機運醸成イベント等の実施

- ・「県民の日」中央行事（県民の日ちばワクワクフェスタ）での競技紹介・体験【県・競技団体等】[H28～]

例年6月15日前後に幕張メッセで開催している中央行事において、競技紹介・体験などを実施し東京2020大会の機運醸成を図るとともに、文化プログラムと連携した取組を実施しました。

[実施内容]

年度	実施内容
H28～	競技の紹介・体験
H29～	ステージプログラム「千葉・県民音楽祭」PRコンサート
H30	「ちば文化資産」の投票・パネル展示
R1	「ちば文化資産」に選定された茂原七夕まつりの七夕飾りや、もばら阿波おどりの実演、「ちばアート祭」PRコーナー
R2	新型コロナウイルス感染症の影響で中央行事自体が中止
R3	「ちば文化資産」である銚子はね太鼓のステージ等（無観客開催とし、当日のライブ映像と後日編集した動画をYouTube等で配信）

- ・トップアスリートを招いた教室・交流会等の開催【県・市町村・学校・大学・競技団体・企業など】[H26～] 戦略2再掲

市町村や大学等において、トップアスリート等を招いたスポーツ教室や交流会等を多数開催し、交流を通じて子どもたちに夢を与えるとともに、競技の裾野拡大や競技力の向上を図りました。

- ・スポーツ体験会・教室等の開催【市町村】[H26～] 戦略2再掲

子どもから大人、高齢者や障害のある人など県民の誰もが、日常的にスポーツに親しみ、心身共に充実した活力ある生活を送れるよう、スポーツ体験会や教室等の実施により、個人の運動やスポーツへの主体的な参加を促進するとともに、東京2020大会に向けた機運醸成を図りました。

- ・障害者スポーツ体験会等の開催【県・市町村・大学・関係団体等】[H28～] 戦略2再掲

県・千葉市・県内大学等が連携して、平成28年度から「パラスポーツフェスタちば」を開催し、パラスポーツの魅力や素晴らしさを県民に体感



していただけるよう、競技体験会や対抗戦を実施しました。平成29年度からは県内企業、平成30年度からは特別支援学校が対抗戦に出場するなど、年齢、障害の有無に関わらず、様々な方々にパラスポーツを体験していただく重要な機会となりました。

また、県・日本財団パラリンピックサポートセンター・競技団体等が連携して、平成28年度から流山市、旭市、君津市、いすみ市の各市において「パラスポーツフォーラム in CHIBA」を開催しました。パラスポーツの魅力を伝えるとともに、障害への理解を深める契機としていただけるよう、県内開催競技の紹介やパラアスリートとの交流、競技体験会を実施しました。

さらに、県では、パラアスリートによる基調講演や、企業・福祉関係者、学生、パラアスリートによるパネルディスカッション、県の取組の紹介などを通して、関係機関の「輪」を更に広げ、パラスポーツの振興に取り組む契機とするため、令和元年8月、ホテルポートプラザちばで「パラスポの『輪』フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、「パラスポーツを通してバリアのない社会を作り上げていく」ことをテーマに県内の大学生が運営スタッフとして企画から関わって開催されました。また、同年実施したパラ「旅」応援事業でボランティアに従事する学生により組織された「パラ旅応援団」の結成式も行われました。

令和元年には、学生団体おりがみが「みんなの遊び場パラステーション」をJR千葉駅で開催し、ボッチャの体験会等を通して障害者スポーツの魅力を広く県民に発信したほか、各市町村や大学等においても、様々な機会に障害者スポーツ体験会等を開催しました。

・**長生地域の児童・生徒を対象としたサーフィン教室等【県・市町村】[H30~]**

長生地域の7市町村（茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町）と県は、地域振興の取組の中で、地域住民のサーフィン競技に対する理解を深めるとともに大会機運の醸成を図るため、日本サーフィン連盟や地元のサーフィン業組合の協力のもと、児童・生徒を対象としたサーフィン教室や、サーフィンの国際大会「WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN」の見学会などを実施しました。

・**カウントダウンイベントの実施【県・千葉市・一宮町・経済団体等】[H29~R1]**

機運の醸成や、大会・競技への理解を深めることを目的に、県、組織委員会、千葉市、一宮町、経済団体等で連携して、3年前イベント、1000日前イベント、2年前イベント、500日前イベント、1年前イベントといった記念イベントを実施しました。

[実施内容]

年度	実施内容	開催日	会場
H29	○オリンピック開催3年前イベント 「ALL CHIBA で盛り上がりよう！ ～みんなの Tokyo 2020 3 Years to Go!～」 (同時開催) 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック フラッグツアーフラッグ歓迎イベント」	7/24	ワールドビジ ネスガーデン
	○オリンピック開催3年前イベント 「一宮町 サーフィン会場でも盛り上がりよう！」	7/24	・釣ヶ崎海岸 ・一宮町役場
	○オリンピック開催3年前イベント 「千葉にオリンピック・パラリンピックが やってくる！」	8/5 8/6	イオンモール 幕張新都心
	○パラリンピック開催3年前イベント 「ALL CHIBA で盛り上がりよう！ ～みんなの Tokyo 2020 3 Years to Go!～」	8/25	JR 海浜幕張駅 南口駅前広場
	○開催1000日前イベント 「CHIBA にオリンピック・パラリンピックが やってくる！」	10/28	成田空港第2 ターミナル ビル
H30	○オリンピック開催2年前イベント 「CHIBA にオリンピック・パラリンピックが やってくる！～Tokyo 2020 2 Years to Go!～」 (同時開催) サーフィン日本代表「NAMINORI JAPAN」応援 イベント	7/24	・成田国際空港 ・釣ヶ崎海岸
	○パラリンピック開催2年前イベント 「千葉にオリンピック・パラリンピックがやっ てくる！～Tokyo 2020 2 Years to Go!～」 (同時開催) beyond2020「みんなで踊ろう 東京五輪音頭」	8/25 8/26	・イオンモール 幕張新都心 ・豊砂公園
	○開催500日前イベント 「あと500日！オール千葉で応援しよう！」 フォーラム (同時開催) スポーツを応援するチーバくんのお披露目	3/18	イオンシネマ 幕張新都心
R1	○開催1年前イベント 「千葉にオリンピック・パラリンピックが やってくる！～Tokyo 2020 1 Year to Go!～」	7/27 7/28	イオンモール 幕張新都心

## □オリンピック・パラリンピック企画展示等

### ・チバミュージアムフェスタ2020【県】[R1~R3]

令和元年8月から令和3年8月にかけて、千葉県教育委員会は県立美術館・博物館の合同企画による「チバミュージアムフェスタ2020」として『オリンピック・パラリンピック』と千葉のスポーツ史」のパネル巡回展示を実施しました（東京2020公認文化オリンピックアード）。千葉県ゆかりの人々の活躍を中心に、オリンピック・パラリンピックと千葉県における近代スポーツのあゆみ、現代のスポーツ競技を支える県内企業の技術についても紹介しました。

### ・ミライトワとソメイティのモニュメント展示【県】[R3~]

東京2020大会の機運醸成を図るため、ガッツポーズのミライトワ・ソメイティと、サーフィンポーズのミライトワのモニュメントを制作しました。制作したモニュメントは、令和3年4月から6月までは県庁内に展示し、東京2020大会の開催期間中には、ガッツポーズのミライトワ・ソメイティは幕張メッセに、サーフィンポーズのミライトワは一宮町役場に展示しました。このモニュメントは、大会後も県内での開催を思い起こすことができるよう、競技会場となった幕張メッセと釣ヶ崎海岸にそれぞれ設置することを予定しています。

### ・都市装飾等の取組【県・千葉市・一宮町】[H30~]

県、千葉市、一宮町では、大会期間中に本県及び県内の各競技会場を訪れる選手や大会関係者などをお迎えするとともに、県民の機運醸成を図るため、東京2020大会のエンブレム、マスコット等を使用したのぼり、横断幕等で県内を装飾しました。

県では、選手の移動ルートに大会公式デザインの「大会ルック」を使用したのぼりを設置するとともに、歓迎メッセージを記載した横断幕を掲出しました。また、会場最寄り駅であるJR海浜幕張駅及びJR上総一ノ宮駅の壁面へのシートラッピングなども実施しました。

千葉市では、幕張メッセ周辺におけるラストマイル装飾を実施したほか、千葉都市モノレールにおけるラッピング車両の走行、市役所や各区役所への懸垂幕や横断幕の掲出、JR海浜幕張駅前大型ビジョン等での大会PR動画の放映、京成バスの車体ラッピング及び車内ジャック広告の実施、JR千葉駅・モノレール千葉駅連絡通路等における市内開催競技PR装飾の実施、公共施設や商業施設へのポスターの掲示などを実施しました。

一宮町では、町内の街路灯へのオリンピックエンブレムフラッグの掲出、国道128号線沿いやJR上総一ノ宮駅東口へのオリンピックエンブレム等の看板の設置、オリンピックエンブレム入りサーフボード及びカウントダウンボードの庁舎展示、ポスターの掲示などを実施しました。

・ホストタウンで繋ぐ写真展リレー【ちば国際コンベンションビューロー・JICA】[R2～R3]

ちば国際コンベンションビューロー（千葉県スポーツコンシェルジュ）とJICA千葉デスクの共催で、ベリーズ、ザンビア、スリランカ、ナイジェリア、ブルキナファソ、ドミニカ共和国、ペルー、ボツワナの食べ物、生活、文化、自然などを紹介する写真展（写真協力：世界の応援団／青年海外協力隊）を開催しました。令和2年12月から令和3年3月にかけて、ホストタウンとなっている県内7市町の会場を巡回するとともにオンライン展示を実施しました。また、令和3年3月から7月にかけて、県内8か所のイオンモールで巡回展示を行いました。

・聖火リレートーチの県内巡回展示等【県・市町村】[R3]

オリンピック聖火リレーが本県で実施される3か月前に合わせて、オリンピック及びパラリンピックの聖火リレートーチの県内市町村での巡回展示を行いました。トーチを飾る展示台は、東京2020大会のサーフィン会場である釣ヶ崎海岸の施設整備にも使用された、千葉県産の杉材で制作しました。また、市町村独自でも、聖火リレートーチ等の展示を行いました。

・オリンピック・パラリンピック関連展示やブース出展等【県・市町村・学校・大学・団体・企業等】[H28～]

公共施設等での東京2020大会関連展示やイベント等でのPRブース出展、広報誌での東京2020大会関連情報の発信など、県・市町村・学校・大学・団体・企業等が連携して、様々な機運醸成の取組を推進しました。取組の推進に当たっては、組織委員会から「東京2020参画プログラム」<sup>(※)</sup>の認証を受け、参画プログラムのマークや「オリンピック・パラリンピック」等の文言を使用するなどして、機運醸成を図りました。

また、東京2020大会には、千葉県出身や県内在住、県内学校卒業など、千葉県にゆかりのある数多くの選手が出場しました。ゆかりのある市町村や学校、企業等では、広報誌やホームページ、懸垂幕や横断幕等を活用して、それぞれゆかりのある選手を紹介するなど、様々な形でエールを送りました。

<sup>(※)</sup> 東京2020大会に向けた盛り上げを図るため、様々な団体が実施するオリンピック・パラリンピックに向けたイベント等を組織委員会が認証する仕組み。

[市町村の主な取組]

市町村	取組内容
千葉市	オリンピック・パラリンピック関連講座（～R1:28回、R2～R3:17回） 【公民館】[H29～]
	千葉市消防出初式でのPR活動 [H30～R1]
	おもてなしアイデア募集・実践紹介 [H30～R3]
	千葉市科学館企画展「みんなのスポーツ展～ぼくもわたしもアスリート！？～」等【千葉市科学館】[R1]

	<p>オリンピック・パラリンピック応援作品の制作（全小・中・特別支援学校でポスターやのぼり旗を制作し、公共施設等に掲出）[R1～R2]</p> <p>機運醸成等活動事業補助制度の運用（市民の自主的な機運醸成等活動を支援（R1:10 団体、R2:2 団体、R3:4 団体））[R1～]</p>
銚子市	<p>市役所 1 階展示スペースでのオリンピック・パラリンピック企画展示 [R1～]</p> <p>オリンピック支援自販機（市内 3 か所に計 4 台）及びホストタウン関係 PR パネル設置 [R1～]</p>
市川市	<p>市内イベントでオリンピック・パラリンピックに関するパネルの展示 [H29～]</p> <p>図書館の展示コーナー等でのオリンピック・パラリンピック企画展示 [H29～R3]</p> <p>内閣官房アクション ブルガリアフェア in 市川市において、ブルガリアに関するパネル展示の開催（東京 2020 参画プログラム）[R1]</p>
館山市	オリンピックのふるさと大使への委嘱
木更津市	異文化交流！アヨさんのナイジェリア料理教室【2020 東京オリンピック・パラリンピック木更津市推進協議会】[R1]
松戸市	<p>広報まつどでのホストタウン紹介・オリンピック関連情報の紹介 [H30～]</p> <p>市役所内でのホストタウン関連啓発展示 [H30～]</p> <p>大河ドラマ「いだてん」紹介展示 [R1]</p>
茂原市	<p>「東京五輪音頭-2020-練習会」を実施して東京 2020 応援プログラム認証の「もばら夏まつり」で踊り、まつり当日や練習会の動画を公開 [R1]</p> <p>東京 2020 応援プログラム・beyond2020 プログラム認証事業 [R1]</p> <p>東京 2020 参画プログラムへの啓発活動 [R1～]</p>
成田市	<p>beyond2020 プログラム認証事業：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NARITA スポーツツーリズムフェスによる県内開催競技パネルや成田市・佐倉市・印西市のホストタウン事業の紹介パネルの展示、パラスポーツの体験会などの実施による機運醸成 [H30～]</li> </ul> <p>東京 2020 参画プログラム認証事業：</p> <p>[H30]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H31. 3. 9 市民向け講演会「共生社会実現への道 ～東京 2020 パラリンピックに向けて～」</li> </ul> <p>[R1]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R1. 8. 17 もりんぴあこうづにおける市民向けパラスポーツ体験会</li> <li>・R1. 10. 26 ロンドン大会で活躍したイギリス・コベントリーの都市ボランティアによる講演会「共生社会とスポーツボランティア」</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2. 1. 26 小中学生を対象とした「アメリカのナショナルコーチとトップアスリートを招いた陸上クリニック」</li> <li>・R2. 2. 20 米国空軍太平洋音楽隊による、市民との交流のためのふれあいコンサート</li> <li>・R2. 2. 22 アイルランド大使館の副代表と、パラノルディックスキー日本チームGMであり、北海道エネルギー(株) パラスキー部監督の荒井秀樹氏をお招きした市民向け講演会「スポーツを通じた共生社会講演会」</li> </ul> <p>[R2]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3. 2. 11 音楽とスポーツをテーマにした共生社会応援プロジェクトであり、アイルランドとをオンラインで繋いだ、リアルとオンライン、配信のハイブリッド交流イベント「PARA Beats! 勇気を奏でよう。～A celebration for para athletes.」</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五輪音頭 CD・DVD の貸出し</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京 2020 オリンピックに出場する本市出身のアスリート、橋本大輝選手と並木月海選手を応援するための横断幕や懸垂幕、のぼり旗を市内各所へ掲出</li> </ul>
市原市	市原ゆかりのパラアスリートのポスター・動画制作 [R2]
我孫子市	生涯学習センター、市民プラザでのオリンピック・パラリンピック展示 [H28～]
	東京オリンピック・パラリンピックパネルキャラバン(市民体育館及び我孫子インフォメーションセンターでのパネル展示) [H30]
	生涯学習センターでの東京五輪音頭の上映 [R1]
	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社との包括連携協定(令和元年 10 月締結)に基づく自販機の設置や売上金を活用した機運醸成等の取組
	市内イベント(うなきちカップ)における聖火リレーブース設置(コカ・コーラ社と連携) [R1～R2]
君津市	東京 2020 参画プログラム認証事業(復興部門) 3 件実施 [H30]
	HP や広報誌に廣瀬隆喜選手やボッチャ競技を紹介する特設ページを創設、廣瀬選手と市長のオンライン対談を広報誌や YouTube で周知 [R3]
浦安市	浦安市民まつりでのオリンピック・パラリンピック機運醸成ブース設置 [H30]
	大会やスポーツなどをテーマとした書籍のリーフレット作成【中央図書館】 [R2～R3]
	オリンピック・パラリンピック企画展示【中央図書館】 [R3]
白井市	コカ・コーラ社と包括連携協定を締結 [R2]
	市役所や図書館での市出身オリンピック選手の広報 [R3]

富里市	県内開催競技 PR のためのパネル展示 [R2]
	オリンピック聖火ランナーの市長表敬、機運醸成に係る広報活動 [R3]
匝瑳市	八重垣神社祇園祭（東京 2020 参画プログラム） [H30～R1]
香取市	東京 1964 大会で聖火リレーの伴走を務めた「オリンピックカー」の展示 [R3]
	市役所ロビーでのオリンピック関連展
	東京 1964 大会金メダリスト桜井孝雄展 [R3]
山武市	市内図書館のオリンピック・パラリンピック関連書籍増冊 [H28～]
	オリンピック種目における世界記録の可視化イベント・展示 [H28～]
	オリンピック・パラリンピックまでのデイカウンター設置 [R1～R3]
	「オドルパプリカ」（市内出身の菅原小春さんが振付けを担当した、NHK の 2020 応援ソング「パプリカ」のダンスを通じ、機運醸成を図る） [R1～]
大網白里市	SNS を活用したオリンピック関連情報の周知 [R3]
栄町	ふれあいプラザさかえ展示ロビーでの千葉県内開催競技 PR パネル展示 [R2]
	ふれあいセンター内へのアテネオリンピック出場選手（町内在住）PR コーナー設置 [R2～R3]
東庄町	東京 2020 応援プログラム認証事業（ぼんおどり大会で「東京五輪音頭-2020-」を披露） [R1]
芝山町	芝山町ゆかりのオリンピック聖火ランナーの広報紙特集 [R3]
一宮町	町の広報、町政要覧、封筒、ポスター等にオリンピックエンブレムを使用 [H28～R3]
	町内で開催される各種イベントへの出展 [H28～R3]
	オリンピックエンブレム付きフラッグの掲出 [H29～R1]
	東京 2020 参画プログラムへの認証 [H29～R3]
	おもてなしポスターの作成、掲示 [H29～R3]
	五輪音頭 CD・DVD の貸出 [H29～]
	ボッチャ体験会【一宮町・オリンピック・パラリンピック等経済界協議会】 [H30]
	エンブレム及び町ロゴを付したサーフボード、ポータブルホルダー、ステッカーの作成 [H30～R3]
	エンブレムを公用車に掲示 [H30～R3]
	クリーンシーズへの参加 [H30～]
コカ・コーラ社と包括連携協定を締結 [R1]	

	「世界環境デー 第3回東京2020 スポ GOMI 大会」(組織委員会主催)との連携 [R1]
	スポル品川大井町でのサーフィン競技開催地、QS6000 開催 PR ブース運営 [R1]
	期間限定千葉県アンテナショップへの出展【県】 [R1]
	ひまわりをテーマにしたファミリー料理教室の開催 [R1]
	街路灯及び駅前看板の都市装飾を実施 [R1~R3]
	エンブレム付きの看板を国道脇に設置 [R1~R3]
	オリンピック聖火リレーにおける一宮町ゆかりのランナーについての広報活動 [R1~R3]
	県内開催競技代表選手のパネル等の展示【県・一宮町】 [R2]
	ミライトワ・ソメイティ記念モニュメント及び町サーフボード等の展示【県・一宮町】 [R3]
	大原洋人選手の日本代表決定を祝す懸垂幕、横断幕の掲出や防災無線等での応援活動 [R3]
	大原洋人選手のサイン入りサーフボード、五十嵐カノア選手使用サーフボードの展示 [R3]
	オリンピック聖火リレートーチ及びテニス日本代表である錦織圭選手のパネル展示【NTT・一宮町】 [R3]
大多喜町	オリンピック・パラリンピック巡回写真展【B&G 財団・大多喜町】 [H30]

[大学の取組実績]

大学	取組内容
順天堂大学	SAKURA 未来プロジェクト [H28~]
神田外語大学	学園祭でのオリンピック・パラリンピック紹介展示(ゼミ有志メンバーとボランティアセンター協働) [R1]
	学生団体「55! MAKUHARI」による活動、プロジェクト [R2~]

[団体の取組実績]

団体名	取組内容
ちば国際コンベンションビューロー	国際交流・協力等ネットワーク会議における「スポーツを通じた地域振興、国際交流」をテーマとした分科会の実施 [H29]
	機関紙「国際交流つうしん」にオリンピック・パラリンピック特集シリーズを掲載 [H29~R1]



## □官民や地域が連携した機運醸成キャンペーン等の展開

### ・県内経済団体と連携した取組【県・千葉市・一宮町・経済団体等】[H29～]

平成30年1月、千葉商工会議所において官民学連携セミナー「オール千葉で盛り上がりよう！～東京2020大会の成功とレガシーの創出に向けて～」を県、千葉市、一宮町、みんなで応援！千葉県経済団体協議会共催で開催しました。セミナーでは、日本障がい者スポーツ協会による講演「共生社会実現への道」や、千葉市在住のパラバドミントンの村山浩選手によるパラアスリート雇用についての講話、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会や千葉大学・帝京平成大学の学生による取組事例の発表、競技会場やホストタウンにおける事例紹介が行われ、約200人が来場しました。

また、東京2020大会開催を直前に控えた令和3年7月には、オンラインセミナー「オリンピック・パラリンピック開催に向けてのこれまでの取り組みの成果と今後の千葉市経済の活性化に向けて」が千葉商工会議所主催で開催されました。

さらに、千葉商工会議所は、会員企業向けに毎月発行している会報誌「夢シティちば」において、県、県立中央博物館と連携して、大会関連情報に係る記事の連載を行いました。大会開催前には、連載記事を1冊にまとめた「ちば応援ガイドブック」を発行し、競技の普及や大会に出場する選手の応援につなげました。

### ・スポーツを応援するチーバくんを活用した機運醸成の取組【県・企業・経済団体等】[H30～]

県では、平成31年1月、スポーツをオール千葉で応援する機運を一層高めるため、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」の新しいデザインとなる「スポーツを応援するチーバくん」を発表しました。これを受けて、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」は、同年3月のオリンピック500日前イベントを契機として、千葉県内を「スポーツを応援するチーバくん」と県内開催競技のチーバくんでいっぱいにする運動を推進し、その一環として、ステッカーや卓上のぼりを制作し、企業の店舗やオフィス、社用車などに展開しました。

また、同年7月には、開催1年前に合わせて、東京2020大会エンブレムとスポーツを応援するチーバくんのデザインを活用したバナーを千葉駅周辺の商店街に掲出するなど、経済界や行政などが連携して一体感のある取組が展開されました。

### ・長生郡市・夷隅郡市サーフィン競技応援連絡協議会等の設置【一宮町・いすみ市】[H29～R3]

平成29年9月に「一宮町東京オリンピックサーフィン競技連絡協議会」、平成30年1月に「長生郡市・夷隅郡市サーフィン競技応援連絡協議会」を設置し、関係団体と大会関連情報を共有することで、大会の開催機運の醸成に向け、地域全体での連携の強化を図りました。

・九十九里・外房地域の16市町村によるおもてなしCHIBAプロジェクトの展開【県・市町村】[H29～R3] 戦略5再掲

東京2020大会に向けて、九十九里・外房地域16市町村等<sup>(※)</sup>で行われるおもてなし機運を高めるための運動に、地域が一体となって取り組みました。

(※)銚子市、旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里市、白子町、長生村、一宮町、いすみ市、御宿町、勝浦市、鴨川市、南房総市、館山市。

令和元年度からは、長生地域振興会議（茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、長生地域県出先機関で構成）もプロジェクトに参加。

・NARITAスポーツツーリズムフェス【成田市】[H30～]

成田市では、スポーツツーリズムを通じて伝統文化豊かな成田の良さを発信するとともに、訪日外国人と地域の方々をつなぎ、東京2020大会以降にも続く地域連携の仕組みを構築するため、平成30年度から、官民や地域が連携して「NARITAスポーツツーリズムフェス」を開催しました。

・大会と連動したふれあい機会

□交流会等の開催

・オーストラリアサーフィン代表選手との国際交流【一宮町】[R1]

令和元年9月、宮崎県で行われたサーフィン世界大会に先立って来訪したオーストラリア代表選手と東浪見小学校の児童との国際交流を図り、質疑応答等の交流後、釣ヶ崎海岸でビーチクリーンを実施しました。

・オーストラリアとの国際交流【浦安市】[R1～]

ラグビーワールドカップ2019オーストラリア代表の公認チームキャンプ地となり、オーストラリアラグビーアカデミー「キャバリーズ」と市内の高校生などとの親善試合を通じた国際交流を行いました。また、令和2年から3年に、オーストラリアと日本の子どもたちとの教育交流プログラム「Australian Olympic Connect ともだち2020」を実施しました。

・フランスサッカー男子代表選手の公開練習の見学【習志野市】[R3]

東京2020大会サッカー競技公式練習会場におけるフランスサッカー男子代表選手の公開練習が行われ、市内中学校1校が参加しました。

・オリンピック・パラリンピック教育の推進

□オリンピック・パラリンピック教育等の推進

・千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針の策定及びオリンピック・パラリンピック教育推進校の選出【県】[H29～]

次世代を担う子どもたちに国際感覚やスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障害への理解などを身につけさせ、大会後も無形のレガシーとして

引き継いでいくために、県をあげてオリンピック・パラリンピックを活用した教育活動に取り組む指針として、平成29年4月、「千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針」を策定しました。取組方針では、オリンピック・パラリンピック教育で目指す児童・生徒の姿を、「おもてなし」「心のバリアフリー」「スポーツ」「グローバル」の4つのプロジェクトに整理しました。県は、この取組方針に基づいてオリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校を「オリンピック・パラリンピック教育推進校（オリパラ教育推進校）」に指定し、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図りました（平成29年度は30校、平成30年度以降は65校を指定）。

・**千葉市オリンピック・パラリンピック教育実施方針の策定及び推進【千葉市】**  
[H28～]

東京2020大会が身近で開催されることを、千葉市の子どもたちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、オリンピック・パラリンピック教育を強力に推進するため、平成29年3月、「千葉市オリンピック・パラリンピック教育実施方針」を策定し、オリンピック・パラリンピック教育を推進しました。

・**オリンピック・パラリンピック教育の推進【小中学校・高校・特別支援学校】** [H29～]

全公立校を含む県内学校において、取組方針において整理された「おもてなし」「心のバリアフリー」「スポーツ」「グローバル」の4つのプロジェクトに係る様々な取組が進められました。パラリンピックの閉会式では、県内2校の取組がインクルーシブな世界の実現に多大な功績を収めたとして、「アイムポッシブル（I'mPOSSIBLE）アワード」で開催国最優秀賞（木更津市立清見台小学校）及び開催国特別賞（千葉県立東金特別支援学校）を受賞しました。

[オリンピック・パラリンピック教育の取組実績]

市町村	取組内容
千葉市	障害者アスリートによる学校訪問を実施 [H28～]
	英語教育・国際理解教育を推進 [H29～R1]
	道徳教育を推進 [H29～R1]
	アスリートとの交流及びパラスポーツの試合観戦を実施 [H29～R2]
	千葉市立小・中・特別支援学校で東京2020オリンピック・パラリンピック応援給食メニューを実施 [H29～R3]
	小中学校で車いすバスケットボールなど競技用車いすを活用した授業を実践 [H29～]
	海外障害者アスリートとの交流を実施（市内小学校での講話や競技体験会） [H30～R1]

	小学校記念陸上大会へパラアスリートを招聘等 [H30～R2]
	千葉市立全小中学校で体育・保健体育におけるパラスポーツを実施するとともに「体育理論」を充実[H30～]
	小学校球技大会に向けてパラアスリートから児童へのメッセージ動画を配信 [R3]
市川市	様々な種目のスポーツ選手が、学校において授業「夢を持つことや仲間と協力することの大切さ」などを、講義と実技を通じて子どもたちに伝える、「夢の教室運営事業」を実施 [H27～]
	市内の小学校6年生を対象に、外国にルーツを持つシェフが世界各国料理の調理実習を実施 [H29～]
船橋市	疑似高齢者体験、車いす体験などの体験活動を実施
館山市	館山市立豊房小学校・館山市立第二中学校（オリパラ教育推進校）で、オリンピック等による講演、ボッチャ体験、サッカー教室等を実施 [H29～]
木更津市	市内小学校5年生と中学校2年生を対象としたJFA こころのプロジェクト「夢の教室」を実施 [H30～R3]
松戸市	市内全小学校（45校）の5年生を対象としたJFA こころのプロジェクト「夢の教室」を実施 [H27～]
	オリパラ教育推進校で取組を推進（車いすラグビーメダリストや車いすバスケットボール選手による講演会及び体験会、ホストタウン相手国との交流に係る学習） [H29～]
野田市	オリパラ教育推進校で取組を推進 [H30] <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食「世界の郷土料理」月間</li> <li>・ブラインドサッカー体験会</li> <li>・障害者スポーツ陸上競技幅跳びの選手によるブラインド体験会</li> <li>・陸上競技高跳びの選手による高跳びの実技指導体験会及び講演 [R1]</li> <li>・世界の食事「オリンピック・パラリンピック給食」</li> <li>・元200mハードルアジア記録保持者を招いた「かけっこ教室」</li> <li>・車いすテニス選手とテニス上級コーチを招いたテニス体験や車いす乗車体験</li> <li>・JOC エリートアカデミーディレクターを招いた講演会</li> <li>・元スキー選手による講演会</li> </ul>
成田市	中学校でのパラテコンドー体験会（オリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携） [H28]
	小学校でのボッチャ体験教室（オリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携） [H29]
	アイルランドパラ水泳代表チームと市内中学校水泳部との水泳クリニックを開催 [H30]

	<p>アイルランドパラ水泳代表チームによる特別支援学校及び市内小学校への学校訪問を実施 [H30]</p> <p>小学校でのボッチャ体験教室（市原ボッチャクラブ等と連携） [R1]</p>
佐倉市	<p>義足アスリートを講師に迎え、小学生を対象にスポーツ義足体験と障害について考える講義を実施 [H29～R1]</p> <p>ブラインドサッカー、ゴールボール、ボッチャ、車いすバスケの体験会や体験授業を実施 [H30～R1]</p>
習志野市	<p>オリパラ教育推進校で取組を推進（オリンピック等を講師として招き、オリンピック・パラリンピックと福祉教育等とを関連させた学習を実施） [H29～]</p> <p>子どもがつくるオリンピック広報誌事業を推進 [R1]</p> <p>子ども記者たちが、市内で第 18 回世界水泳選手権大会に向けた事前キャンプを行っていたオランダ水泳選手に取材を実施し、習志野こどもしんぶん「オリンピック・パラリンピックがやってくる！号」を作成</p>
柏市	<p>障がい者スポーツ体験交流事業を推進（障がい者スポーツ選手や関係者を市内小中学校全校（63 校）に派遣し、スポーツ体験交流や講演等を実施） [H29～R1]</p> <p>パラバドミントン学校訪問事業を推進【NPO 法人スマイルクラブ（市内団体）】 [H30～R3]</p> <p>オリパラ教育推進校がイギリス車いすテニス代表選手団向け応援メッセージカードを作成 [R3]</p>
市原市	<p>ユニバーサルラン義足体験授業を実施 [H29～R2]</p> <p>車いすバスケットボール体験授業を実施 [R1～R3]</p>
流山市	<p>オリパラ教育推進校を中心に、「おもてなし」や「心のバリアフリー」に係るオリンピック・パラリンピック教育を推進 [H29～R3]</p>
八千代市	<p>『子どもたちの可能性』を引き出すためにオリンピック・パラリンピック教育指導計画案集を活用したオリパラ教育を推進 [H28～R2]</p> <p>オリパラ教育推進校で取組を推進（水球体験等の実施、国際理解や障害のある人への理解を深める学習） [H30～R3]</p>
我孫子市	<p>オリパラ教育推進校で取組を推進 [H30～]</p> <p>外国人おもてなし表現ブックレット小学生版・中学生版を作成、英語での道案内を学習 [R1]</p>
鴨川市	<p>ALT による国際理解教育を実施</p> <p>フェンシング日本代表（当時は候補）選手による市内小学校での体験会・講演 [R2]</p>

鎌ヶ谷市	オリパラ教育推進校で取組を推進（パラスポーツの体験・紹介コーナーの作成、車いすバスケットボール選手の招聘等） [R1～R3]
君津市	オリパラ教育推進校等でボッチャやブラインドランニングのパラスポーツ体験会を実施 [H30～R1、R3]
富津市	オリパラ教育推進校でパラスポーツ学習を実施 [R2]
浦安市	オリパラ教育推進校で「かけっこ教室」を実施 [H30]
	オリパラ教育推進校がオーストラリア車いすバスケットボール女子代表チームと競技体験交流会を実施 [H30]
	オリパラ教育推進校で「ユニバーサルラン・スポーツ義足体験授業」を実施 [R1]
	「うらやすこころのバリアフリーハンドブック」を市内小学校 17 校等の児童・生徒等に配布 [H30：2,247 人、R1：2,506 人、R2：2,275 人]
袖ヶ浦市	小学校で国際理解集会を開催 [H28～H29]
	小学生を対象としたイングリッシュフェスタを開催 [H28～H29]
	小学校へ外国語指導助手（ALT）を配置、オリンピック・パラリンピックを題材とした授業を実施 [H28～]
印西市	ゴールボール等パラリンピック競技の体験会を小中学校で実施 [H30～]
	オリンピック 4 人を講師に招き、中学生を対象とした陸上クリニックを実施 [R1]
	市内在住のパラアスリートを講師として招き、小中学校で講演会を実施 [R1～]
一宮町	町内小中学校、高校でオリパラ教育を推進 [H29～]

・ **JOCオリンピック教室の開催【県・JOC】 [H28～]**

県とJOCは、平成28年にパートナー都市協定を結び、同年から、協定に基づく連携事業として、県内の公立中学校において中学2年生を対象とした「JOCオリンピック教室」を開催しています。オリンピックが自身の経験を通してオリンピックの価値などを伝える授業で、運動と講義の2コマで構成され、運動が苦手な生徒も参加しやすく、また貴重な経験を生徒が自分ごととして捉え、今後に生かすことができるよう工夫されたプログラムとなっており、令和3年までに計29校で実施されています。

・ **学校給食での東京2020大会応援メニュー【県・千葉市】 [H29～]**

千葉県教育委員会は、他国の食文化や、千葉県の特産物を使った料理・郷土料理に興味関心を広げるよい機会であることから、学校給食を通じて子どもたちが多様な食文化に触れることができるように「オリンピック・パラリンピック給食活用レシピ」を紹介しました。

また、千葉市では、平成29年度から、東京2020大会や幕張メッセで開催される競技にゆかりのある国の料理を、小中学校・特別支援学校の全校で「応援メニュー」として学校給食に取り入れる取組を実施しました。

・「みんなの2020」イラスト・キャッチフレーズ作品募集【県】[R1]

児童・生徒自らが東京2020大会について考えるきっかけとすることを目的として、イラスト・キャッチフレーズの作品募集を実施しました。イラスト部門で129校1,665作品、キャッチフレーズ部門で150校9,118作品の応募があり、令和2年1月に千葉県文化会館で最優秀賞表彰式を開催しました。

## ○大会関連ボランティアへの参加促進

県と関係市町が連携して、都市ボランティアの募集・選考・研修・運営を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により、大会期間中は、現場での活動は実施できませんでしたが、オンラインを活用した千葉の魅力発信や選手等のお見送り活動などに取り組みました。また、次世代を担う若者による活動や大学等におけるボランティア参加促進の取組等が推進されました。

### □都市ボランティアの養成・確保

・東京2020大会に向けたボランティア推進方針の策定【県】[H29]

東京2020大会を契機に、ボランティアの裾野が拡大していくこと、また、当初からレガシーを意識した取り組みが進められていくよう、平成29年7月に「東京2020大会に向けたボランティア推進方針」を策定しました。

・「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成【県・市町村】[H29~R1]

海外からの来訪者とのコミュニケーションスキルを養い、多くの県民が都市ボランティアに興味を持って応募する機運を醸成するため、「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」を県内各地で開催しました。平成29年度から令和元年度までにおよそ2,000人が受講し、言語のみならず、ジェスチャーや表情など、様々な方法でコミュニケーションを図るスキルを習得するとともに、「おもてなしの心」を醸成しました。

・都市ボランティアの募集・選考・研修・運営【県・千葉市・一宮町・成田市・浦安市】[H30~R3]

競技会場となる千葉市と一宮町、また、成田市、浦安市の主要駅や成田空港などを活動場所として、観客等に観光・交通案内などを行う「都市ボランティア」の募集・選考・研修・運営を行いました。研修の実施等に当たっては、東京2020大会のボランティア研修に携わる「日本財団ボランティアサポートセンター」や組織委員会と連携して取り組みました。

大会期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響で、現場での活動は実施できませんでしたが、オンラインを活用した千葉の魅力発信や選手等のお見送り活動などに取り組みました。

〔都市ボランティアに係る主な動き〕

年度	主な動き
H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 募集情報の周知（説明会やボランティアシンポジウムの開催、公的機関・学校・経済団体・企業・郵便局などの協力を得て各地に募集ポスターやリーフレットを掲示・配布）</li> <li>・ 募集（募集人数 3,000 人、応募人数 6,546 人）</li> </ul>
R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書類選考、オリエンテーション・面接（エリアごとに書類選考を行い、都市ボランティアの候補者約 3,000 人を選出）</li> <li>・ 共通研修（オリエンテーション・面接に参加した約 2,600 人を対象に、大会関連情報、街中での案内に必要な視点、千葉の魅力発信に関する情報等を学ぶ研修を行うとともに、障害に関する理解を深める「障害平等研修」を実施）</li> <li>・ 実地研修・エリア別研修（平成 30 年から令和 3 年にかけて、各活動エリアの特性に応じた研修を開催。大会当日の円滑な運営に向けて、交通事業者や組織委員会、都市ボランティア運営拠点との間における情報連携のシミュレーションも行われた。）</li> </ul>
R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市ボランティア同士の「オンライン交流会」、オンライン上での自主的な勉強会活動「みんなの都市ボラ大学 in ちば」</li> <li>・ オンラインの活用など感染症対策に配慮したエリア別研修、リーダーシップ研修、感染症対策動画研修</li> </ul>
R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バーチャルツアー、オンライン・ロボットによる選手等の見送り、おもてなしグッズの配布、広報誌・SNS・動画による情報発信や応援メッセージの拡散、広報誌の翻訳活動</li> </ul>

・ **都市ボランティア体験プログラムの募集・運営【県・千葉市・一宮町・成田市】 [R1～R3]**

都市ボランティアの体験を通して、次世代を担う中高生世代のボランティア人材を育成することを目的に、「都市ボランティア体験プログラム」の参加者を募集しました（500人の定員に対して2,194人が応募）。

新型コロナウイルス感染症の影響で、大会期間中の現場での活動は中止となりましたが、代替となる活動として、学んだことを将来何かの形で役立ててもらいたいことを願い、成田空港内のユニバーサルデザインを学び案内の練習を行うオンラインワークショップを実施しました。

・ **チーム千葉ボランティアネットワークの運営【千葉市】 [H29～]**

都市ボランティアの募集開始前の平成29年7月、東京2020大会を契機としたボランティア活動を一過性で終わらせることのないよう、



ボランティア登録制度「チーム千葉ボランティアネットワーク」を立ち上げました。ボランティア活動をしたい個人と、ボランティアを求める団体とのマッチングシステムとしての機能を提供するほか、ボランティアの基礎知識を紹介する動画や講習会などを実施しました。ボランティア文化が根付いたまちづくりへと発展することを見据えており、登録者数は大会終了時点で1,900人を超えました。

#### □大会ボランティア参加の促進

- ・大会ボランティアの広報協力・参加促進【県・市町村・大学・団体】[H30]  
ホームページでの大会ボランティア関連情報の発信、募集説明会の開催等、組織委員会による大会ボランティア募集に協力しました。

#### □通訳ボランティアの養成・確保

- ・通訳ボランティアの養成【県・市町村】[H27～R1]

東京2020大会に向け、外国語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、ちば国際コンベンションビューローや市町村と連携して、大会関連行事等の機会に活動できる通訳ボランティアの養成に取り組みました。

〔通訳ボランティア養成講座への参加人数〕

775人 (H27～R1)

- ・通訳ボランティアや国際交流ボランティア等の育成【市町村】[H27～]

千葉市では、平成27年度以降、外国人来訪者の受入体制強化のため、通訳ボランティア数の増加と高度な通訳を行える国際交流ボランティア育成を目指して、各種講座を実施し、コミュニティ通訳として活躍できるように基盤づくりを行いました。また、山武市においても、平成30年度から英語ボランティア育成講座を実施するなど、市町村における通訳ボランティア等の育成が進みました。

- ・大学における通訳ボランティアの育成等【神田外語大学・神田外語学院・千葉大学】[H26～]

神田外語大学・神田外語学院において、全国の高校生を対象にした公開講座「通訳ボランティア入門講座」（平成29年度から）を実施したほか、神田外語大学が加盟する全国外大連合主催で「全国外大連合通訳ボランティア育成セミナー」（平成27年度から令和2年度）を実施しました。また、神田外語大学では、2019年ラグビーワールドカップ等において、全国外大連合学生を対象とした通訳ボランティアの実習に取り組みました。

神田外語大学からは、東京2020大会のボランティアに約100人の学生が参加しました。また、千葉大学では、成田空港での案内等のボランティア活動に年間約50人が参加したほか、平成29年度から留学生との文化交流イベントを開催するなど、各大学において学生のボランティア活動への参加や国際理解等が進みました。

・スポーツ大会や国際会議等へのボランティア紹介【ちば国際コンベンションビューロー】[H26～]

千葉2019ワールドテコンドーグランプリ等のスポーツ大会や日本地球惑星科学連合等のMICE関連事業へボランティアを紹介し、実践的な対応力向上を図りました。

□講演会等の開催等による普及・啓発

・ボランティア説明会、講座、講演会、シンポジウムの開催等【県・市町村・大学・団体】[H30～]

ちば国際コンベンションビューローや千葉県社会福祉協議会等による東京2020大会関連ボランティア募集情報の周知協力を通じて、県民の東京2020大会へのボランティアとしての参加促進が図られました。

また、千葉市では、平成30年度から令和元年度、市内中学校及び高校における都市ボランティア公開講座を実施し、ボランティア文化の醸成とレガシー化を図りました。

千葉県社会福祉協議会では、県内大学ボランティアセンター等情報交換会（平成30年度）や大学生等のボランティア・社会貢献活動推進セミナー（平成30年度から令和2年度にかけて延べ3回）、高齢者に向けた地域活動の魅力伝える説明会等（平成30年度から令和元年度にかけて延べ8回）を通じて、大学生や高齢者等の、ボランティア・地域活動への参加促進を図りました。

□県民による様々なボランティア

・高校生など次世代を担う若者による取組【県・大学・団体等】[H26～]

平成26年から、高校生など次世代を担う若者が、独自の発想で、自分たちにできることをボランティアの形として実践する「2020ちばおもてなし隊」に取り組みました。NPO法人が中核団体となり、様々な団体や企業と連携しました。連携した団体の中では、特に大学生の「学生団体おりがみ」が活動に当たり高校生をバックアップしました。活動内容は、各種国際大会における選手の応援・見送り、事前キャンプの語学サポート、災害マップづくり、やさしい日本語のプログラムや特別支援学校生徒との交流など多岐にわたりました。

また、千葉大学では平成27年度から学生ボランティア組織が整備されたほか、様々な団体が、語学などを生かした人材育成や交流プログラムの企画を進めました。

・誰でも参加できるおもてなしの取組【県・団体等】[H29～]

平成29年に立ち上がった任意団体「プロジェクト結」では、高齢者や子ども、障害のある人など、誰でも参加できるおもてなしのプログラム

として、みんなで作成した箸置きを東京2020大会時に訪れる外国人にプレゼントする取組を推進しました。

また、県では、この活動の仕組みを参考に、気軽に参加できる「#ちょいボラ」キャンペーンを立ち上げました。県民などが自主的に作成した「おもてなしグッズ」を集め、東京2020大会時に県内で事前キャンプを実施したチームや成田空港を利用した選手・大会関係者へ配付しました。

## ○国際交流と国際理解の促進

ホストタウンに登録された県及び19市2町を中心に、事前キャンプの受入れ等を通じてホストタウン相手国と交流し、相互理解を深めました。また、オリンピック・パラリンピックを活用した教育が全公立校を含む県内校で実施され、パラリンピックの閉会式では、県内2校の取組がインクルーシブな世界の実現に多大な功績を収めたとして、「AIM POSSIBLE (I'm POSSIBLE) アワード」を受賞しました。さらに、県・関係機関が連携して国際理解セミナー等を開催し、県民や国際交流団体等の国際理解の促進を図りました。

### ・国際交流

#### □姉妹都市交流の推進

##### ・姉妹都市交流等の推進【県・市町村・関係団体】[H26～]

県では、姉妹交流組織「千葉ウイスコンシン協会」が実施する事業等に対する助成を行い、アメリカのウイスコンシン州との交流を促進したほか、ドイツのデュッセルドルフ市とは平成17年から文化・スポーツ・経済等幅広い分野で交流を推進しており、令和元年には同市と姉妹提携しました。また、台湾・桃園市とは平成28年に友好交流協定を結び、文化・スポーツ・教育等様々な分野で交流を推進しています。

また、市川市では、令和元年度から、アメリカのガーデナ市やフランスのイッシー・レ・ムリノー市と市内の小学生が、学校生活や国の文化等を紹介するビデオレターや手紙のやりとりを行っています。平成30年度には、パリを中心に開催された「ジャポニスム2018」にて、イッシー・レ・ムリノー市民の参加・協力を得ながら、神輿パレードを行い、行徳神輿を広く周知しました。鴨川市では、令和元年、アメリカのマニトワック市の高校生が来訪し、ホームステイなどで市民と親交を深めました。

#### □ホストタウン制度を活用した国際交流の推進

##### ・ホストタウンの推進【県・市町村】[H27～]

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進

本部事務局は、東京2020大会を契機に、全国の地方公共団体と大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を通じ、スポーツの振興、教育文化の向上、共生社会の実現、地域活性化等に資する取組を行う地方公共団体を、「ホストタウン」として登録しました。県内では、従来からの国際交流を契機とした事前キャンプの誘致や千葉県スポーツコンシェルジュの取組などにより、県及び21市町が、21か国・地域のホストタウンとして登録されました（パラリンピアンを受入れを契機に共生社会の実現に向けた取組を行う「共生社会ホストタウン」3市を含む）。

〔県内のホストタウンと東京2020大会事前キャンプ受入れ〕

※ホストタウン登録

自治体	相手国・地域		競技・種目	※
県	オランダ	オリンピック	競泳、アーティスティックスイミング、水球女子、陸上	○
		パラリンピック	陸上	
	アメリカ	オリンピック	水球女子	
銚子市	台湾	—	—	○
市川市	ブルガリア	オリンピック	新体操	○
船橋市	アメリカ	オリンピック	体操男子	○
館山市	オランダ	オリンピック	マラソンスイミング男子、トライアスロン	○
木更津市	ナイジェリア	オリンピック	陸上、カヌー、ボート、卓球、テコンドー、レスリング	○
		パラリンピック	陸上、パワーリフティング、ボート、卓球	
松戸市	ドミニカ共和国	オリンピック	テコンドー	○
	ルーマニア	オリンピック	陸上	○
成田市	カナダ	オリンピック	サッカー女子	
	オランダ	オリンピック	3×3バスケットボール男子	
	オーストラリア	オリンピック	陸上	
	スロベニア	オリンピック	陸上	
	アイルランド	パラリンピック	アーチェリー、陸上、パワーリフティング、水泳、卓球	○
佐倉市	ボツワナ	—	—	○
	ペルー	—	—	○
	ドイツ	オリンピック	レスリング女子	
佐倉市 成田市 印西市	アメリカ	—	—	○

旭市	ドイツ	—	—	○
	ザンビア	—	—	○
柏市	イギリス	パラリンピック	車いすテニス	○
市原市	オーストラリア	オリンピック	サッカー男子	
	イスラエル	オリンピック	陸上、新体操	
市原市 君津市	ニュージーランド	—	—	○
流山市	オランダ	オリンピック	ハンドボール女子、卓球	○
		パラリンピック	卓球	
我孫子市	スロベニア	オリンピック	柔道女子、テコンドー男子	○
鴨川市	オランダ	オリンピック	サッカー女子	
浦安市	イギリス	—	—	○
	スロバキア	オリンピック	陸上	○
	フランス	—	—	○
	オランダ	オリンピック	アーチェリー	○
印西市	アメリカ	オリンピック	体操女子	
	オランダ	オリンピック	体操	
	アイルランド	オリンピック	体操男子	
白井市	ブルキナファソ	—	—	○
香取市	スロバキア	オリンピック	カヌー	
山武市	スリランカ	—	—	○
いすみ市	フランス	—	—	○
横芝光町	ベリーズ	—	—	○
長柄町	ロシア	—	—	○

・ホストタウン相手国等との国際交流の推進【県・市町村】[H27～]

ホストタウン関連展示やイベントの実施などにより、ホストタウン相手国に係る理解を促進するとともに機運醸成を図りました。また、様々な国際大会や東京2020大会のキャンプ受入れに際して、応援メッセージや横断幕、歓迎会などによるおもてなしを行うとともに、児童・生徒とホストタウン相手国選手との交流会を開催するなど、国際交流を推進しました。

[ホストタウン相手国等との国際交流実績]

市町村	取組内容
県×オランダ	令和元年5月のIAAF世界リレー2019横浜大会や同年6月から7月の第18回世界水泳選手権大会に向けた事前キャンプでは、オランダ代表チームの公開練習や県内高校生を対象とした水泳クリニックが行われました。

	<p>また、平成 30 年 11 月に在日オランダ商工会議所前会頭を講師に迎えて講演会を行ったほか、平成 31 年 3 月に「オランダを知ろう！ホストタウンイベント」を開催しました。</p> <p>令和 2 年及び令和 3 年、駐日オランダ大使館からチューリップの球根が贈られ、佐倉市職員や佐倉市観光協会、佐倉日蘭協会の協力のもと、佐倉ふるさと広場に植え付けを行いました。</p> <p>東京 2020 大会では、水泳、オリンピック陸上、パラリンピック陸上代表チームの事前キャンプを受け入れました。事前キャンプ期間中に公開練習を実施したほか、県内の企業・団体等から「ちば・オランダサポーター」を募集し、記念品の贈呈やオランダ国歌の演奏で代表チームを迎えました。</p>
県×アメリカ	<p>オランダから、水球女子代表チームの事前キャンプをアメリカ水球女子代表チームと合同で実施したいとの依頼があり、両国との調整の結果、受入れを決定しました。事前キャンプ期間中には、横断幕の掲出や記念品の贈呈などで、歓迎と応援の気持ちを伝えました。</p>
銚子市×台湾	<p>平成 29 年東アジアカップ、平成 30 年世界選手権に出場する台湾のソフトボール女子代表チームの事前キャンプを受け入れ、地元中学生への技術指導やお茶体験などの市民交流を行ったことをきっかけに、平成 30 年 10 月、台湾のホストタウンとして登録されました。</p> <p>その後、スポーツ交流に加え、台湾の子どもたちが銚子を訪ねて海洋環境保全をテーマとする人形劇を行うなど多方面で交流を続けました。同チームは、東京 2020 大会の出場権を得ることはできませんでしたが、台湾ソフトボール協会理事長からは感謝の言葉が届けられました。</p> <p>また、令和 3 年 6 月には、東京 2020 大会後にも一層交流が深まることを期待し、台湾から市内小学校の給食向けに台湾バナナ 500 本が贈られました。</p>
市川市 ×ブルガリア	<p>令和元年 7 月、ブルガリア新体操代表チームの選手が市内の小学校を訪問し、児童たちと交流をした後、市内の新体操チームとの合同演技披露会を開催しました。同年 11 月のいちかわ市民まつりでは、市民から応援メッセージを寄せてもらい、ブルガリア新体操代表チームへ届けました。</p> <p>大会終了後の令和 3 年 8 月には、練習会場となった国府台市民体育館でオンライン交流会を実施し、市内の小中学校が作成した応援のぼり旗と児童・生徒が育てた応援の花を国府台市民体育館に飾り、選手たちへ思いを伝えました。</p>

船橋市×アメリカ	<p>平成 30 年 6 月にアメリカ体操男子代表チームのトレーニングキャンプを受け入れ、歓迎レセプションや東京 2020 大会に向けた事前キャンプ協定書調印式、練習の一般公開、小学校での給食体験といった交流プログラムを実施しました。</p> <p>また、アメリカを相手国とする全国のホストタウン自治体が連携して「アメリカ合衆国でつながる！ホストタウン連携プロジェクト」を発足し、令和 3 年、アメリカホストタウンオンラインシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、応援リレー動画やモザイクアートなどのコンテンツをアメリカの選手・大会関係者へ届けたほか、市内の学校の生徒がアメリカ国歌斉唱を披露するなどしました。</p> <p>東京 2020 大会の事前キャンプでは、選手が市立船橋高校で練習している様子をオンライン中継した後、市立七林小学校の児童が英語でメッセージを送り、選手からコメントをもらう形でオンライン交流会を実施したほか、練習が休みの日にはボッチャ体験会を開催しました。</p> <p>大会後、アメリカ体操男子代表チームから感謝の言葉と動画が贈られました。</p>
館山市×オランダ	<p>オランダ大使館からチューリップの球根が送られたことをきっかけに花の交流が始まり、館山市はチューリップを市の 7 番目のイメージフラワーに加えました。館山市からは市内の児童・生徒が育てたひまわりの種を送り、令和 3 年の夏には、オランダ大使館の庭で花を咲かせました。</p> <p>東京 2020 大会では、令和 3 年 7 月に、オランダ、南アフリカのトライアスロンとオランダのマラソンスイミング男子代表チームを受け入れ、最終日には、バスで出発する選手たちを市民と市職員が手作りの旗を振って見送りました。</p> <p>大会後には、オランダ代表チームのヘッドコーチから感謝のコメントが寄せられました。</p>
木更津市 ×ナイジェリア	<p>令和元年 8 月、U-12 ジュニアサッカーワールドチャレンジ 2019 に出場するナイジェリアチームと地元のサッカークラブとの交流試合等を実施しました。</p> <p>東京 2020 大会では、ナイジェリア代表チームの到着時に市内の小学生が作った横断幕やナイジェリア国旗を振って出迎えたほか、ホテルや練習会場には、小中学生が作成した応援メッセージやおもてなしプランター、横断幕を設置しました。また、市内の小中学生を対象に陸上競技の公開練習を実施しました。オリンピックの開会式では、選手たちは小学生が作成した手旗を振って入場しました。</p>

<p>松戸市 ×ドミニカ共和国、 ルーマニア</p>	<p>平成 27 年 9 月、外務省との共催「駐日外交団地方視察ツアー」で松戸市を訪れたことを契機に、平成 30 年 8 月にドミニカ共和国の 3 競技、令和 2 年 1 月には同国の体操競技連盟と事前キャンプ実施に係る覚書を締結し、松戸市を訪れた各連盟の代表が、市民との交流を通して松戸の文化を体験しました。</p> <p>また、平成 28 年 1 月、七草マラソン大会にルーマニアの陸上競技選手が参加したことを契機に、平成 29 年 9 月に事前キャンプ実施に係る覚書を締結しました。令和元年 5 月には、「セイコーゴールドデングランプリ陸上 2019 大阪」の開催に先立ってルーマニア陸上代表チームが松戸市で事前キャンプを実施し、高校生との合同練習、市立松戸高校への訪問、壮行セレモニーなどの交流を行いました。</p> <p>平成 28 年 12 月にドミニカ共和国、ルーマニアのホストタウンとして登録されてから、市はホストタウンとしての機運を高めるため、市内で行われるイベントで PR を実施しました。平成 29 年 12 月には、ルーマニアのブラショフ・フィルハーモニー交響楽団によるコンサートを開催しました。</p> <p>令和 3 年 7 月には、ドミニカ共和国代表チームとのオンライン交流会や、ルーマニア代表チームとの交流イベント「学生によるルーマニア選手団応援～未来につながるエール～」等を開催し、市内中学校と高校の書道部、和太鼓部、吹奏楽部、チアリーディング部によるパフォーマンスでエールを送るなどしました。</p>
<p>成田市 ×アイルランド、 カナダ、 オランダ、 オーストラリア、 スロベニア</p>	<p>平成 30 年 10 月から、アイルランドパラ水泳代表チームのトレーニングキャンプを受け入れ、学校訪問や水泳教室、日本の文化体験などによる交流を実施しました。また、アイルランド大使館の副代表などをお招きした共生社会実現のための講演会や、パラスポーツの体験会、日本パラリンピック委員会副委員長の講演会、リアルとオンラインを活用した音楽を通じた交流イベント「PARA Beats!」を開催しました。</p> <p>令和 3 年 8 月、東京 2020 パラリンピックにおけるアイルランド代表チームが中台運動公園陸上競技場・体育館・水泳プールで事前キャンプを実施し、公開練習を行ったほか、激励会では、公津の杜中学校吹奏楽部による演奏などが行われました。</p> <p>また、成田市ではカナダのサッカー女子、オランダの 3×3 バスケットボール男子、オーストラリアとスロベニアの陸上競技の事前キャンプも受け入れ、それぞれ公開練習を実施しました。</p>



<p>佐倉市 ×ボツワナ、 ペルー、 ドイツ</p>	<p>平成 30 年 7 月に第 16 回 WBSC 世界女子ソフトボール選手権大会に出場するボツワナ代表チームの事前キャンプを受け入れ、小中学生等との交流を行ったことを契機に、ボツワナソフトボール協会と事前キャンプや大会期間中の市民との交流について合意しました。また、市の花火大会や観光施設への来訪など、かねてより交流を継続しているペルーと大会後にも交流することについて合意し、平成 31 年 4 月、両国のホストタウンとして登録されました。</p> <p>令和元年 8 月には、ボツワナのソフトボール選手と佐倉市内中学校ソフトボール部の生徒が交流し、同年に佐倉市が台風や豪雨で被害を受けた際には、ボツワナ駐日大使がお見舞いに訪れました。令和 3 年 7 月には、ドイツレスリング女子代表チームが佐倉市民体育館で東京 2020 大会に向けた事前キャンプを行いました。</p>
<p>佐倉市・成田市・ 印西市 ×アメリカ</p>	<p>平成 28 年 12 月、佐倉市・成田市・印西市の 3 市が連名でホストタウン登録されました。ホストタウン登録を契機に、3 市では小中学生を対象とした陸上クリニックを開催しました。</p> <p>成田市では、平成 29 年度から令和元年度までアメリカ陸上競技連盟のコーチと選手を招き、中台運動公園等での小中学生対象の陸上クリニックに加えて、高校生との交流、指導者向けクリニック、成田山新勝寺における文化体験などを行いました。また、同じホストタウンである佐倉市と印西市や、復興ありがとうホストタウンでアメリカと交流している岩手県大船渡市にも声をかけ、陸上クリニックに参加してもらうことにより、交流の輪を広げました。加えて、アメリカ大使館の協力のもとアメリカ空軍太平洋音楽隊による市民向けコンサートを開催するなど、文化的な交流も実施しました。</p> <p>佐倉市と印西市では、平成 31 年 2 月にアメリカ陸上競技連盟のコーチを招き、岩名運動公園陸上競技場と順天堂大学さくらキャンパス陸上競技場で市内の小学 5、6 年生と中学生を対象とした陸上クリニックを開催しました。</p>
<p>旭市×ドイツ、 ザンビア</p>	<p>JICA（国際協力機構）千葉デスクと連携して作成した計 40 本のザンビア紹介動画を、市内の小中学校の給食の時間に放送したほか、市の公式 YouTube でも配信し、ザンビアへの理解を深めました。ドイツ・ザンビア両国とも新型コロナウイルス感染症の影響により事前キャンプを実施できませんでしたが、ドイツ卓球男子代表チームからはメッセージ動画が届けられました。また、ザンビア代表チームへは、市から同国大使館を通じて子どもたちの応援メッセージや記念品などを届けました。</p>

<p>柏市×イギリス</p>	<p>市民体験型イベントによるイギリス代表選手との交流や広報誌への掲載などにより、市内の機運醸成に努めました。</p> <p>令和3年8月、イギリス車いすテニス代表チームが東京2020大会の事前キャンプを実施し、柏市では、市立田中中学校の生徒が心をこめて作ったメッセージカードをパネル化し、選手たちにエールを送りました。</p>
<p>市原市 ×オーストラリア、 イスラエル</p>	<p>令和3年7月、オーストラリアの男子サッカー代表チームが市原スポレクパークで東京2020大会の事前キャンプを実施しました。また、同月、イスラエルの陸上代表チームが事前キャンプを実施し、オリンピック開会式で旗手を務めた選手などがゼットエーオリプスタジアム（市原市臨海競技場）で公開練習を行い、記念撮影を行うなどの交流を楽しみました。また、イスラエルの新体操女子個人総合代表チームが7月から8月にゼットエー武道場（市原市中央武道館）で調整練習を実施し、市原小学校・市原中学校の児童・生徒がメッセージ入りの国旗を贈りました。</p>
<p>市原市・君津市× ニュージーランド</p>	<p>令和元年8月、ソフトボール女子代表チームのトレーニングキャンプの実施に先駆けて、「いちほら×ニュージーランドホストタウンフェア2019」を開催し、ホストタウンのPRや市民による応援メッセージアート作成（ふせんアート）、マザー牧場のブース出展、市内ダンスチーム「MATARI(マタリイ)」によるハカ演舞などが行われました。</p> <p>令和3年7月にはゼットエーオリプスタジアムにて、ニュージーランド代表チームと市原市で事前キャンプ中のオーストラリア代表チームによるサッカーフレンドリーマッチを開催し、子どもを中心に多くの市民が観戦しました。</p>
<p>流山市×オランダ</p>	<p>平成30年9月の2018女子バレーボール世界選手権（世界バレー）に向けた事前キャンプでは、歓迎セレモニーやオランダ代表チームによる市内中学校バレーボール部員を対象としたクリニックなどを行いました。また、平成31年2月の国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会に向けた事前キャンプでは、日本代表チームとの親善試合や市内小中学校の児童・生徒が制作した応援幕の贈呈、車いすバスケットボール体験会などの交流を実施しました。</p> <p>東京2020大会では、ハンドボール女子と卓球代表チームの事前キャンプを受け入れ、キッコーマンアリーナで歓迎式典を開催し、市内小中学校の児童・生徒が作成した応援幕・記念品を贈呈しました。また、オランダハンドボール女子代表チームはロシアオリンピック委員会の女子代表チームとの練習試合を実施し、市民など約300人が観覧したほか、オランダ卓球代表選手は市内中学校の卓球部員とのオンライン交流を実施しました。</p>

<p>我孫子市 ×スロベニア</p>	<p>東京 2020 大会の事前キャンプでは、スロベニア国旗や横断幕で選手を歓迎し、市作成の応援動画の鑑賞会などを行いました。また、競技終了後は、市民体育館で柔道代表チームと市内の小中学校、高校の児童・生徒との交流会を実施しました。</p>
<p>鴨川市×オランダ</p>	<p>令和 3 年 7 月に鴨川市総合運動施設で事前キャンプが行われ、メディア向け公開練習のほか、激励会と公開練習が行われ、約 250 人が参加しました。交流セレモニーでは、市内の小中学生が折ったオレンジの千羽鶴と、鴨川伝統工芸「萬祝染」のマスクを贈ったほか、地元のサッカー協会から、子どもたちが応援メッセージを書いた大きなフラッグとスタンドからのオランダ語でのエールが贈られました。</p>
<p>浦安市 ×イギリス、 スロバキア、 フランス、 オランダ</p>	<p>平成 29 年 8 月、イギリス車いすバスケットボール代表チームがトレーニングキャンプを実施し、市内中学生との競技体験交流会や日本代表との公開練習試合を開催しました。</p> <p>平成 30 年 7 月には、オランダアーチェリー代表チームがトレーニングキャンプを実施し、市アーチェリー協会向けのクリニックや市弓道連盟によるオランダ選手の弓道体験が催されました。</p> <p>令和元年 9 月から 10 月には、フランスカヌー代表チームがトレーニングキャンプを実施し、市カヌー協会や児童育成クラブとの交流を行いました。</p> <p>令和 2 年 2 月には、イギリス車いすバスケットボール女子代表チームがトレーニングキャンプを実施し、日本代表との公開練習試合を開催しほたか、イギリス選手の日本文化体験や市内小学生との競技体験交流会などが行われました</p> <p>東京 2020 大会では、令和 3 年 7 月、オランダアーチェリー代表チームが市運動公園アーチェリー場で練習したほか、スロバキア陸上代表チームが明海大学で練習を行い、市内小学生 89 人及び市内児童育成クラブ児童 30 人とオンライン交流を行いました。フランスカヌー代表チームは事前キャンプを実施しませんでした。市内高校生がオンラインで選手へ取材を実施したほか、市内中学生がパラカヌー選手とオンラインで交流を深めました。</p>

<p>印西市 ×アメリカ、 オランダ、 アイルランド</p>	<p>令和3年7月、順天堂大学と連携し、東京2020大会のアメリカ体操女子代表チーム、オランダ体操男子・女子代表チーム、アイルランド体操男子代表チームの事前キャンプを受け入れました。受入れに当たっては、市内の小中学生及び順天堂大学体操競技部の学生が寄せ書きメッセージ入りののぼり旗を作成し、体操競技場や宿泊施設に飾って選手たちを歓迎しました。</p>
<p>白井市 ×ブルキナファソ</p>	<p>平成16年から、市内にある認定NPO法人日本ブルキナファソ友好協会の協力のもと、白井第一小学校で西アフリカの飢餓対策のために開発された「ネリカ米」の栽培体験を開始しました。例年11月ごろに開催するネリカ米収穫祭には駐日大使などを来賓として招待し、交流を深めています。新型コロナウイルス感染症の影響により、大会後の交流は中止になったものの、ネリカ米の栽培をはじめとした交流を続けていきます。</p>
<p>香取市 ×スロバキア</p>	<p>令和3年7月、事前キャンプのためスロバキア代表チームが来日し、書道パフォーマンスなどの歓迎セレモニーを行ったほか、香取市から手ぬぐいや香取神宮のお守り、地元産の野菜や果物などを贈り、代表チームからはサイン入りユニフォームが贈呈されました。また、カヌー交流として「小見川海洋クラブ」の選手たちとスロバキアの選手との100m競漕などを実施しました。大会後、代表チームからは感謝の言葉が贈られました。</p>
<p>山武市 ×スリランカ</p>	<p>スリランカのオリンピックを招いて講演会や青少年との文化交流を行い、市内の中学生と高校生をスリランカに派遣するなど、交流を深めました。東京2020大会では、市民が作成した応援メッセージが描かれたうちわ180枚と応援旗を選手村へ送り、スリランカ代表チームを応援したほか、日本国内の学校に通いながら体操のオリンピック代表選手となったミルカ・ゲハーニ選手への激励会、やり投のパラリンピック代表選手としてスリランカ初となる金メダルを獲得したディネーシュ・プリヤンタ選手たちとのメダル獲得祝勝会を開催しました。</p>
<p>いすみ市 ×フランス</p>	<p>東京2020大会では、市の特産物であるイセエビを使った料理や地元で生産された梨、日本食の振る舞いなど、食によるおもてなしで代表チームとの交流を図りました。また、宿泊施設では代表チーム全員参加による卓球大会を開くなど、市の職員やホテルの従業員が参加選手たちをもてなしました。大会後もサーフィンを通じた交流、支援等を継続する方針であり、次回大会であるパリ大会ではパラリンピックサーフィンが正式採用されるよう応援しています。</p>

<p>横芝光町 ×ベリーズ</p>	<p>令和元年11月には、ベリーズからスチールパン・オーケストラを招き、演奏会や小中学校における交流会を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会の事前キャンプを行うことはできませんでしたが、オンライン交流会において、町内すべての保育園・幼稚園、小中学校、高校が参加して作成された応援動画を披露するなど、ベリーズ代表チームへエールを送りました。大会期間中には、応援に対する感謝の意を込め、ベリーズ代表チーム全員のサインが入ったポロシャツが横芝光町に贈られました。</p>
<p>長柄町×ロシア</p>	<p>令和元年12月、千葉大学や日本フェンシング協会の協力のもと、交流事業を実施し、小中学校の給食でロシア料理が提供され、ロシア人留学生との文化交流会や、小学生全員が体験用防具を身に着けてのフェンシング体験会が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会の事前キャンプを行うことはできませんでしたが、小中学校の児童・生徒による手書きのメッセージ入り横断幕や写真、手ぬぐい、扇子等の応援グッズをオリンピック選手村へ送り、ロシアオリンピック委員会のフェンシング代表チームを応援しました。</p>
<p>フランスでつながる！ホストタウン連携プロジェクトの取組</p>	<p>浦安市やいすみ市をはじめ、全国で34自治体あるフランスのホストタウンは、フランスの選手や市民との交流が2024年のパリ大会以降にも引き継がれていくよう、連携してプロジェクトを実施しました。令和3年2月には、フランスとの親睦の様子を4コマ漫画で紹介する「みんなで紡ぐフランス・ホストタウン物語」を日本語とフランス語で作成し、ウェブサイトなどで発信しました。また、「読売中高生新聞」（令和3年9月24日号）では、浦安市、いすみ市、兵庫県神戸市、姫路市の高校生がレポーターとして、フランス代表選手やフランスにゆかりのある人などへインタビューを実施し、それぞれのおもてなしや交流について紹介したほか、フランスの高校生とオンライン交流会を行い、パリ大会を盛り上げるためのアイデアを出し合いました。</p>

**・ 青少年の国際理解**

**□ 国際理解教育の推進**

- ・ オリンピック・パラリンピック教育の推進【小中学校・高校・特別支援学校】[H29～] 再掲

全公立校を含む県内学校において、取組方針において整理された「おもてなし」「心のバリアフリー」「スポーツ」「グローバル」の4つのプロジェクトに係る様々な取組が進められました。パラリンピックの閉会式では、県内2校の取組がインクルーシブな世界の実現に多大な功績を収めたとして、「アイムポッシブル (I' mPOSSIBLE) アワード」で開催国最優秀賞（木更津市立清見台小学校）及び開催国特別賞（千葉県立東金特別支援学校）を受賞しました。

・ **学校給食での東京2020大会応援メニュー【県・千葉市】[H29～] 再掲**

千葉県教育委員会は、他国の食文化や、千葉県の特産物を使った料理・郷土料理に興味関心を広げるよい機会であることから、学校給食を通じて子どもたちが多様な食文化に触れることができるように「オリンピック・パラリンピック給食活用レシピ」を紹介しています。

また、千葉市では、平成29年度から、東京2020大会や幕張メッセで開催される競技にゆかりのある国の料理を、小中学校・特別支援学校の全校で「応援メニュー」として学校給食に取り入れる取組を実施しました。

□ **県民等の国際理解の促進**

・ **国際理解セミナー等の開催【県・ちば国際コンベンションビューロー】[H26～]**

「国際理解セミナー」として、県民・民間国際交流団体等を対象に、国際理解の促進、グローバル人材の育成、国際交流・協力活動の促進等に役立つ講座を年1回開催しました。また、「国際フェスタCHIBA」を年1回開催し、国際交流や国際協力、在住外国人支援などを行う団体・グループによる活動紹介や雑貨、フェアトレード品、軽食の販売等を行いました。さらに、市町村、市町村国際交流協会、NPO・NGO等県内の関係団体が参加し、地域における交流・協働事例等の紹介や分科会による意見交換等を行う「国際交流・協力等ネットワーク会議」を年1回開催しました。

## 戦略9 戦略的な千葉の魅力発信

戦略9「戦略的な千葉の魅力発信」においては、近年の訪日外国人の増加を受けて、東京2020大会開催時には観光客が更に増加することを見越し、成田空港により国内外の多くの都市と直結している本県の利点を生かし、全世界に向けて千葉の魅力を発信してまいりました。

魅力発信に当たっては、海外を意識し、成田空港のデジタルサイネージや国際線旅客機内、インターネット等でPR動画を配信したほか、県内開催競技に係るプレイベントや事前キャンプの場を活用し、千葉の魅力を発信しました。大会時には「Tokyo Tokyo ALL JAPAN COLLECTION」に出展し、ノベルティの配布等を通して千葉の魅力を発信したほか、メディア宿泊ホテルや競技会場において県産品を提供するなど、海外メディアに向けた情報発信を行いました。

また、グリーン・ブルーツーリズムの推進や、ちば文化資産・日本遺産（北総四都市江戸紀行）の活用など、本県の多様な魅力の掘り起こしを進めました。

さらに、海外におけるプロモーション活動を推進し、知事によるトップセールスやアジア各国での現地旅行博への出展、海外旅行会社による県内団体ツアーへの支援なども行いました。

### <主な取組実績>

#### ○全国、世界への幅広い情報発信

ツイッター、インスタグラムなどのSNSの活用により発信力を強化したほか、「チーバくん大使」などの取組により、海外への情報発信を進めました。また、東京2020大会時にはプレスセンター等でのPRを行い、メディアを意識した情報発信も推進しました。このほか、各市町村においては、事前キャンプやイベントなど様々な機会を捉え、広く国内外に向けた魅力発信を行いました。

#### □新たな発信手法の開拓による発信力の強化【県】

##### ・SNSの活用【県】[H26～]

チーバくんの発信力を生かし、ツイッター等により千葉県魅力を発信しました。また、台湾、タイ、マレーシア、シンガポールから大学生やメディアを招請し、SNSを活用して本県観光の魅力を母国に向けて発信してもらったほか、県内留学生等を「チーバくん大使」に任命し、ブログやフェイスブック等を通じて母語での情報発信を実施しました。さらに、

「あなたのラブちば教えてキャンペーン」では、投稿していただいた写真やコメントを、キャンペーンサイトやSNSを通じて発信しました。大会期間中には、県民が自宅で大会を楽しめるよう、県の公式ツイッターで千葉県にゆかりのある出場選手などの情報を日々発信するとともに、競技の日程や結果を県のホームページでお知らせするなど、県全体で選手を後押しする機運をつくれるように取り組みました。

#### □海外に向けた情報発信

#### □国内に向けた情報発信

##### ・千葉県の魅力を発信する動画の制作・放映【県・成田国際空港(株)】[H27～]

東京2020大会を見据え、キャンプ誘致や外国人観光客の増加につなげるため、千葉県の魅力をアピールし、イメージアップを図る動画を制作しました。動画はYouTubeの「千葉県公式PRチャンネル」において配信したほか、成田空港のデジタルサイネージや国際線旅客機内等で放映し、千葉の魅力を世界に向けて発信しました。

##### ・メディアに向けた情報発信【県】[R3]

東京都メディアセンターで、県産ニンジンを使用したパンや、房州びわゼリーの提供、県産農林水産物のPRリーフレット等の配布を実施したほか、幕張メッセ会場のプレスセンターでは、県産ブルーベリーを提供しました。また、メディアや大会関係者が多数宿泊する海浜幕張エリアや釣ヶ崎海岸周辺のホテルで、県産農林水産物を使用した朝食メニューを提供しました。

このほか、大会期間に併せて都内で開催された「Tokyo Tokyo ALL JAPAN COLLECTION」では、バナーの展示、パンフレット・ノベルティの配布等を通じて、海外のメディア等に本県の魅力を発信しました。

##### ・訪日外国人観光客誘致キャンペーンの実施【県】[H29～]

海外の旅行会社が催行する県内の宿泊を伴う団体ツアーのバス料金に対する支援を実施し、中国、台湾、マレーシアなどからのツアー実施を促進しました。

##### ・県内宿泊施設へのパンフレットラック設置【県】[R3]

東京2020大会期間中、競技会場周辺の県内宿泊施設57施設にパンフレットラックを設置し、観光パンフレット等の配架を行いました。

##### ・JR京葉線の交通広告を活用した観光プロモーション【県】[R3]

東京2020大会期間中、JR京葉線において、車体ラッピング広告及び列車内でのCM放映を行いました。

##### ・各市町村による魅力発信に関する取組【市町村】[H26～]

県内各市町村においても、事前キャンプやイベントなど様々な機会を捉えて効果的な魅力発信を行ったほか、パンフレットやホームページ等の多言語化を行うなど、広く国内外に向けた情報発信を推進しました。



[各市町村による魅力発信の主な取組]

市町村	取組内容
千葉市	加曽利貝塚博物館の常設展示室について、海外からの来訪者増加に備え、英語表記を追加 [R2]
船橋市	市の魅力を紹介する HP を 6 言語対応としたほか、リーフレットを 16 言語に対応させ、市内観光施設や出張所等で配布するなど、外国人に向けた情報発信を実施
	アメリカホストタウン 12 市合同の連携事業として、地域紹介動画及びギフトボックスを選手団へ贈呈
木更津市	企業のノウハウ等を活用しながら、国内外に対してブルーベリーや「つりアサリ」などの市農水産物のブランド定着・流通促進を図った。
松戸市	「まつどやさしい暮らしラボ」(ウェブサイト)による市民目線の魅力発信を実施
市原市	ニュージーランドソフトボール女子代表チームやオークランドユナイテッド FC アカデミー来訪時に、君津市と連携して観光体験を実施 [H29～H30]
	市内在住のニュージーランド人写真家による里山風景の写真展を実施したほか、市紹介動画を制作
	ホストタウン相手国であるニュージーランドの住民に向けたオンラインツアーを実施 [R3]
鴨川市	市内総合運動施設の特設コースで自転車ロードレースを開催し、市の魅力や競技を広く PR した。[R1]
	外国人に向けたパンフレットの更新やトラベルマートへの参加、空港等における観光プロモーションを随時実施し、魅力発信・インバウンド集客を推進
	オランダサッカー女子代表チームキャンプ受入れを契機として、オランダサッカー協会公式 SNS や選手・スタッフの SNS でキャンプ地が紹介されたほか、オランダ国営放送の人気番組の取材・放映もあり、国内外に向けて情報発信できた。
	スポーツコミッション「(一社) ウェルネススポーツ鴨川」を設立するなど、スポーツアクティビティを地域の魅力とすべく活動を推進
君津市	共にニュージーランドのホストタウンとなった市原市と連携し、市内の観光地やニュージーランドの景勝地を PR するフレーム切手を発行 [R3]
白井市	外務省及びブルキナファソ国営放送と連携し、ホストタウンとしての白井市の PR インタビュー及びブルキナファソへの応援メッセージを作成し、ブルキナファソにて放映を行った。また、外務省 Facebook にて掲載を行った。

芝山町	既存の英語版ガイドブックに新たな観光情報等を追加・更新したほか、増刷を実施
	町 HP 更改と併せ、8 か国語で対応可能なシティープロモーションサイトを構築したほか、SNS と連携した情報発信を実施
一宮町	サーフィン PR 動画を作成し、各種イベントで放映したほか、広報誌、ホームページ、SNS 等も活用し、町の魅力を発信
	国際交流員による英語版 SNS により外国人への魅力発信を推進

## □マスコットキャラクター「チーバくん」によるPR

### ・SNSの活用【県】[H26～]再掲

チーバくんの発信力を生かし、ツイッター等により千葉県魅力を発信しました。また、台湾、タイ、マレーシア、シンガポールから大学生やメディアを招請し、SNSを活用して本県観光の魅力を母国に向けて発信してもらったほか、県内留学生等を「チーバくん大使」に任命し、ブログやフェイスブック等を通じて母語での情報発信を実施しました。さらに、「あなたのラブちば教えてキャンペーン」では、投稿していただいた写真やコメントを、キャンペーンサイトやSNSを通じて発信しました。大会期間中には、県民が自宅で大会を楽しめるよう、県の公式ツイッターで千葉県にゆかりのある出場選手などの情報を日々発信するとともに、競技の日程や結果を県のホームページでお知らせするなど、県全体で選手を後押しする機運をつくれるように取り組みました。

### ・スポーツを応援するチーバくんを活用した機運醸成の取組【県・企業・経済団体等】[H30～]戦略8再掲

県では、平成31年1月、スポーツをオール千葉で応援する機運を一層高めるため、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」の新しいデザインとなる「スポーツを応援するチーバくん」を発表しました。これを受けて、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」は、同年3月のオリンピック500日前イベントを契機として、千葉県内を「スポーツを応援するチーバくん」と県内開催競技のチーバくんをいっぱいにする運動を推進し、その一環として、ステッカーや卓上のぼりを制作し、企業の店舗やオフィス、社用車などに展開しました。

また、同年7月には、開催1年前に合わせて、東京2020大会エンブレムとスポーツを応援するチーバくんのデザインを活用したバナーを千葉駅周辺の商店街に掲出するなど、経済界や行政などが連携して一体感のある取組が展開されました。

## ○千葉県ならではの新たな魅力の発見・磨き上げ・発信

観光地としての新たな魅力のアピールとしてグリーン・ブルーツーリズムを推進するため、関係者のスキルアップやノウハウの共有などを進め、県の交流人口の拡大を図りました。

### □新しい千葉の魅力の再発見

#### □観光地としての新たな魅力のアピール

##### ・グリーン・ブルーツーリズムの推進【県・事業者】[H26～] 戦略5再掲

農林漁業体験や農家民宿の受入者や地域に対し、教育旅行や外国人観光客などの対応方法やマーケティングの基礎的な考え方の習得に向けたスキルアップ研修会を実施したほか、受入施設のネットワーク化を図るための交流会の開催や農泊事例集の作成・配布を行い、関係事業者間の情報共有やノウハウの蓄積を図りました。このほか、県内直売所と連携したフェアの開催や在住外国人・日本人インフルエンサーを招待したいちごツアーを実施するなど、交流人口の拡大を図りました。

#### □県産農林水産物の魅力発信

##### ・SNSやホームページを活用した県産農林水産物の魅力発信【県】[H28～]

県産農林水産物やそれをPRするためのイベント等の情報について、随時ツイッターで発信しました。また、インスタグラムでは、県の特産品である落花生について、生育過程等を日記形式で紹介しました。

##### ・「ちばの大地と海の恵み 産地視察会&商談会」の開催【県】[H30～R1]

東京2020大会の開催をきっかけに、県産農林水産物をPRするための産地視察会及び商談会を開催し、千葉ブランド水産物である江戸前船橋瞬めすずきや三番瀬ホンビノス貝、乳製品やすいか等の産地視察会などを実施しました。

##### ・「みんなで作ろうビクトリーブーケ体験教室」の開催【県】[R1]

1年前カウントダウンイベントの一環として、イオンモール幕張新都心で「みんなで作ろうビクトリーブーケ体験教室」を開催し、館山市、南房総市、芝山町等を主な産地とするひまわり（全国第2位、令和2年産）などを用いたブーケづくり体験を行い、千葉県の花きをPRしました。

## ○郷土の歴史や文化の発信

「ちば文化資産」を選定し、郷土の歴史や文化に改めて光を当て、多様で魅力的な文化資源を有する本県の魅力として発信しました。また、「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が日本遺産として認定されるなど、市町村においても歴史・文化の発信を広く行い、地域の活性化を図りました。

□県内の博物館や文化施設などを活用した新たな魅力の掘り起こし

・ちば文化資産の活用【県】[H29～]

県民参加により、多様で豊かなちば文化の魅力の特徴づけるモノ・コトを「ちば文化資産」として選定し、県民等が本県の文化的魅力を再認識するきっかけとしたほか、リーフレット・ロゴマークの作成や、プロモーションビデオ・のぼりの貸出、フォトキャンペーンの開催等を通じて、PR活動を展開しました。また、ちば文化資産を会場や作品のテーマとした「ちばアート祭」を令和元年から3か年にわたって実施し、アートを通じた千葉の文化的魅力の発信を行いました。

・日本遺産の活用【県・佐倉市・成田市・香取市・銚子市】[H28～]

平成28年度に、佐倉・成田・佐原・銚子の四都市が「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」として、文化庁の「日本遺産」に認定されたことから、県及び4市が連携して「日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会」を設立し、プロモーション動画の制作や案内板・解説板の設置、オリジナルロゴマークの作成などを通じて、認定地域を中心とした歴史的魅力を発信しました。また、ワールドカフェ形式で会議を開催し、日本遺産に係る人材の育成にも取り組みました。このほか、県立中央博物館・県立中央図書館が共同で紹介展示を実施したほか、県立房総のむらでは紹介展示と関連講座を実施しました。

・市町村における歴史・文化の発信に関する取組【市町村】[H26～]

多様で魅力的な文化資源を有する本県の魅力発信として、市町村において各地の歴史や文化の発信が行われ、その魅力を多くの人に知ってもらうとともに、地域の活性化を図りました。

[市町村における歴史・文化の発信に関する主な取組]

市町村	取組内容
千葉市	「縄文文化発信サポーターズ」に参加し、加曽利貝塚の出土資料や開催するイベントを紹介したほか、令和元年度には縄文文化発信サポーターズイベントブースに出展 [H30～R2]
	加曽利貝塚来訪者の利便性向上を図るため、園路・サインの改修等、史跡整備を実施 [R2]
	海外からの来訪者増加に備え、加曽利貝塚博物館の常設展示室に英語表記を追加 [R2]
市川市	市にゆかりのある文化人や芸術家を顕彰し、「市川の文化人展」、「文学ミュージアム企画展」、「収蔵作品展」等の開催により広く紹介するなど、芸術・文化活動の促進を図った。
	国の登録有形文化財である旧浅子神輿店と付帯施設の休憩所から成る「行徳ふれあい伝承館」を平成30年7月に開館。神輿をはじめとする行徳の文化・歴史などを紹介・展示。[H30]
木更津市	上総木更津金鈴塚古墳出土品国宝化推進事業公開シンポジウムを開催

## □千葉アイデンティティーの醸成

### ・県民の日行事の実施【県・市町村】[H26～]

ステージやブース出展などを通じて、多くの方に千葉県の魅力を再発見してもらい、県民の千葉アイデンティティーが育まれるよう努めました。

## ○オール千葉で多様な魅力を発信

海外に向けたプロモーション活動として、知事のトップセールスのほか、アジア各国での現地旅行博への出展等により、関係団体が連携した千葉の魅力発信を行いました。また、県内留学生等を「チーバくん大使」に任命し、SNS等を通じて本県観光の魅力を母国に向けて発信してもらいました。

## □オール千葉でのプロモーション

### ・海外でのプロモーション活動【県・事業者】[H26～]

アジア各地域への知事トップセールスに併せて、関係団体・事業者等が千葉県ミッション団として参加し、現地旅行博や現地旅行会社・食品バイヤー等との商談会などを通じて、各地域からの観光客の拡大や県産品の輸出拡大を図りました。また、小売・飲食店等で「千葉フェア」を開催するなど、現地の消費者にも直接、県産農林水産物などをPRしました。

## □草の根情報発信

### ・SNSの活用【県】[H26～] 再掲

チーバくんの発信力を生かし、ツイッター等により千葉県の魅力を発信しました。また、台湾、タイ、マレーシア、シンガポールから大学生やメディアを招請し、SNSを活用して本県観光の魅力を母国に向けて発信してもらったほか、県内留学生等を「チーバくん大使」に任命し、ブログやフェイスブック等を通じて母語での情報発信を実施しました。さらに、「あなたのラブちば教えてキャンペーン」では、投稿していただいた写真やコメントを、キャンペーンサイトやSNSを通じて発信しました。大会期間中には、県民が自宅で大会を楽しめるよう、県の公式ツイッターで千葉県にゆかりのある出場選手などの情報を日々発信するとともに、競技の日程や結果を県のホームページでお知らせするなど、県全体で選手を後押しする機運をつくれるように取り組みました。



## < 参考資料 >

2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議 委員名簿(R4.3.1 時点)

	氏名	現職
会長	熊谷 俊人	千葉県知事
議長	佐久間 英利	千葉県商工会議所連合会 会長
副議長	新倉 涼子	千葉大学名誉教授
	飯沼 喜市郎	千葉県観光物産協会 会長
	井崎 義治	千葉県市長会長 流山市長
	伊藤 稔	ちば国際コンベンションビューロー 代表理事
	今清水 浩介	株式会社幕張メッセ 代表取締役社長
	岩田 利雄	千葉県町村会長 東庄町長
	鵜沢 清永	日本サーフィン連盟千葉東支部 支部長
	大澤 克之助	株式会社千葉日報社 代表取締役社長
	大野 敬三	千葉県スポーツ協会 理事長
	金子 庄吉	千葉県タクシー協会 会長
	京谷 和幸	北京パラリンピック日本選手団 主将
	久保 健	株式会社ベイエフエム 代表取締役社長
	後藤 邦夫	元筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授
	小林 敏也	京成電鉄株式会社 代表取締役社長
	三枝 紀生	千葉県経営者協会 会長
	齋藤 隆	千葉県バス協会 会長
	齋藤 哲二	鴨川シーワールド総支配人
	澤 徹	千葉県レンタカー協会 会長
	篠塚 泉	千葉テレビ放送株式会社 代表取締役社長
	篠原 正人	千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長
	清水 徹也	日本旅行業協会関東支部千葉県地区委員会 委員長
	須田 守	千葉県経済協議会 会長
	平 栄三	千葉県中小企業団体中央会 会長
	田中 俊恵	千葉県警察本部長
	田村 明比古	成田国際空港株式会社 代表取締役社長
	田村 悦智子	日本バレーボール協会 評議員
	富塚 昌子	千葉県教育委員会教育長
	中川 晴美	東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 千葉支社長
	秦 重悦	千葉県商工会連合会 会長
	早川 康一	千葉インバウンド促進協議会 会長
	林 茂壽	千葉県農業協同組合中央会 会長
	細田 美和子	日本放送協会千葉放送局 局長
	前田 伸	株式会社マザー牧場 代表取締役社長
	増田 明美	スポーツジャーナリスト 大阪芸術大学教授
	吉村 雅文	順天堂大学スポーツ健康科学部学部長
	渡辺 淳一	元城西国際大学観光学部 教授

特別アドバイザー

加賀見 俊夫	株式会社オリエンタルランド 代表取締役会長
帖佐 寛章	順天堂大学名誉教授 日本陸上競技連盟顧問

五十音順・敬称略



専門部会の構成団体一覧（R4.3.1時点）

部会名	(0)大会の成功・開催効果の全県への波及	(1)キャンプ・国際大会・MICE誘致	(2)競技力の向上・スポーツの普及	(3)成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化	(4)バリアフリー化の促進	(5)魅力ある観光地づくり
構成団体	県（開催準備課ほか17課） 千葉市 一宮町 (株)幕張メッセ ちば国際コンベンションビューロー 幕張新都心まちづくり協議会 日本旅行業協会関東支部千葉県地区委員会 千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合 千葉県観光物産協会 千葉県園芸協会 成田国際空港 東日本旅客鉄道(株)千葉支社 京成電鉄(株) 千葉県バス協会 千葉県タクシー協会 関東管区警察局 (16)	県（事前キャンプ・大会競技支援課ほか6課） 千葉市 市原市 順天堂大学 国際武道大学 千葉県スポーツ協会 日本旅行業協会関東支部千葉県地区委員会 千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合 千葉県観光物産協会 千葉県障がい者スポーツ協会 ちば国際コンベンションビューロー (株)幕張メッセ (12)	県（事前キャンプ・大会競技支援課ほか5課） 館山市 鴨川市 富里市 千葉県スポーツ協会 千葉県障がい者スポーツ協会 順天堂大学 国際武道大学 帝京平成大学 淑徳大学 (10)	県（開催準備課ほか7課） 成田国際空港(株) 東日本旅客鉄道(株)千葉支社 京成電鉄(株) 千葉県バス協会 千葉県タクシー協会 千葉県レンタカー協会 成田空港活用協議会 東日本高速道路(株)関東支社 首都高速道路(株) (10)	県（開催準備課ほか9課） 佐倉市 流山市 成田国際空港(株) 東日本旅客鉄道(株)千葉支社 京成電鉄(株) 千葉県バス協会 千葉県タクシー協会 千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合 千葉県身体障害者福祉協会 住まいと福祉の会 千葉県障がい者スポーツ協会 (11)	県（観光企画課ほか23課） 富津市 山武市 千葉県観光物産協会 千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合 日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会 鴨川シーワールド(株)マザー牧場 (株)オリエンタル 富洋観光開発(株) ちばプロモーション協議会 千葉県バス協会 千葉県タクシー協会 千葉県レンタカー協会 東日本旅客鉄道(株)千葉支社 京成電鉄(株) 成田国際空港(株) 千葉県商工会議所連合会 千葉県商工会連合会 (23)
	部会名	(6)外国人受入体制	(7)危機管理・安全対策	(8)機運の醸成・国際交流の促進	(9)千葉の魅力発信	
構成団体	県（観光企画課ほか26課） 成田市 芝山町 千葉県観光物産協会 千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合 日本旅行業協会関東支部千葉県地区委員会 千葉インバウンド促進協議会 鴨川シーワールド(株)マザー牧場 (株)オリエンタル 富洋観光開発(株) 千葉県バス協会 千葉県タクシー協会 千葉県レンタカー協会	東日本旅客鉄道(株)千葉支社 京成電鉄(株) 成田国際空港(株) 千葉県商工会議所連合会 千葉県商工会連合会 千葉県中小企業団体中央会 千葉県経営者協会 千葉県医師会 千葉大学 神田外語大学 城西国際大学 ちば国際コンベンションビューロー千葉国際交流センター 千葉県博物館協会 (26)	県（開催準備課ほか12課） 成田国際空港(株) 千葉県医師会 千葉県薬剤師会 成田赤十字病院 千葉県警備業協会 千葉県食品衛生協会 (株)幕張メッセ 千葉県消防長会 (9)	県（開催準備課ほか10課） 船橋市 浦安市 ちば国際コンベンションビューロー千葉国際交流センター 千葉県社会福祉協議会 千葉大学 麗澤大学 神田外語大学 千葉県観光物産協会 千葉県文化振興財団 千葉県博物館協会 (11)	県（報道広報課ほか11課） 日本放送協会千葉放送局 千葉テレビ放送(株) (株)エイエム (株)千葉日报社 (5)	千葉県中小企業団体中央会 千葉県経営者協会 ちば国際コンベンションビューロー 城西国際大学 (23)

## 2020年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議の開催状況

回	開催日	テーマ
1	H26. 11. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議の運営及び専門部会</li> <li>・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた県内における取組状況（報告）</li> </ul>
2	H27. 2. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門部会の設置</li> <li>・（仮称）2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（素案）</li> </ul>
3	H27. 3. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（案）</li> </ul>
4	H27. 7. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年東京オリンピックにおける競技会場の見直し</li> <li>・「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」に係る新たな戦略の策定及び既存の戦略の改訂</li> </ul>
5	H27. 10. 23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（案）</li> <li>・専門部会の取組状況                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①事前キャンプ及び国際大会の開催結果</li> <li>②魅力ある観光地づくり・外国人受入体制専門部会における今後の取組</li> </ul> </li> <li>・2020年に向けた県の取組状況                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けた取組検討調査</li> <li>②県内開催3競技の普及</li> </ul> </li> </ul>
6	H28. 9. 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック・パラリンピックに関する動向                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①東京オリンピックのサーフィン競技</li> <li>②事前キャンプ誘致の取組状況</li> </ul> </li> <li>・千葉県戦略に係る取組状況</li> <li>・リオデジャネイロオリンピック視察報告</li> </ul>
7	H29. 1. 27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック サーフィン競技の開催</li> <li>・東京オリンピック・パラリンピックに向けた行程表</li> <li>・千葉県戦略に係る平成28年度の取組状況</li> </ul>
8	H29. 7. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成</li> <li>・オール千葉の行程表</li> <li>・東京2020大会に向けたボランティア推進方針</li> <li>・オリンピック・パラリンピックを活用した教育の推進</li> </ul>
9	H30. 3. 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催準備の進捗</li> <li>・平成29年度の取組状況</li> <li>・平成30年度の主要事業</li> <li>・平昌2018冬季オリンピック・パラリンピック</li> </ul>
10	H31. 3. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックに係る県内の主な動きについて</li> <li>・取組事例報告等①「みんなで応援！千葉県経済団協議会」②「学生団体おりがみ」</li> </ul>
11	R1. 9. 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組事例報告等①「みんなで応援！千葉県経済団協議会」②「成田空港株式会社」</li> <li>・有識者による講演「組織委員会パラリンピック統括室長 中南 久志 氏」</li> </ul>
12	R2. 3. 26	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止
13	R3. 3. 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」に基づくこれまでの取組（報告）</li> </ul> ※書面開催
14	R3. 11. 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」に基づく取組</li> <li>・オリンピック・パラリンピックのレガシーの活用に係る今後の方向性</li> </ul> ※ウェブ会議によるリモートでの開催
15	R4. 3 (予定)	(調整中)

## 2020年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議 各専門部会の開催状況

部会		回	開催日	備考	テーマ
部会 0	大会の成功・開催効果の全県への波及	1	H27. 7. 7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年東京オリンピックにおける競技会場の見直し</li> <li>・幕張メッセで開催される3競技の概要</li> <li>・「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」の見直し</li> </ul>
		2	H28. 8. 26		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック・パラリンピックに関する動向</li> <li>・大会の成功に向けた取組検討調査</li> <li>・東京オリンピックにおけるサーフィン競技</li> <li>・リオオリンピック視察報告</li> </ul>
		3	H29. 5. 23	部会7と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック・パラリンピックに関する動向</li> <li>・オール千葉の行程表</li> <li>・オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成</li> <li>・サイバーセキュリティ対策</li> </ul>
		4	H30. 5. 24	部会8と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催準備の進捗状況</li> <li>・大会関連ボランティア</li> <li>・機運醸成について</li> </ul>
部会 1	キャンプ・国際大会・MICE誘致	1	H26. 12. 25		<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議及び専門部会について</li> <li>・2020年東京オリンピック・パラリンピックについて</li> <li>・2020年東京オリンピック・パラリンピック決定後の動き</li> <li>・戦略の策定について</li> </ul>
		2	H27. 1. 19		<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプ・国際大会誘致の状況について</li> <li>・戦略（素案）について</li> </ul>
		3	H27. 3. 12	部会2と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略（案）について</li> </ul>
		4	H27. 7. 1	部会2と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年東京オリンピックにおける競技会場の見直し</li> <li>・千葉県スポーツコンベンションの設置</li> <li>・エリア別分科会の設置</li> <li>・「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」の見直し</li> <li>・専門部会1、2で検討していきたいテーマ</li> <li>・今後のスケジュール</li> </ul>
		5	H28. 7. 20	部会2と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピックに関する動き</li> <li>・県内開催競技</li> <li>・事前キャンプ 県内受入状況</li> <li>・今年度の普及振興事業</li> <li>・スポーツコンベンションの昨年度の実績</li> <li>・オリンピック・パラリンピックに向けた競技力の向上</li> <li>・H27年度千葉県戦略に係る「オール千葉」の取組</li> </ul>
		6	H29. 5. 19	部会2と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック・パラリンピックに関する動向</li> <li>・オール千葉の行程表</li> <li>・県内開催競技</li> <li>・事前キャンプ誘致の取組状況</li> <li>・今年度の普及振興事業</li> <li>・スポーツコンベンションの昨年度の実績</li> <li>・オリンピック・パラリンピックに向けた競技力の向上</li> </ul>
		7	H30. 11. 14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンダ特別講演会【2020年その先へもっと知ろうワンダ】</li> </ul>
南房総自転車競技誘致分科会	1	H28. 5. 9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前キャンプ受入れに係る県市の役割分担等</li> </ul>	
	2	H29. 1. 23		<ul style="list-style-type: none"> <li>・蘭自転車競技連盟による視察</li> </ul>	
	3	H29. 7. 6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車を活用したスポーツツーリズムの成功事例等</li> <li>・自転車競技のキャンプ誘致状況</li> <li>・3市1町のスポーツ・観光の取組紹介</li> </ul>	

		4	H29. 9. 12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蘭自転車連盟（及び他競技団体）の視察</li> <li>・ タンデム自転車</li> </ul>
		5	H30. 6. 29		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オランダ自転車チーム強化合宿</li> </ul>
	東金、大網白里、長柄地域キャンプ誘致分科会	1	H28. 5. 18		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分科会設置報告及び座長の選出</li> <li>・ ケア関係者の視察</li> </ul>
		2	H29. 2. 6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視察の際の要望事項や指摘事項等</li> <li>・ ケア大使館からの連絡</li> <li>・ 今後のスケジュール</li> </ul>
		3	H29. 5. 24		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケア側の現在の動向</li> <li>・ 事前キャンプ受入れに係る経費負担</li> </ul>
部会 2	競技力の向上・スポーツの普及	1	H26. 12. 24		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議及び専門部会について</li> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて</li> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック決定後の動き</li> <li>・ 戦略の策定について</li> </ul>
		2	H27. 1. 20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略（素案）について</li> </ul>
		3	H27. 3. 12	部会 1 と合同開催	
		4	H27. 7. 1	部会 1 と合同開催	
		5	H28. 7. 20	部会 1 と合同開催	
		6	H29. 5. 19	部会 1 と合同開催	
部会 3	成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化	1	H26. 12. 25		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議及び専門部会について</li> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて</li> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック決定後の動き</li> <li>・ 戦略の策定について</li> </ul>
		2	H27. 1. 21		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略（素案）について</li> </ul>
		3	H27. 3. 11	部会 4 と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略（案）について</li> </ul>
		4	H27. 7. 2	部会 4 と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年東京オリンピックにおける競技会場の見直し</li> <li>・ 「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」の見直し</li> <li>・ 今後のスケジュール</li> </ul>
		5	H29. 5. 22	部会 4 と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京オリンピック・パラリンピックに関する動向</li> <li>・ オール千葉の行程表</li> <li>・ 大会関係者の輸送、観客及びスタッフの輸送</li> <li>・ 宿泊施設のバリアフリー化に関する検討</li> </ul>
		6	H29. 9. 6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京オリンピック・パラリンピック輸送運営計画に係る確認事項等</li> </ul>
部会 4	バリアフリー化の促進	1	H26. 12. 24		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議及び専門部会について</li> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて</li> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック決定後の動き</li> <li>・ 戦略の策定について</li> </ul>
		2	H27. 1. 19		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略（素案）について</li> </ul>
		3	H27. 3. 11	部会 3 と合同開催	
		4	H27. 7. 2	部会 3 と合同開催	
		5	H29. 5. 22	部会 3 と合同開催	
部会 5 部会 6	魅力ある観光地づくり 外国人受入体制	1	H27. 1. 6	部会 5・6 合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議及び専門部会について</li> <li>・ 戦略の策定について</li> </ul>
		2	H27. 3. 10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた戦略</li> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた具体的取組</li> </ul>
		3	H27. 7. 8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた戦略</li> <li>・ 外国人観光客誘致に向けた専門部会としての取組</li> </ul>

		4	H28. 5. 20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS を活用した外国人観光客ニーズ調査の報告</li> <li>・ オリンピック・パラリンピックに関するこれまでの取組</li> <li>・ 訪日外国人旅行者受入可能医療機関の公表</li> <li>・ 外国人観光客誘致に向けた千葉県周遊ルートの作成</li> </ul>
		5	H29. 5. 29		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人観光客誘致に向けた千葉県周遊ガイドブック</li> <li>・ オリンピック・パラリンピックに関する動向</li> <li>・ オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成</li> <li>・ 訪日外国人旅行者受入可能医療機関の公表</li> <li>・ オール千葉の行程表</li> </ul>
		6	H30. 6. 12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部会員からの報告 (OLC、NAA、佐原商工会議所、千葉県観光物産協会)</li> <li>・ 東京オリンピック・パラリンピックの開催準備の進捗状況について</li> <li>・ 「オール千葉おもてなしアクション」について</li> </ul>
部会 7	危機管理・安全対策	1	H26. 12. 24		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議及び専門部会について</li> <li>・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックについて</li> <li>・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック決定後の動き</li> <li>・ 戦略の策定について</li> </ul>
		2	H27. 3. 11		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略（案）について</li> </ul>
		3	H27. 7. 2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年東京オリンピックにおける競技会場の見直し</li> <li>・ 「2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」の見直し</li> </ul>
		4	H29. 5. 23	部会 0 と合同開催	
部会 8	機運の醸成・国際交流の促進	1	H26. 12. 25		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議及び専門部会について</li> <li>・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックについて</li> <li>・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック決定後の動き</li> <li>・ 戦略の策定について</li> </ul>
		2	H27. 1. 20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略（素案）について</li> </ul>
		3	H27. 3. 11		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略（案）について</li> </ul>
		4	H27. 7. 1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年東京オリンピックにおける競技会場の見直しについて</li> <li>・ 「2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」の見直し</li> </ul>
		5	H28. 7. 29		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H27 年度のオール千葉の取組について</li> <li>・ 大会の成功に向けた取組検討調査について</li> <li>・ 都市ボランティアの取組について</li> <li>・ 文化プログラムの取組について</li> </ul>
		6	H29. 5. 29		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京オリンピック・パラリンピックに関する動向について</li> <li>・ オリンピック・パラリンピックに向けたオール千葉の行程表について</li> <li>・ 参画プログラムについて</li> <li>・ オリンピック・パラリンピックを活用した教育の推進について</li> <li>・ オリンピック・パラリンピック機運醸成期間について</li> </ul>
		7	H30. 5. 24	部会 0 と合同開催	
		8	R1. 5. 21	都市ボランティア分科会と合同開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京 2020 大会に向けたボランティアについて</li> <li>①都市ボランティアについて</li> <li>②外国人おもてなし語学ボランティア育成事業</li> <li>③次世代ボランティア人材育成事業</li> <li>④「#ちょいボラキャンペーン」の運営</li> <li>⑤都市ボランティア参加体験プログラム（≡都市ボラ）</li> <li>・ 東京オリンピック・パラリンピックに係る県内の主な動きについて</li> <li>・ オール千葉おもてなしアクション！について</li> </ul>

	都市ボランティア分科会	1	H28. 1. 25		<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市ボランティア分科会の設置について</li> <li>・東京 2020 大会のボランティアについて</li> <li>・東京 2020 大会に向けたボランティア推進方針の論点整理(案)について</li> </ul>
		2	H29. 5. 29		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京 2020 大会に向けたボランティア推進方針(案)</li> </ul>
		3	H30. 5. 24		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 都市ボランティア募集要項【千葉県】(素案概要)」</li> </ul>
		4	R1. 5. 21	部会 8 と合同開催	
		5	R1. 11. 20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年度の取り組みについて (報告)</li> <li>・千葉県都市ボランティア体験プログラム募集要項について</li> </ul>
部会 9	千葉の魅力発信	1	H27. 1. 7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議及び専門部会について</li> <li>・部会長の選出</li> </ul>
		2	H27. 1. 19		<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略(素案)について</li> </ul>
		3	H27. 7. 8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技会場の見直しについて</li> <li>・戦略の見直しについて</li> </ul>
		4	H29. 5. 31		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックに関する動向</li> <li>・ホール千葉の行程表</li> </ul>
		5	R2. 3. 18	※書面開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックに係る県内の主な動きについて</li> <li>・東京 2020 大会に向けた「戦略 9 戦略的な千葉の魅力の発信」について</li> </ul>

## 2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議設置要綱

### (設置)

第1条 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を本県の一層の発展につなげ、その効果を次世代にしっかりと引き継ぐため、官民が一体となった「オール千葉」体制により、未来に向けた「人づくり」と「共生社会」の実現、経済の活性化、「国際社会の中で発展するCHIBA」を実現することを目的として、県、市町村や民間企業、団体、大学などが互いに取組の方向性を共有し、情報共有及び連携した取組を行う組織として、「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」(以下「推進会議」という。)を設置する。

なお、推進会議は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

### (所掌事務)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項を行う。

(1) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組の基本方針(以下「基本方針」という。)に基づき、官民連携による取組を実施するための戦略の策定・推進を統括すること。

(2) その他、戦略の策定・推進に必要な事項。

### (組織)

第3条 推進会議は、会長、議長、副議長及び次に掲げる者のうちから会長が依頼した者(以下「委員」という。)をもって組織する。

(1) 県及び市町村の代表者

(2) 経済、スポーツ、観光、交通、文化、国際交流、千葉の魅力発信及びその他の関係機関・団体の役職員

(3) 学識経験を有する者

(4) その他会長が特に必要と認める者

2 会長は、千葉県知事をもって充てる。

3 議長及び副議長は、委員のうちから会長が指名する。

4 委員が依頼時におけるそれぞれの所属機関・団体の役職を離れたときは、その後任者が委員を務めるものとする。

5 会長は、委員に特別の事情が生じたときは、その職を解き、必要に応じて委員を補充することができる。

### (専門部会)

第4条 会長は、戦略の策定・推進のための具体的な事業の検討・実施に当たり、専門部会を設置することができる。

2 専門部会の運営については、別に定める。

#### (会議)

第5条 会議は、会長が招集し、議長が議事・運営を統括する。

2 会長に事故あるときは議長が、会長及び議長に事故あるときは副議長が、その職務を代理する。

3 委員に事故あるときは、あらかじめ委員が指名した者を出席させることができる。

4 第3条の規定にかかわらず、会長は、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

#### (会議の公開)

第6条 会議は、原則として公開するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合であって、推進会議の決定により会議の一部又は全部を公開しない旨を決定した場合は、この限りではない。

(1) 千葉県情報公開条例(平成12年千葉県条例第65号)第8条に規定する不開示情報が含まれる事項に関して審議を行う場合

(2) 会議を公開することにより、当該会議の公正かつ円滑な議事運営等に著しい支障が生ずると認められる場合

#### (会議公開の方法)

第7条 会議の公開は、議場の大きさによりあらかじめ傍聴定員を定め、会場に一定の傍聴席を設け、希望する者に傍聴を認めることにより行う。

2 傍聴の受付は、原則として事前申込によるものとする。なお、傍聴希望者が定員を上回った場合は申込順により傍聴人を決定する。

3 事前申込で傍聴定員に満たない場合は、会場において、当日申込を受け付ける。当日申込は先着順で行い、定員になり次第、又は会議の開会5分前に受付を終了する。

4 傍聴者には、会議資料を提供するとともに、会議を公正・円滑に運営するため、別紙「傍聴要領」を交付し、会場の秩序維持に努めるものとする。

#### (会議開催の周知)

第8条 会議の開催に当たっては、事前に開催日時、会議名、議題、開催場所、問い合わせ先(担当課、連絡先、傍聴定員、傍聴手続方法)を、県ホームページに掲載し、県民への周知を図るものとする。

#### (会議結果の公開)

第9条 会議結果については、推進会議の決定により会議の一部又は全部を公開しない旨を決定した場合を除き、原則公開とし、会議終了後県ホームページに掲載するものとする。



(事務局)

第10条 推進会議の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は千葉県環境生活部オリンピック・パラリンピック推進局開催準備課とし、課長を事務局長とする。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、推進会議に関し、必要な事項は知事が定める。

附 則

この要綱は、平成26年11月4日から施行する。

この要綱は、平成28年4月6日から施行する。

この要綱は、平成30年4月10日から施行する。

## 2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議 専門部会設置・運営要領

### (目的)

第1条 この要領は、2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議（以下「推進会議」という。）設置要綱第4条第1項の規定により置くことができる専門部会（以下「専門部会」という。）について、同条第2項の規定により設置・運営に関して必要な事項を定めるものとする。

### (所掌事務)

第2条 専門部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組の基本方針を推進するため、推進会議が行う戦略の策定・推進に当たり、専門的な見地から検討を行うこと。
- (2) 戦略に基づく取組を推進するため、関係する諸団体間の円滑な連携・協力を図ること。
- (3) その他、戦略の策定及び取組の推進に必要な事項。

### (専門部会の組織)

第3条 専門部会の組織は、次のとおりとする。

- (1) 専門部会は、部会長と委員をもって構成する。
- (2) 部会長は、委員の互選により定める。
- (3) 部会長は、専門部会を代表し、その事務を総括する。
- (4) 部会長は、専門部会を招集し、その議長となる。
- (5) 部会長に事故あるときは、部会長が指名した者がその職務を代理する。
- (6) 専門部会には、事務局を置くものとする。

### (専門部会の構成)

第4条 専門部会の構成は、部会長が定める。

2 部会長は、専門部会を設置した時は、別紙様式より推進会議事務局に報告するものとする。

3 部会長は、必要があるときは、委員以外の者を専門部会に出席させることができる。

### (分科会)

第4条の2 部会長は、専門部会に分科会を置くことができる。

2 分科会は座長及び委員をもって構成し、運営は座長が定める。

3 部会長は、分科会を設置した時は、別紙様式により推進会議事務局に報告するものとする。

(その他)

第5条 この要領に定めるもののほか、専門部会の運営に関し必要な事項は、部会長が別に定める。

#### 附則

この要領は、平成26年11月4日から施行する。

この要領は、平成27年4月28日から施行する。

#### 別紙様式 設置報告書

名 称	
目 的	
部会長	氏 名： 所属及び職名： 連絡先：住 所 電 話 F A X e-mail
事務局	所 属： 担当者職氏名： 連絡先：住 所 電 話 F A X e-mail
委 員	氏 名： 所属及び職名： 連絡先：住 所 電 話 F A X e-mail
	氏 名： 所属及び職名： 連絡先：住 所 電 話 F A X e-mail
	氏 名： 所属及び職名： 連絡先：住 所 電 話 F A X e-mail

※委員の欄は必要に応じて適宜追加してください。

※本様式を分科会設置報告書として使用するときは、「部会長」の項目を「座長」に置き換えることとする。